平成11年度　ヌエック（国立婦人教育会館）

# 主催事業実施報告書

研　修

交　流

調査研究

情　報

会場を埋めつくす参加者

和室での文化活動

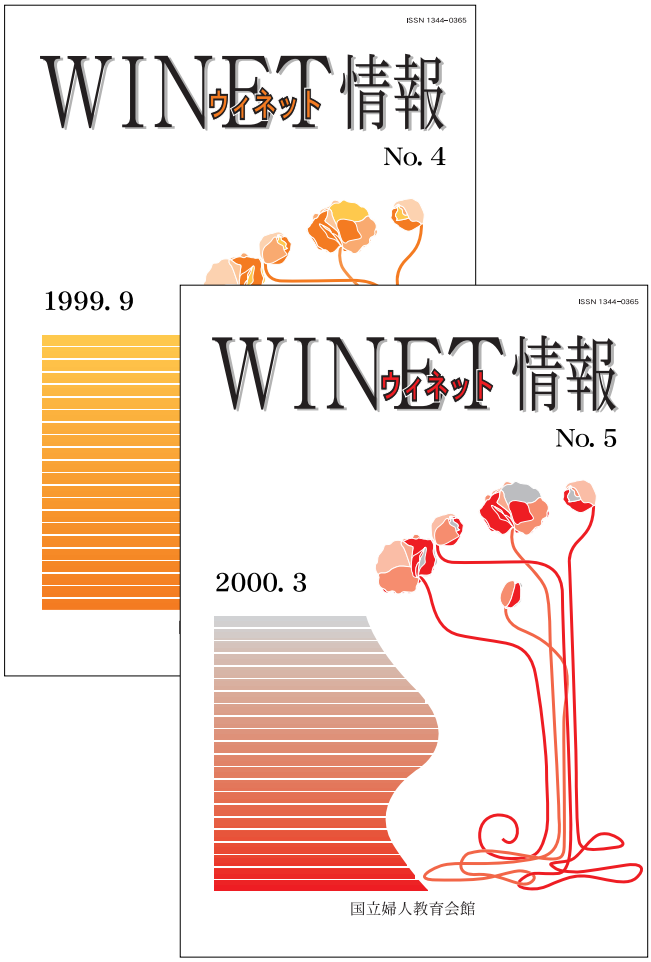
情報検索を行う
海外からの参加者

活発に討論の行われたグループワーク

## 国立婦人教育会館研究紀要（第３号）

ヌエックの調査研究事業の成果を発表し婦人教育の発展に寄与するとともに、投稿論文を募集するなどジェンダーの視点に立った生涯学習に関する研究の発表の場を広げることを目的として平成９年度より刊行しております。

第３号のテーマは「ジェンダーと生涯学習」で、９本の論文・研究ノートと平成１０年度公開シンポジウムの収録及び４本の書評・文献解題を掲載し、関係大学、都道府県等教育委員会、婦人教育関係施設及び女性団体、その他の関係機関等へ配布しました。




## ＷＩＮＥＴ情報（第４号，第５号）

女性・家族に関する文献情報及び情報センター利用に関する情報を中心に会館からの情報をわかりやすく提供しております。

都道府県教育委員会、婦人教育施設及び女性団体、関係大学図書館、その他の関係機関等へ配布しました。

# 人教育会館作成資料

## 開館２０周年記念
## 平成9年度女性と生涯学習国際フォーラム報告書

平成９年１１月に国内外から５４１名の参加者を迎え、開館２０周年記念事業として開催された「女性と生涯学習国際フォーラム」の成果をまとめたものです。この報告書は、第１部（日英対訳）が、シンポジウムと分科会報告及び全体会、第２部（英語または日本語）が、分科会における専門家の発表用原稿から構成されています。

都道府県等教育委員会、国際関係機関及び国際団体、婦人関連施設及び女性団体、その他関係機関に配付しました。

## 女性学・ジェンダー研究フォーラム報告書

平成１１年８月６(金)～８(日)に開催された「女性学・ジェンダー研究フォーラム」の成果をまとめたものです。本フォーラムは、２,０５７名の参加者を得、９６件の自主企画のワークショップが開催されました。この報告書には、その９６件のワークショップの概要・まとめ・評価及び主催者企画プログラムとして「変革への力にどう生かす！－男女共同参画社会基本法－」をテーマに行われたシンポジウムの概要を掲載しております。ワークショップ主宰者、参加者（希望者）、都道府県等教育委員会、婦人教育関係施設及び女性団体、その他関係機関に配布しました。

## 家庭教育推進方策　ブックレット

平成１０年度から、文部省の委嘱を受け「男女共同参画の視点に立った家庭教育推進方策に関する調査研究」を実施しております。この研究成果をもとに、男女共同参画の視点に立って家庭教育に関する生涯学習関係事業を企画・実施するための参考資料となるブックレット「男女共同参画、はじめの一歩を家庭から―家庭教育推進のための理論と実践―」を作成しました。

都道府県等教育委員会、婦人教育関係施設及び女性団体、その他関係機関に配布しました。

# 目　次

▽はじめに……1

▽研修事業
婦人教育施設職員のためのセミナー……2
教師のための男女平等教育セミナー……8
海外婦人教育情報専門家情報処理研修事業……14
家庭・地域で担う子育て支援セミナー……20
フォーラム家庭教育……24
男女共同参画学習推進フォーラム……26
女性関連施設等情報ネットワーク研究協議会……32
NWEC（国立婦人教育会館）アドバンストコース……34
公開講演会……40
女性の教育問題担当官セミナー……42

▽交流事業
女性学・ジェンダー研究フォーラム……48
男女共同参画学習フェスティバル '99 in ヌエック……56
NWEC（国立婦人教育会館）国際フォーラム……62

▽調査研究事業
ヌエック（国立婦人教育会館）公開シンポジウム……68
高齢社会に向けての男女共同参画学習に関する調査研究……72
地域の子育て環境づくりに関する調査研究……74
男女共同参画の視点に立った家庭教育推進方策に関する調査研究……76
NWEC女性情報ニューシステム<WinetＣＡＳＳ>……78
家庭教育に関するマルチメディアデータベースの調査研究……80

全国ボランティア情報提供・相談窓口事業……82

社会教育実習生等受入事業……86

ヌエック（国立婦人教育会館）におけるボランティアの活動……88

# ●●●●●●●●●●●はじめに●●●●●●●●●●●

国立婦人教育会館は、婦人教育・家庭教育の振興を図ることを目的として、女性の自発的学習を促進するための学習機会を提供する研修、ネットワークの充実を目指して、国内外の婦人教育関係者及び男女共同参画社会の実現に関心を持つ人々に交流の機会を提供する交流、女性、家庭・家族についての国内外の資料や情報を収集・整理して提供する情報、婦人教育、家庭教育に関する専門的な調査研究を実施する調査研究の４つの機能をもった社会教育施設です。

当会館では、これらの機能の充実・発展を図り、男女共同参画社会の実現を目指して、今日の女性及び家庭、地域社会が抱えるさまざまな課題を取りあげ事業を実施しております。今年度は「エンパワーメントは２１世紀への合言葉－新たなる共生をめざして－」の総合テーマのもと、研修事業では従来の「女性の生涯学習のための地域セミナー」を発展・改組して「男女共同参画学習推進フォーラム」を実施し、交流事業では新たに男女共同参画社会の形成に向けた学習・活動を行っている全国の団体・グループを対象とした「男女共同参画学習フェスティバル」を実施いたしました。また、情報事業では、女性関連施設等とのネットワークの形成を図り、ＮＷＥＣ女性情報システムの更新・充実を行いました。調査研究事業では新たに２年計画により「高齢社会に向けての男女共同参画学習に関する調査研究」に着手いたしました。

このほか、文部省から委嘱を受けて平成１０年度から実施している「男女共同参画の視点に立った家庭教育推進方策に関する調査研究」においては、今年度は家庭教育関係行政担当者及び指導者向けのブックレットを作成いたしました。また、今年度より「全国ボランティア情報提供・相談窓口事業」を新たに委嘱され、データベースを作成し、電話相談を開始いたしました。

このたび、これらの事業の概要をまとめ「平成１１年度ヌエック（国立婦人教育会館）主催事業実施報告書」として作成いたしました。調査研究事業等の報告書と併せ、当館への一層の御理解、御支援を得たく、関係の皆様に御活用いただければ幸いです。

平成１２年３月

国立婦人教育会館長　大　野　　曜

# 婦人教育施設職員のためのセミナー

## 1　趣　旨

男女共同参画社会を目指した生涯学習の促進のため、公私立婦人教育会館・女性センター等の職員として必要な知識・技術を高めるための専門的・実践的な研修を行い、施設職員としての資質向上を図る。

## 2　主　題

「女性のエンパワーメントと婦人教育施設
－２１世紀へ向けた男女共同参画社会づくりを目指して」

## 3　期　日

館長コース　：　平成１１年６月８日（火）～　９日（水）　　１泊２日
職員コース　：　平成１１年６月８日（火）～１１日（金）　　３泊４日

## 4　参加者

参加者総数　　１４２名（女性１１１名　男性３１名）
　館長コース　　２６名（女性　２０名　男性　６名）
　職員コース
　・企画担当コース　　９１名（女性　７２名　男性１９名）
　・情報担当コース　　２５名（女性　１９名　男性　６名）

### (1)　年齢層別

人(%)

| | 20歳代 | 30歳代 | 40歳代 | 50歳代 | 60歳代以上 | 合　計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 女 性 | 17 (22) | 14 (18) | 23(30) | 19 (25) | 4 ( 5) | 77(100) |
| 男 性 | 1 ( 5) | 7 (37) | 8 (42) | 3 (16) | - ( -) | 19(100) |
| 合 計 | 18 (19) | 21(22) | 31 (32) | 22 (23) | 4 ( 5) | 96(100) |

熱心な参加者を得てセミナーを開催

修了証書授与

## (2) 年代別

館長コース　　人(%)

| | 40歳代 | 50歳代 | 60歳代 | 合　計 |
|---|---|---|---|---|
| 女 性 | 3 (15) | 15 (75) | 2(10) | 20 (100) |
| 男 性 | - ( -) | 4 (67) | 2 (33) | 6 (100) |
| 合 計 | 3 (12) | 19(73) | 4 (15) | 26 (100) |

企画担当コース　　人(%)

| | 20歳代 | 30歳代 | 40歳代 | 50歳代 | 60歳代 | 70歳代 | 合　計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 女 性 | 12 (17) | 19 (26) | 17 (24) | 18 (25) | 5 ( 7) | 1 ( 1) | 72(100) |
| 男 性 | 1 ( 5) | 9 (47) | 6 (32) | - ( -) | 3 (16) | - ( -) | 19(100) |
| 合 計 | 13 (14) | 28 (31) | 23 (25) | 18 (20) | 8 ( 9) | 1 ( 1) | 91(100) |

情報担当コース　　人(%)

| | 20歳代 | 30歳代 | 40歳代 | 50歳代 | 合　計 |
|---|---|---|---|---|---|
| 女 性 | 5 (26) | 7 (37) | 6 (32) | 1 (5) | 19(100) |
| 男 性 | 2 (33) | 2 (33) | 2 (33) | - (-) | 6(100) |
| 合 計 | 7 (28) | 9 (36) | 8 (32) | 1 (4) | 25(100) |

## (3) 所属別

館長コース　　人(%)

| | 管理運営者が教育委員会 | 管理運営者が首長部局 | 管理運営者が民法第34条法人等 | 私　立 | 合　計 |
|---|---|---|---|---|---|
| 女 性 | 7 (35) | 5 (25) | 8 (40) | ー (ー) | 20 (100) |
| 男 性 | 2 (33) | 1 (17) | 3 (50) | ー (ー) | 6 (100) |
| 合 計 | 9 (35) | 6 (23) | 11 (42) | ー (ー) | 26 (100) |

企画担当コース　　人(%)

| | 管理運営者が教育委員会 | 管理運営者が首長部局 | 管理運営者が民法第34条法人等 | 私　立 | 合　計 |
|---|---|---|---|---|---|
| 女 性 | 26 (36) | 13 (18) | 31 (43) | 2 (3) | 72 (100) |
| 男 性 | 5 (26) | 2 (26) | 9 (47) | ー (ー) | 19 (100) |
| 合 計 | 31 (34) | 18 (20) | 40 (44) | 2 (2) | 91 (100) |

情報担当コース　　人(%)

| | 管理運営者が教育委員会 | 管理運営者が首長部局 | 管理運営者が民法第34条法人等 | 私　立 | 合　計 |
|---|---|---|---|---|---|
| 女 性 | 5 (26) | 8 (42) | 6 (32) | ー (ー) | 19 (100) |
| 男 性 | 2 (33) | 2 (33) | 2 (33) | ー (ー) | 6 (100) |
| 合 計 | 7 (28) | 10 (40) | 8 (32) | ー (ー) | 25 (100) |

## 5　プログラムの概要

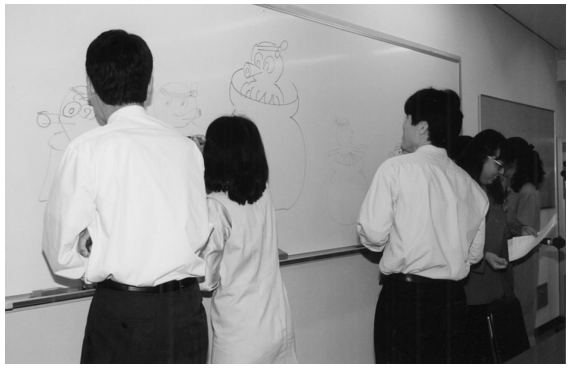
| 日 | 時 間 | | 種類 | 内　　容 | 講 師 等 |
|---|---|---|---|---|---|
| 〔館長コース〕 | | | 〔企画担当職員コース〕〔情報担当職員コース〕 | | |
| 第１日（６月８日） | 13:00<br>～<br>13:20 | 女性政策 | | 開 会<br>１．主催者挨拶<br>２．オリエンテーション | |
| | 13:30<br>～<br>15:00 | | 講義 | 「２１世紀の扉を開く　－男女共同参画社会の形成に向けた国内的・国際的動向」<br>　１９７５年の国際婦人年、国際婦人の１０年を契機として取り組まれてきた女性の地位向上、男女共同参画社会の形成について、北京会議、男女共同参画社会基本法、女性２０００年会議等、国内外の動向について情報を得た。 | 有馬真喜子<br>財団法人 横浜市女性協会理事長 |
| | 15:15<br>～<br>16:15 | | グループ討議 | 館長コース、企画担当職員コース、情報担当職員コースの３コースに分かれ、現在自分が抱えている仕事上の問題点やこのセミナーに何を期待するかを話し合い、参加目的を明確にすることを試みた。 | |
| | 16:30 | | 見学<br>希望者のみ | 施設見学 | ヌエックボランティア |
| | 18:00<br>～<br>19:30 | | 情報交換 | 情報交換会<br>　夕食を共にしながら、自己紹介等を行い、交流を図った。 | |
| | 19:30 | | 自由交流 | | |

館長コース

企画担当職員コース

| 日 | 時間 | | 種類 | 内容 | 講師等 |
|---|---|---|---|---|---|
| 第2日（6月9日） | 〔館長コース〕 | | 〔企画担当職員コース〕〔情報担当職員コース〕 | | |
| | 9:00<br>～<br>10:20 | 男女共同参画社会の形成に向けた婦人教育・家庭教育の今日的課題 | 講義<br>３コース共通 | 「女性のエンパワーメントと婦人教育施設」<br>エンパワーメントとは、女性自身が力をつけ、連帯して行動することによって、自分が置かれた不利な状況をかえていこうとすることである。また女性を最も深いところで無力化している権力とその作用を把握し、女性の変革能力を引き出すプロセスである。 | 上村千賀子<br>群馬大学教授 |
| | 〔館長コース〕 | | | | |
| | 10:30<br>～<br>15:00 | | 研究協議 | 「管理・運営に関する諸問題」<br>日頃施設の管理・運営をすすめるうえで、抱えている諸問題として、①館長としてはじめて女性行政を担当することの不安、②女性学講座の停滞、③組織の複雑性と女性関連施設の独自性について、④施設の有効利用、等が出され、その解決策について研究協議した。 | 林　のぶ<br>静岡市教育委員 |
| | 15:00 | | | 閉 会<br>主催者挨拶 | |
| | 〔企画担当職員コース〕〔情報担当職員コース〕 | | | | |
| | 10:30<br>～<br>12:00 | | 講義・グループ討議<br>２つのうちの一つを選択 | Ⅰ「婦人教育の今日的課題」<br>国立婦人教育会館の研究事業からみた婦人教育の今日的課題について情報を得た後、自分の抱える課題についてグループ講義を行った。 | コースリーダー<br>伊藤眞知子<br>国立婦人教育会館<br>事業課研究員 |
| | | | | Ⅱ「家庭教育の今日的課題」<br>国立婦人教育会館の研究事業からみた家庭教育の今日的課題について情報を得た後、自分の抱える課題についてグループ講義を行った。 | コースリーダー<br>中野 洋恵<br>国立婦人教育会館<br>事業課主任研究官 |
| | 13:30<br>～<br>15:00 | 女性情報 | 講義 | 「情報リテラシーを高める<br>～女性施設から“女性情報館”への期待～」<br>メディアからの情報を主体的に読み解き使いこなす能力、そしてメディアを活用して自分自身の考えを表現していく能力、さらにはジェンダーに敏感な視点を身につけることの重要性を学んだ。 | 結城美恵子<br>インフォメーション プランニング代表 |
| | 〔企画担当職員コース〕 | | | | |
| | 15:15<br>～<br>17:00 | | 自由研究 | 参加者が設定したテーマをもとに、自由研究を深めた。主催者提供プログラムとして、①ヌエックボランティアとの交流・実技実習、②施設見学、③周辺散策、等を開催した。 | ヌエックボランティア |
| | 〔情報担当職員コース〕 | | | | |
| | 15:15<br>～<br>17:00 | | 講義・見学・実習 | 「利用者のニーズに添った<br>女性情報の提供について Ⅰ」<br>国立婦人教育会館の提供するさまざまなデータベース（ＷＩＮＥＴ）を使って、実際に事例発表をする実習を体験した。 | 国立婦人教育会館<br>情報交流課職員 |
| | 〔企画担当職員コース〕〔情報担当職員コース〕 | | | | |
| | 19:30<br>～ | | 自由交流 | | |

| 日 | 時間 | | 種類 | 内容 | 講師等 |
|---|---|---|---|---|---|
| 〔企画担当職員コース〕 | | | | | |
| 第3日（6月10日） | 9:00<br>～<br>17:00<br>４つのうち一つを選択する | 男女共同参画社会の形成に向けた教育・学習の課題と方策研究 | ワークショップ | A「婦人教育に関する学習プログラムの企画・立案」<br>参加者体験型学習を体験し、グループでテーマを決めて講座プログラムを企画・立案した。一人ではなく皆の意見をまとめ挙げていくプロセスを味わい「住民企画方式」の可能性も促された。 | 米田 禮子<br>グループみこし<br><br>コーディネーター<br>伊藤眞知子<br>国際婦人教育会館<br>事業課研究員 |
| | | | ワークショップ | B「家庭教育に関する学習プログラムの企画・立案」<br>学習プログラム作成上の基本的視点とは、閉ざされた家族・子育てから開かれた家族・子育ての協同をめざすことである。その視点を入れたプログラムを企画し、ロールプレイで疑似体験した。 | 山本 健慈<br>和歌山大学生涯学習教育センター長教授<br><br>コーディネーター<br>中野 洋恵<br>国際婦人教育会館<br>事業課主任研究官 |
| | | | ワークショップ | C「ファシリテーター（学習支援者）と施設職員の役割」<br>ファシリテーターの役割は、参加者の自己決定性の尊重とはいうものの、参加者をあるがまま受入れてその自発性を尊重するだけでなく、教え込むとは異なる何らかの積極的な働きかけが必要。 | 三輪 建二<br>お茶の水女子大学助教授<br><br>コーディネーター<br>小林千枝子<br>国際婦人教育会館<br>事業課専門職員 |
| | | | ワークショップ | D「プレゼンテーション能力を鍛える」<br>プレゼンテーションとは何か、プレゼンテーションのwhy what how、誰にも身につく具体的ポイントを学び、実際に５分間のプレゼンテーションを行い、多くの参加者のアドバイスを受けた。 | 内山 早苗<br>内山工房代表取締役<br><br>コーディネーター<br>金　朝子<br>国際婦人教育会館<br>事業課専門職員 |
| | 〔情報担当職員コース〕 | | | | |
| | | 女性情報 | 情報提供と実習 | 「利用者のニーズに添った女性情報の提供について Ⅱ」<br>国立婦人教育会館の提供するさまざまなデータベース（ＷＩＮＥＴ）を使って、実際に事例発表をする実習を体験した。 | 国立婦人教育会館<br>情報交流課職員 |



情報担当職員コース

| 日 | 時 間 | | 種類 | 内　　容 | 講 師 等 |
|---|---|---|---|---|---|
| 第4日（6月11日） | 〔企画担当職員コース〕 | | | | |
| | 9:00<br>～<br>12:00 | まとめ・評価 | 発表 | ①　各ワークショップの成果の発表<br>第３日のワークショップの概要と成果の発表<br>（１ワークショップ　７分）<br><br>②　まとめと講評<br>第３日の講師によるまとめと講評<br><br>③　ひと言発言<br>参加者が今回の研修で考えたこと、確認したことを述べた（ひとり　２分） | 各ワークショップ参加者<br><br>米田　禮子<br>山本　健慈<br>三輪　建二<br>内山　早苗<br>司会：小林千枝子 |
| | 〔情報担当職員コース〕 | | | | |
| | | | グループ討議 | ①　日頃感じている女性情報のニーズやネットワークの形成について、具体例を出しながらグループ討議を行う。 | |
| | | | 全体会 | ②　討議内容を報告し、成果を皆で共有する。 | |
| | 12:00 | | | 閉　会 | |

## 6　今後の課題・展望等

（１）全体プログラム（館長・職員コース共通）である「男女共同参画社会の形成に向けた国内外の動向」及び「女性のエンパワーメントと婦人教育施設」の講義は、女性関連施設としての役割を再認識するうえで、効果的であった。

（２）参加者より、「コース別研修とすることで、職務によって異なる課題等が深まり、その解決策や専門性が身につくとともに、ネットワークづくりがより積極的にできた」と好評であった。

（３）企画担当職員コースでは、選択プログラムとして①プログラムの企画・立案、②ファシリテーターとしての講座等へのかかわり方、③プレゼンテーション能力を身につけるという、より専門性の高い内容とした。参加者には、モデルプログラムとして評価が高かった。

（４）情報担当職員コースについては、ＷＩＮＥＴについて理解を深め活用してもらえる内容であった。今後、新しいメディアの急速な開発と普及に伴い、施設においてもそれを取り入れ、活用する能力がますます必要となることから、より実践的な研修プログラムが求められる。

（事業課専門職員　小林千枝子　　情報交流課専門職員　池田　淑子）

# 教師のための男女平等教育セミナー

## 1　趣　旨

男女共同参画社会の形成に向け、教師の生涯学習の一環として、学校教育における人権尊重、男女平等に関する指導の充実及びジェンダー（社会的・文化的につくられた性別）に敏感な視点の定着と深化に資する実践的な研修を行う。

## 2　主　題

「学校教育の中のジェンダー／男女平等教育を考える」

## 3　期　日

平成１１年7月２２日（木）～２４日（土）２泊３日

## 4　参加者

１３３名（女性９９名　男性３４名）

### (1)　年代別

(人)

| | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 女　性 | 1 | 12 | 52 | 33 | 1 | 99 |
| 男　性 | | 9 | 13 | 12 | | 34 |
| 計 | 1 | 21 | 65 | 45 | 1 | 133 |

### (2)　職名別

(人)

| 職　名 | 小学校 | 中学校 | 高　校 | 養護学校 | 教育委員会 | 教育研究所・研修センター | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 校　長 | 5 | | 1 | 1 | | | 6 |
| 教　頭 | 5 | | | 1 | | | 7 |
| 教　諭 | 47 | 34 | 18 | 1 | | | 100 |
| 養護教諭 | 1 | 2 | | | | | 3 |
| 指導主事 | | | | | 12 | 3 | 15 |
| 社会教育主事 | | | | | 1 | | 1 |
| 研修指導員 | | | | | 1 | | 1 |
| 総　計 | 58 | 36 | 19 | 3 | 14 | 3 | 133 |

### (3)　地域別

(人)

| 都道府県 | 女性 | 男性 | 都道府県 | 女性 | 男性 | 都道府県 | 女性 | 男性 | 都道府県 | 女性 | 男性 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 北海道 | 1 | | 神奈川県 | 4 | | 大阪府 | 4 | 2 | 長崎県 | 3 | 2 |
| 青森県 | 2 | | 新潟県 | 2 | | 兵庫県 | 3 | 1 | 熊本県 | 9 | |
| 宮城県 | 1 | | 富山県 | 1 | | 奈良県 | 2 | | 大分県 | 1 | |
| 福島県 | 2 | | 山梨県 | 3 | | 岡山県 | 3 | 1 | 宮崎県 | 1 | 2 |
| 茨城県 | 1 | | 長野県 | | 2 | 山口県 | 1 | 1 | 鹿児島県 | 1 | 1 |
| 栃木県 | 1 | | 岐阜県 | | 2 | 徳島県 | 2 | 1 | 仙台市 | 1 | 5 |
| 群馬県 | 1 | 1 | 静岡県 | 4 | 1 | 香川県 | 1 | | 千葉市 | | 1 |
| 埼玉県 | 12 | 2 | 愛知県 | 3 | 1 | 高知県 | 1 | | 横浜市 | 1 | |
| 千葉県 | 6 | 2 | 三重県 | 3 | 1 | 福岡県 | 1 | 2 | 京都市 | 2 | |
| 東京都 | 9 | 3 | 滋賀県 | 4 | | 佐賀県 | 1 | | 大阪市 | 1 | |

## 5　プログラムの概要

**第１日目　7月22日（木）**

**(1)　開会**　**10:30～10:45**

①主催者あいさつ　　国立婦人教育会館長　　大　野　　曜

②日程及び資料説明　事業課専門職員　　金　　朝　子

**(2)　講義**　**10:50～12:00**

男女共同参画社会の実現に向けた国の動向を知る。

講義「男女共同参画社会の実現に向けて」

講師　　文部省生涯学習局男女共同参画学習課長　　有　松　育　子

**(3)　講演と討議**　**13:00～15:45**

男女平等を推進する教育に関する最新情報を聞き、自分自身の中にある男女平等意識を振りかえる。

講演「学校教育をジェンダーの視点から見直す」

講師　　十文字学園女子大学社会情報学部助教授　　亀　田　温　子

**(4)　分科会Ⅰ（事例報告）**　**16:00～17:30**

各学校・教育委員会での、男女平等を推進する教育に関する実践や課題を話し合うことで、参加目的をはっきりする。

**(5)　情報交換会**　**18:30～20:00**

夕食を共にしながら参加者相互の自己紹介等を行い、情報交換する。

**(6)　自由交流**　**20:00～**

各自が自由にテーマや話題を設定し、交流を図る。

**第２日目　7月23日（金）**

**(1)　分科会Ⅱ**　**9:00～12:30**

「学校教育現場をジェンダーの視点で見直す」

様々な学校教育現場をジェンダーの視点で見直すことにより、現状と課題を明らかにする。

Ａ「道徳指導をジェンダーの視点で考える」

助言者　神戸大学発達科学部教授　　朴　木　佳緒留

Ｂ「性に関する指導をジェンダーの視点で考える」

助言者　高知大学教育学部教授　　池　谷　壽　夫

Ｃ「学級運営をジェンダーの視点で考える」

助言者　東京学芸大学教育学部教授　　村　松　泰　子

Ｄ「進路指導をジェンダーの視点で考える」

助言者　お茶の水女子大学文教育学部教授　　耳　塚　寛　明

**(2)　全体会**　**14:00～16:30**

各分科会の報告を聞き、課題等を共有する。

**(3)　施設見学案内又は婦人教育情報センター利用**　**16:30～17:30**

**(4)　自由交流**　**19:30～**

各自が自由にテーマや話題を設定し、交流を図る。

**3日目　7月24日（土）**

**(1)　分科会III**　　**9:00～11:10**

「男女平等を推進するための学校教育における課題解決にむけて」

男女平等を推進するための学校教育における課題を明らかにし、それぞれの立場で実践に結び付く解決方策を考える。

Ａグループ（小学校）
Ｂグループ（小学校）
Ｃグループ（中学校）
Ｄグループ（高校）
Ｅグループ（指導主事・研修主事・管理職等）

助言者　お茶の水女子大学ジェンダー研究センター教授　　舘　　かおる

**(2)　ひとこと発言**　　**11:20～11:50**

参加者が本セミナーで考えたこと、感じたことを発表する。

**(3)　閉会**　　**11:50～12:00**

主催者あいさつ　国立婦人教育会館長　　大　野　　曜

## 6　主なプログラムの内容

### (1)　講義「男女共同参画社会の実現に向けて」

男女共同参画社会基本法は、２１世紀を目前にし、豊かで活力ある社会を築き一人一人が尊重される社会の枠組みとなる法律である。男女共同参画社会とは、男女が社会の対等な構成員として、自らの意志によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、ともに責任を担うべき社会のことである。学校教育を含め、全ての場面で男女共同参画社会の実現がなされるべきであり、国の最重要課題である。

文部省としては、男女共同参画を推進し、多様な選択を可能にする教育・学習の充実を図っていくこととし、学習指導要領の改訂に当たっては、中学校の特別活動、公民科、家庭科等において、男女か相互に協力しての家族の一員としての役割を果たし、家庭を築くことの重要性、職業生活や社会参加において対等な構成員であることの指導・充実、また、小学校の性に関する教育・指導の充実を図るよう留意した。

**講義をする有松氏**

**講演をする亀田氏**

### (2) 講演「学校教育をジェンダーの視点から見直す」

視点を変えて負けジャンケン

新たな時代に向けて、教育の動きは何を示しているのだろうか。今までの教育は、集団形成のための教育であったが、これからは、自己決定の力を持つ市民をつくることが大切であり、縦の学習からテーマによる横の学習が必要になってくる。そのときに環境・人権・情報・ジェンダー等の新たな学習方法を考えていかなければならない。

学校は、人権教育を行ってきたが、その中にジェンダーの視点が入っていなかった。そして、ジェンダーを再生産していたことすら気が付かない。学校の枠組みや固定的な考え方を問い直し、ジェンダーの視点で学校教育を考えていくことは、教育改革につながっていくことである。また、チャレンジできる新たな能力を開発していかなければならない。

今まで学んでこなかった、身体・性等総合的なリプロダクティブ・ヘルツ／ライツ、メディア・リテラシー（情報を批判的にとらえる力)、知識変革（女性学)、自己表現、コミュニケーション、提言型の活動のような新しい力を育成することが必要である。

### (3) 分科会Ⅰ

男女平等を推進する教育に関する実践や課題を話し合った。

『主な課題』

・男女平等を進めるに当たっての校内の取組、教育委員会等での研修プログラムのあり方
・教師、児童の意識を変える学習のあり方
・混合名簿、呼称等具体的な取り組みの実践
・総合学習の取り組み方
・保護者を巻き込んだ実践の在り方
・性差、男女の特性論
・男女平等教育の目指す子ども像

### (4) 分科会Ⅱ「学校教育現場をジェンダーの視点から見直す」

#### A「道徳指導をジェンダーの視点で考える」

授業実践について報告

この分科会では、朴木氏から、我が国の男女平等の現状（性別役割分業・給料・社会理念)、学校の中の男女平等の現状（男女別名簿・男女の更衣室・道徳副読本・進路指導教育機会の実質的不均等）の講義があり、その後、性別にとらわれないジェンダーフリーの道徳の授業の事例報告をもとに、グループ討議、全体討議を行った。そこでは、女子の参画の必要性について話し合われた。

事例報告をもとにグループ討議

**B「性に関する指導をジェンダーの視点で考える」**

この分科会では、性の教育の推進計画と授業実践、人間としての自立を図るための現場での指導の在り方の２つの事例報告もとにグループ討議、全体討議が行われ、最後に池谷氏が、ジェンダーの概念が提起されたことの意味、入口の平等から出口の平等、自分の性とどのように向き合うか、子どもと教師の共同参画の取り組みの必要性について講義をした。

**C「学級運営をジェンダーの視点で考える」**

この分科会では、まず、はじめにジェンダーチェック（東京女性財団「ジェンダーチェック：学校生活・教師編」）を行い、その後、村松氏から、「男女平等を教える」「男女平等に教える」の両面が必要なこと、ジェンダーに敏感にならなければならない理由、学級運営をジェンダーの視点で考える観点）の講義があった。各グループで、不要な区分・性別役割・上下関係・機会均等の観点から学校の中をジェンダーの視点で見直し、発表した。男女の特性論、ポジティブアクションについて全体討議が行われた。

ジェンダーチェック

講義をする耳塚氏

**D「進路指導をジェンダーの視点で考える」**

この分科会では、女子生徒と保護者の意識の変化・事例から進路指導の在り方の事例報告があり、次に耳塚氏から、学校の機能の一つは、子どもに社会性を身につけさせ将来の社会的役割に適合させることにあること、学校は常にジェンダーを再生産していること、進路指導とは、子ども自身がどんなメリット（能力＋努力）をもっており、どのような地位に到達できるかを認知させる作業であることの講義があり、その後グループ討議・全体討議が行われた。学校内には隠れたメッセージが多いので、教師自身が気付くことの必要性、進路指導は、生徒にとって学校と社会とをつなぐ接点となるので、指導の在り方によって社会に対する認識が左右されること等が話し合われた。

### (5) 全体会

参加者による各分科会の概要報告・分科会Ⅱの成果まとめにより、各分科会の内容を共有し、各助言者が各分科会の講評及びジェンダーに敏感な視点の定着と深化についての提言を行った。

### (6) 分科会III

「男女平等を推進するための学校教育における課題解決にむけて」

Ａ～Ｄグループ（小学校・中学校・高校）
キーワード連結法により「ふりかえり」を行った。

キーワードを考える

**ランキングキーワード**

『小学校部会の例』
１教師の意識改革
２特性論からジェンダーフリーの教育へ
３男女平等に教える
４ポジティブアクション
５メディアリテラシー
６男女共同参画
７市民
８支え合う小集団
９総合学習
10男女混合名簿

『中学校部会の例』
１景色を変えるだけではダメ
２男女混合名簿
３科学の不確かさ
４ジェンダー再生産
５能力形成のアクセス
６自分の性との折り合い
７ポジティブアクション
８性の特性は捨ててよい
９職場から見られる性別役割分業
10ロマンチック教育学に陥らない

Ｅグループ（指導主事・管理職等）

この分科会では、舘氏から推進体制の在り方、全体計画での男女平等教育の位置づけ、具体的な研修プログラムの在り方についての講義があり、続いて、グループ討議をし、グループ毎に発表をした。そして、校内・地域では話し合いと同時に研修会の充実、教育委員会との連携の在り方、男女二分的カテゴリーにより学校教育の現場の見直しをする必要性について確認した。

## 7　今後の課題・展望

・指導主事・管理職の分科会を設けたこともあり、管理職等指導的立場の方の参加数が増加した(今年度：22.3%　昨年度：16.5%)。今後も、指導者層の積極的な参加を促進するとともに、これらを対象とした研修プログラムの企画・立案を学ぶ実践的な分科会が必要である。
・セミナーの企画に当たっては、各参加者においてジェンダーの認識に差があることから、体験的にジェンダーに気付くような研修のプログラムを考慮する必要がある。
・プログラムについては、今後も「ジェンダーに敏感な視点を身につけること」、「学校の中をジェンダーに敏感な視点で見直すこと」、「男女平等教育推進のための課題・方策研究」の３つの内容とし、気付きから実践に結びつく構成とする。

（事業課専門職員　金　　朝子）

# 海外婦人教育情報専門家情報処理研修事業

## 1　趣　旨

アジア太平洋地域における女性の地位向上を図るため国立婦人教育会館が行ってきた婦人教育情報システムの構築、運用等の経験を活かし、同地域の婦人教育、女性情報等の専門家を招致して、最新のコンピュータを利用した情報処理技術の研修を行う。

本研修を通して、女性問題の意識啓発に関する分析・まとめの技術、及び情報メディアの活用技術を習得するとともに、アジア太平洋地域の女性問題に関して相互理解を深め、域内の女性情報ネットワーク化の促進を図る。

## 2　主　催

文部省
国立婦人教育会館

## 3　研修期間

平成１１年7月２５日（日）
　～9月2日（木）４０日間

開講式後の記念撮影

## 4　参加国及び参加者　6か国　6名

**サイニアナ・ヴラニバ・ロコヴバゴ（フィジー）**
女性及び文化省女性のための情報担当官

**アレン・ウィーラ・ティーンナキ（キリバス）**
環境及び社会開発省女性開発担当官

**ファリダ・ザイナル・アビディン（マレーシア）**
全国統一及び社会開発省女性局司書

**ヒシゲ・ハクワ（モンゴル）**
健康及び社会保障省女性問題に関するモニタリング及び統計担当官

**アグネス・イノセンシオ・ディチョソ（フィリピン）**
フィリピン全国女性の役割委員会統計官II

**フィルザ・バハディロブナ・カブロバ（ウズベキスタン）**
公共機関「女性と社会」メンバー及び
ウズベキスタン国連開発計画事務所財務部職員

## 5　主な研修日程

カントリーレポートの発表

７月２５日（日）来日
７月２７日（火）開講式、会館事業説明及び利用案内、
　　歓迎レセプション
７月２８日（水）カントリーレポートの発表及び討議
７月２９日（木）文部省今村大臣官房審議官表敬
　　講義「日本の教育における男女平等」
　　文部省生涯学習局　男女共同参画
　　学習課長　　有松　育子氏
　　講義「日本の女性行政について」
　　総理府男女共同参画室企画官
　　田河　慶太氏

文部省今村大臣官房審議官を表敬

７月３０日（金）講義「女性と識字」
　　国際基督教大学大学院教授
　　千葉　杲弘氏
　　講義「女性とネットワーク」
　　十文字学園女子大学助教授　橋本ヒロ子氏

文部省有松課長による講義（文部省にて）

婦人教育情報センターにて研修

８月　２日（月）wwwOPAC(WINET)研修
８月　３日（火）講義「女性と健康」
　　（財）家族計画国際協力財団人材養成事業部長　飯島　愛子氏
　　講義「開発と女性」立教大学教授　伊藤　るり氏
８月　４日（水）講義「女性とメディア」（社）共同通信社海外部　カレン・マー氏
　　講義「女性学教育」東洋英和女学院大学教授　藤村ファンズロー久美子氏

専門家による講義風景

８月　５日（木）～１８日（水）演習：情報処理演習
（８月　６日（金）
　コミュニケーションに関するワークショップ
　　埼玉大学教育学部助教授　美馬のゆり氏
８月１１日（水）
　情報デザインアドバイス、プライバシー、著作
　権に関するグループディスカッション
　　多摩美術大学助教授　楠　房子氏）

デジタルカメラで題材を探す真剣な研修生

８月１９日（木）～２５日（水）ワークショップ
　（２３日、２４日：美馬氏、楠氏を招いてのワークショップ）
８月２６日（木）プレゼンテーション

題材をもとにホームページづくり

ワークショップにおけるミニプレゼン

８月２７日（金）～２８日（土）文部省関連施設視察
８月２９日（日）～３１日（火）京都旅行
９月　１日（水）研修評価会、閉講式、フェアウェルパーティー、離館
９月　２日（木）離日

国立科学博物館にて

コンピュータ会社を訪問

## 6　主な研修内容のまとめ

（1）　研修プログラムは、女性問題及び情報に関する講義、カントリーレポートの発表・討議、情報処理演習、ワークショップ、関連施設等の見学及び文化交流とした。

修了証書を受け取る研修生

（2）　女性問題及び情報に関する講義では、日本の教育における男女平等、女性行政から世界の女性の識字、女性の健康、開発と女性、女性学教育について幅広く学び、また女性情報ネットワークとして最新のネットワーク論、女性とメディアの関わりについて学ぶものとした。

（3）　カントリーレポートの討議では、来日時に提出した自国の女性の現状に関するレポートをもとに情報交換を行い、研修生、会館職員及び講師との討議を行った。

（4）　情報処理演習は、本年度より新たな試みとしてインターネットによる情報発信を中心に行った。発信したいテーマを考え、インターネットによる情報やデジタルカメラを使って自分が見た日本の映像など様々なコンテンツを自らが収集し、ホームページ作成、イラストや写真の映像編集等を行い、ホームページを作成・発信した。

　また、美馬、楠両氏によるコミュニケーションの重要性や情報デザイン、著作権等についての講義・ワークショップを段階的に組み込むことによりホームページの完成度が高まっていった。

　プレゼンテーションは、インターネットを用いて、自ら作成したホームページの紹介となった。「自国の女性の現状」「女性問題」「労働環境」「自分が見た日本」等、様々なテーマが取り組まれており、結果はすばらしいものであった。

（5）　東京国立博物館、国立科学博物館を訪問した。どちらにおいても研修生から「学ぶところが多かった。」との感想があり、文部省関連施設の見学は有意義であったと思われる。

閉講式を終えて

嵐山町の夏祭り

（６）　講義や演習の他に、地元嵐山町でのホームビジット・嵐山夏祭り、会館でのお茶会に参加するなど、日本の伝統・文化を体験する機会を提供した。

**ひびき会とのお茶会**

## ７　今後の課題・展望

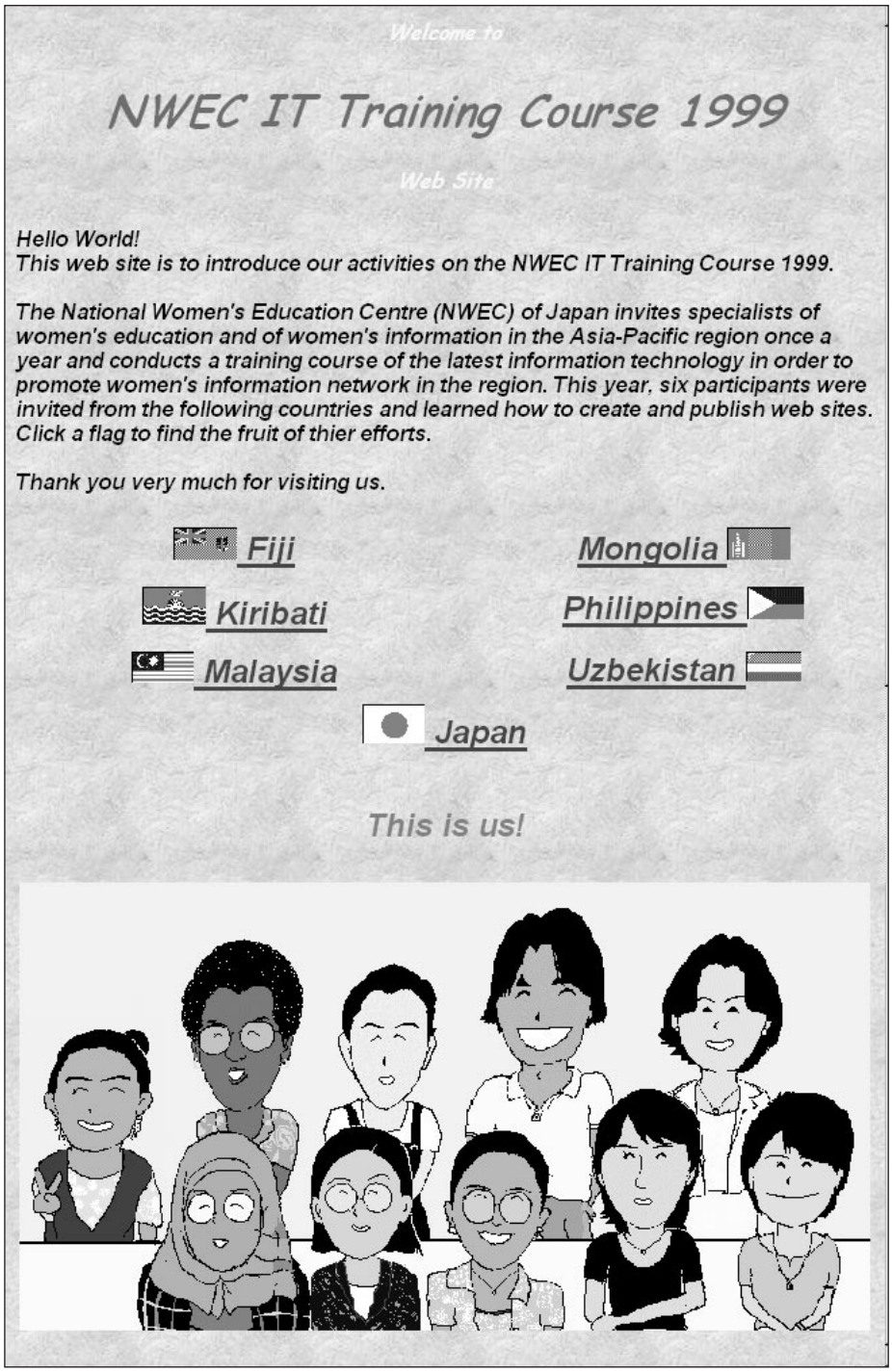
（１）このODA事業は、事業開始後１１年目を迎え、アジア太平洋地域諸国から高い評価を得ているものである。今年度は会館電子計算機システムの新機種への更新に伴い、インターネット環境が整備されたため、婦人教育、女性情報について、情報技術を修得して実践に結びついた力をつけることに重点を置いた研修プログラムを実施した。

（２）Windows98の環境において、ホームページ作成ツールであるMS-Front Page、また画像編集ツールであるPaint Shop-Pro等、時代のニーズにあった最新の開発ツールを用いたため、研修成果や発表技法に著しい進歩が見られた。

（３）次年度以降は、更に婦人教育、女性情報により深く結びついた目的意識をはっきりさせた研修プログラムとして、本年度のインターネット中心のプログラムにデータベース構築等を加えるなど一層の充実を図る必要がある。

（情報交流課専門職員　池田　淑子　情報交流課専門職員　油原ゆう子）

**フェアウェルパーティにて**




**《ホームページの見出しの和訳》**

**1999年NWECトレーニングコースウェブサイトへようこそ！！**

「世界中の皆さん、このホームページは、国立婦人教育会館の平成１１年度海外婦人教育情報専門家情報処理研修事業での私たちの活動を紹介するものです。会館は、アジア太平洋地域の女性情報ネットワークの推進を目的として、毎年同地域の女性の教育と情報の専門家を招いて、最新の情報技術の研修を行っています。今年は、次の６か国から６人が招かれ、ホームページの作成・公開の仕方を学びました。国旗をクリックして、努力の結果を御覧ください。このページを見てくださって、ありがとうございます。」

**URL http://www.nwec.go.jp/itt/index.html**

# 家庭・地域で担う子育て支援セミナー

## 1　趣　旨

男女共同参画社会の形成に向けて、地域社会の活動及び家庭教育に男性の参加を促し、子どもの豊かな人間性をはぐくむ家庭教育を支援するための実践的研修を行う。

## 2　主　題

「家庭を支える地域の教育力の向上をめざして」

## 3　期　日

平成１１年9月１７日（金）～9月１８日（土）

## 4　参加者

８９人（女性６９人　男性２０人）

### (1)　年齢層別

(人)

| 性 別 | 20歳代 | 30歳代 | 40歳代 | 50歳代 | 60歳代 | 70歳以上 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 女 性 | 3 | 10 | 26 | 18 | 10 | 2 | 69 |
| 男 性 | 0 | 7 | 7 | 0 | 6 | 0 | 20 |
| 合 計 | 3 | 17 | 33 | 18 | 16 | 2 | 89 |

### (2)　都道府県指定都市別参加者数

(人)

| 都道府県 | 人数 | 都道府県 | 人数 | 都道府県 | 人数 | 都道府県 | 人数 | 都道府県 | 人数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 青森県 | 1 | 茨城県 | 7 | 新潟県 | 6 | 兵庫県 | 1 | 宮崎県 | 1 |
| 岩手県 | 1 | 群馬県 | 4 | 石川県 | 2 | 鳥取県 | 2 | 川崎市 | 4 |
| 宮城県 | 2 | 埼玉県 | 5 | 長野県 | 3 | 島根県 | 1 | 横浜市 | 3 |
| 秋田県 | 3 | 千葉県 | 5 | 岐阜県 | 2 | 山口県 | 2 | 広島市 | 1 |
| 山形県 | 1 | 東京都 | 18 | 静岡県 | 3 | 香川県 | 1 | 福岡市 | 1 |
| 福島県 | 1 | 神奈川県 | 6 | 大阪府 | 1 | 愛媛県 | 1 | 計 | 89 |

### (3)　所属別参加者数

(人)

| 所　　属 | 女 | 男 | 計 |
|---|---|---|---|
| 社会教育行政関係者 | 37 | 16 | 53 |
| 女性施設関係者 | 2 | 2 | 4 |
| 家庭教育支援を進めている団体・グループ | 20 | 2 | 22 |
| ＰＴＡ | 2 | | 2 |
| 学校教育関係者 | 2 | | 2 |
| 家庭教育支援を進めている企業 | 3 | | 3 |
| その他 | 3 | | 3 |
| 総　　計 | 69 | 20 | 89 |

## 5　プログラムの概要

**【第１日】9月17日(金)**

**(1)　開会**　**10:00～10:20**

**(2)　講演**　**10:25～12:00**

「しつけ・知恵・知識－日米の家庭教育の現場から－」

講師　ルイジアナ州立大学社会学部准教授　賀茂　美則

**(3)　講義**　**13:30～14:30**

「家庭教育行政の最近の動向について」

講師　文部省生涯学習局男女共同参画学習課家庭教育支援室家庭教育振興係長　後藤　玄政

**(4)　分科会**　**14:40～17:40**

Ａ　乳幼児期の子育て支援を考える

助言者　群馬大学教育学部助教授　結城　　恵

Ｂ　家庭教育相談事業を考える

助言者　青山学院大学文学部教授　庄司　順一

Ｃ　父親の子育て参加促進プログラムの企画

助言者　家庭教育研究所主幹研究員　土谷みち子

Ｄ　異年齢集団交流プログラムの企画

助言者　聖徳大学人文学部教授　松下　倶子

**【第２日】9月18日(土)**

**(1)　報告**　**9:00～9:30**

「男女共同参画の視点に立った家庭教育推進方策に関する調査研究」

講師　国立婦人教育会館事業課主任研究官　中野　洋恵

**(2)　全体会**　**9:40～11:30**

**(3)　閉会**

＊　１３：００より「フォーラム家庭教育」を開催。

## 6　プログラムの内容

### (1)　講演「しつけ・知恵・知識　－日米の家庭教育の現場から－」

ルイジアナ州立大学准教授の賀茂美則氏が、様々な社会の変化の中で顕著になってきた家庭の変化や、父親・母親の現状について日米の具体的な例をあげながら比較報告を行った。

・しつけ・知恵・知識は、子どもの人生で身につけなくてはいけない３つの大切なこと。今までは、しつけ・知恵は家庭で、知恵・知識は学校で身につけてきた。しかし今は、学校にしつけを任せたり、家庭で勉強を進めたりしており、相互作用ではなく、相互依存状態になっている。

・日本の親は、なかなか子どもをほめない。ほめるには、結果ではなく過程をよく見なければならないので難しい。しかし、子どもはあくまで一人の人間として、よく見つめ、よいことはほめ、悪いことはしっかりと叱ることが大切。

・今の子どもは「独立心・自立心・判断力」の「生きる力」が欠けている。その力を付けるためには、子どもにいろいろな体験をさせ社会を見せる、親が子どもを自分のもち物としてではなく一人の人間として扱うことが必要。また「元気・夢」をもった子どもに育てたい。そのためには親自身が、よい時も悪い時も、一生懸命生きている姿を見せることが大切である。

### (2) 講義「家庭教育行政の最近の動向について」

文部省生涯学習局男女共同参画学習課家庭教育支援室家庭教育振興係長　後藤　玄政氏が、中央教育審議会答申（平成１０年６月）及び生涯学習審議会答申（平成１１年６月）を踏まえた地域社会における家庭教育支援についての講義を行った。「全国子どもプラン（緊急３カ年戦略)」をはじめとする、「生きる力」を育むための家庭教育支援に関する文部省の基本的な方針及び具体的な取組の状況について語った。

### (3) 分科会

**A「乳幼児期の子育て支援を考える」**

乳幼児期を対象とする子育てサークル・子育て支援サークルの育成事業について、連携する行政関係者とサークルメンバーの両立場から報告を行った。その後、両者の関係について、子育て・子育て支援という共通目的に向かって手をつなぎ、小さな輪を広げていくことを確認した。また子育て・子育ち・親育ちについても考え、行政も親も子も育ち合える活動の必要性が論じられた。

A「乳幼児期の子育て支援を考える」

B「家庭教育相談事業を考える」

**B「家庭教育相談事業を考える」**

家庭教育２４時間電話相談の立ち上げ・利用状況、相談の現状について事例報告後に、庄司氏により昨今の児童の虐待状況等、家庭教育の現状についての講義が行われた。また、その後のグループ討議では、相談員の技量の向上の必要性・相談員研修の在り方、相談員数の確保、関係機関との連携について等、各地域の課題及びその解決に向けた活発な意見交換が行われた。

**C「父親の子育て参加促進プログラムの企画」**

父親教室で、父子活動のビデオを視聴後、父親の子育て参加を促すために、子どもと遊ぶ楽しさを実感できる学習・体験プログラムを企画した。グループ毎に話し合い、「親子のふれあいを通して育児に関心を持つ」「子育ての大切さを知り、父親のネットワークづくり」「乳幼児期の子育てへの父親の参加促進」「小学校低学年の子どもをもつ父親の参加促進」をめざしたプログラムを発表した。

C「父親の子育て参加促進プログラムの企画」

D「異年齢集団交流プログラムの企画」

**D「異年齢集団交流プログラムの企画」**

松下氏から、子どもたちが社会の一員として所属意識を持ち、役割分担をして協力し、話し合いを基本とする民主的運営を経験する機会を設ける必要がある等の講義を受けた後、実際に異年齢集団が交流できるプログラムを企画した。幼児、小学生、中高生、大学生を対象として、「嵐山キャンプ」「十五夜だんごライブ」「秋を見つけるウォークラリー」の３つの企画が出された。

**(4)　報告「男女共同参画の視点に立った家庭教育推進方策に関する調査研究」**

国立婦人教育会館　中野　洋恵主任研究官により、幼児期から性別にとらわれず、一人一人の多様な個性や人権を尊重し、男女共同参画を高める意識や価値観をはぐくむ家庭教育推進方策の在り方について研究することを目的に行われた「男女共同参画の視点に立った家庭教育推進方策に関する調査研究」の概要（家庭教育資料の分析結果、家庭教育行政担当者の意識、連携等の実態調査アンケートの集計結果からわかってきたこと、及び今後の課題等）が報告された。

**(5)　全体会**

①分科会報告

４分科会の代表者により、各分科会の学習の成果と今後の課題が報告された。

②講師による講評

４人の講師から、それぞれの分科会での事例研究・プログラムの企画上の留意点、討議の論点等について講評をいただいた。最後に、今後の課題として、子育て支援に関する企画に際しては、ねらいを明確にし実施後の振り返りを十分に行い次の企画にいかすこと、また行政側の関わり方として、地域で自発的に活動していける人を育てること等の重要性について確認した。

## 7　今後の課題・展望

（１）各分科会共に、「事例から考える」ケースと「プログラムの企画」との異なるアプローチから、子育て支援の現状と課題について活発な意見交換が行われた。今後も、より実践的な研修となるよう工夫したい。

（２）参加者は社会教育行政、団体・グループ、企業等となっており、各分野からの多様かつ積極的な意見交換が行われた。今後も全国各地域等からの参加を積極的に呼びかけていく必要がある。

（事業課専門職員　土岐　都子）

# フォーラム家庭教育

## 1　趣　旨

子どもの「心の教育」「生きる力」の充実を図るために、男女がともに積極的に担う子育て及び社会との連携の中で担う子育てについて、参加者とともに考える。

## 2　主　題　「子どもの心をはぐくむ家庭・地域　－完全学校週５日制に向けて－」

## 3　期　日　平成１１年９月１８日（土）　13:00～16:00

## 4　主　催　文部省、国立婦人教育会館、埼玉県教育委員会

## 5　参加者　２０６名（女性１４８名　男性５８名）

年齢層別　(人)

| | 30歳代 | 40歳代 | 50歳代 | 60歳以上 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|
| 女　性 | １６ | ５６ | ３２ | ３９ | １４８ |
| 男　性 | ９ | ２４ | １０ | １３ | ５８ |
| 合　計 | ２５ | ８０ | ４２ | ５２ | ２０６ |

## 6　プログラムの概要

第１部　ビデオ視聴

家庭教育ビデオ（企画：文部省）

「７人の専門家に聞きました　子育ての極意　ゆっくり、ゆったり」

出演：秋山仁、香山リカ、河合隼雄　他

第２部　フォーラム

「子どもの心をはぐくむ家庭・地域　－完全学校週５日制に向けて－」

パネリスト　大下　勝巳（おやじの会「いたか」世話人・（社）日本広報協会編集部長）

服部　祥子（大阪府立看護大学看護学部教授）

樋田大二郎（聖心女子大学文学部助教授）

コーディネーター　南　美希子（エッセイスト）

**第２部　フォーラム（南氏、大下氏、服部氏、樋田氏）**

## 7　プログラムの内容

**第１部　ビデオ「７人の専門家に聞きました　子育ての極意　ゆっくり、ゆったり」**

企画：文部省

平均値や相対的な順位にとらわれず、子どもの個々の成長にしっかりと目を向け、伸ばしていくためにはどうしたらいいのか、小児科医・精神科医、数学者、心理学者、ジャーナリスト等、それぞれの立場からそのコツを伝授し、お父さん、お母さんへの育児のヒントを提供するビデオを視聴した。

**第２部　フォーラム「子どもの心をはぐくむ家庭・地域－完全学校週５日制に向けて－」**

・これからの多様化の時代に生きるには、学校以外の場、つまり家庭・地域でいかに学ぶかということが重要。親自身が生き生きと暮らしながら、子どもに様々な体験をさせたい。
・仕事か余暇か家庭を大切にしている人は多いが、みんな大切にしているのは１割に過ぎない。分けて考えるのではなく、すべて一緒と考えてもよいのではないか。
・地域社会は、学校とは違った物差しで子どもたちを見たり元気づけるところであってほしい。そうするためには、地域での大人たちのネットワークが必要である。大人が仕事以外の自分を開発し、生き方を変えていかなければならない。
・今の親の不安感は、今までになく大きい。しかし親は子どもをオンリーワンにする自己責任がある。オンリーワンとは、ナンバーワンとは違う。世界で一番なのではなく、その人の得意技を発揮することであり、誰かにとってその人はその人でしかないという関わり方である。そして家庭・地域は、子どもを学校とは違う視線で見ることが必要である。特に男性は地域の中で様々な視線で見てほしい。つながりの中でこそ、大人も子どもも成長する。
・人は人とつながることで、人を育て、自分も豊かになる。相手を分析するのではなく、五感やイメージでつながるには、一緒にいる人との体験的な関わりが大切。学校での総合的な学習、生活科の時間のように、学校でやっていることをサポートしながら、体験的に行うということが重要なのではないだろうか。
・大人も子どもも、いろいろな人との違いを楽しみたい。地域の中でいろいろな人の中で、子どもを生活者として、市民として、まちづくりの重要な柱に据えたい。子どもが生き生きと育つまちづくりを目指したい。
・これまで女性が社会のバリアを壊そうとしてきたが、２１世紀は男性が仕事以外の自分像を見つける時代。まずは女性のやることに男性を引っ張り込みたい。

## 8　今後の課題・展望

・子どもたちの「生きる力」をはぐくむために、男女が共に担う子育てや社会との連携について、パネリストからの体験に基づいた発言により参加者と共に考える充実したフォーラムとなった。今後もより男女共同参画の視点を取り入れた内容となるよう検討する必要がある。
・開催時期が運動会等と重なり、学校・PTA関係者から参加できないとの声があったので、次年度はより多くの参加を得られる時期を検討する必要がある。
・プログラムの第１部を寸劇等によるわかりやすく問題提起ができるものとする等の工夫をし、これを第２部につなげ、討議と考察がより深まるような全体的構成としたい。

（事業課専門職員　土岐　都子）

# 男女共同参画学習推進フォーラム

## 1　趣　旨

男女共同参画社会の形成をめざした生涯学習の推進と、広域的な施設間のネットワーク形成の充実を図るため、婦人教育施設、生涯学習センター等の生涯学習関連施設と連携して地域においてフォーラム等を実施する。

## 2　総合テーマ

「ともに豊かに生きるために、考えよう語り合おう」

## 3　事業内容

男女共同参画社会の実現に向けて、従来の社会的慣行・意識・ライフスタイル等の見直しの視点にたった地域の具体的課題に資する内容とした。

## 4　企画委員会

①共催機関はフォーラム実施にあたって広域的なネットワーク形成を図り、地域のニーズを企画に反映するため企画委員会を組織した。

②企画委員会のメンバーは、開催地及び周辺地域の次の関係者１０名以内（都道府県・指定都市教育委員会を含む）で構成した。

## 5　実施機関及び期日

| | 共催機関名・実施日 | フォーラム名称・テーマ | 実施方法 | 参加人数 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | (財)広島県女性会議<br>10月9日（土）<br>（広島県） | ジェンダーの視点で考える<br>育児と介護の地域ネットワークづくり | 分科会・シンポジウム<br>（生涯学習フェスティバル参加事業） | 130名 |
| 2 | (財)秋田県婦人会館<br><br>10月22日（金）<br>（秋田県） | 参加・体験型<br>男女共同参画フォーラム<br><br>新しいパートナーシップの確立を目ざす学びの試み | ワークショップ<br>トーク・トーク | 550名 |
| 3 | 神奈川県立かながわ女性センター<br><br>10月30日（土）<br>（神奈川県） | 新世紀の男女共同参画社会の実現に向けて　－湘　南江の島からのメッセージ<br><br>高齢社会は世代を超えて | 講義・セミナー・<br>ワークショップ・<br>シンポジウム<br>（5/15～10/30の間、講座等９コマ<br>シンポジウム１回） | 10月30日<br>306名 |
| 4 | (財)福岡県女性財団<br>（福岡県女性総合センター「あすばる」）<br>11月27日（土）<br>（福岡県） | 男女共同参画社会をめざす<br>「男と女の演劇コンクール」<br><br>出演（で）て　観て　学ぶ<br>男女共同参画 | 演劇コンクール<br>８グループが参加 | 400名 |

## 6　各機関の主なプログラム内容

### (1)　財団法人　広島県女性会議

①分科会　１０：００～１２：１５

・育児と介護の仕事づくり

　育児及び介護の支援活動及びサークル活動などは、現在、主に女性がボランティアとして行っているが、それらの活動の事業化について考えた。まずはじめに、高齢者協同組合及び福祉法人という形態で介護に携わっている人、育児支援サークル活動を行っている人から、それらの活動の事業化について報告があった。その後、女性の経済的自立という観点から、事業化にあたり何が必要かを女性起業家から助言を受けた。

育児サークル活動の報告

・男性と育児と介護

　男性が介護にもっと積極的に参画していくために何が必要かを考えた。まずはじめに、幼稚園園長、母親の介護、父子の立場から現状報告があり、その後育児と介護に男性がかかわるために社会通念や慣習をどのように変えていく必要があるか、または法律などの制度がどうあるべきかについて討議した。

・情報と交流の場づくり

　地域において、育児や介護を行うためには、どのような情報が必要か、また、交流の場をつくるにはどうすればよいか考えた。まずはじめに、育児支援のオープンスペース運営、福祉情報の提供、障害者施設での地域連携の事例、保育園と老人施設の交流及び地域の学生や住民との交流などの実践例の報告があり、その後、ほしい情報を求める人にいかに届けるか、人間的交流の場をどのようにつくるかについて討議した。

シンポジウム

②シンポジウム　１４：３０～１６：３０

　午前中の３つの分科会の内容を共有するために、まず、分科会での事例や討議内容についての報告、続いて、育児と介護を男女及び地域社会全体で担うための方策についてパネリストの方々と意見交換をする中で、家族とは何か、家族がどのように変化しているか問題提起があった。さらに、21世紀社会においての地域ネットワークづくりについて話し合われた。

## (2) 財団法人　秋田県婦人会館

①ワークショップ「企画するあなたにとっておきの方法」　１０：００～１１：４５

・視る「ビデオ」

ビデオを視て、グループで話し合うことでジェンダーに気づき、敏感になる。更にその背景にある意味を読み解くために、ビデオの視聴方法・効果的な活用法、話し合いの仕方等のビデオを学習した。

・貼る「コラージュ」

雑誌や新聞の写真や挿絵等を切り抜き、模造紙に貼ることで見えてくるジェンダー、さらにその背景にある意識や意味を読み解き、グループで話し合い互いにジェンダー感度を高めた。

**貼る「コラージュ」のワークショップ**

・読む「グラフ」

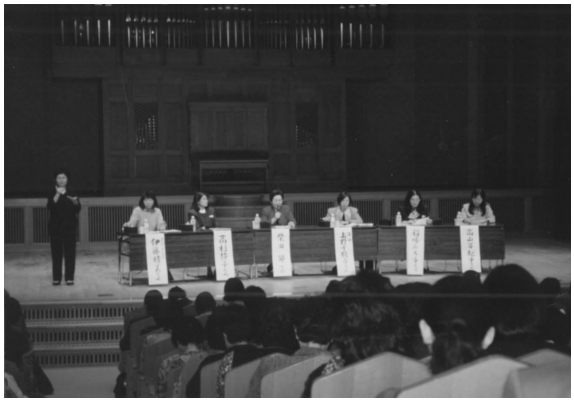
「男は仕事、女は家庭」という考え方について複数のグラフ・統計資料を組み合わせて見えてくるジェンダー。その背景にある性別による役割分業や意識のゆがみを読みとり、グループで話し合い、ジェンダーに敏感になる意識を持てるようにした。

・並べる「ダイヤモンドランキング」

幼い子どもの母親が病気になったとき、何も考えずに専念することができるようにするにはどうするかをダイヤモンドランキングの手法を使い話し合うことで、家庭の中でよりよいパートナーシップがとられているかを考えた。

②トーク・トーク「新しいパートナーシップの確立をめざして」

１３：１５～１５：００



**上野氏と語り合ったトーク・トーク**

まず初めに、このワークショップのスタッフの４人が「新しいパートナーシップ」「親と子の関係」「学校の中でのパートナーシップ」「地域活動の中のパートナーシップ」について話し、その後、東京大学大学院人文社会系研究科教授の上野千鶴子氏と参加者、聞き手が自由に語り合う中で新しいパートナーシップについて考えていった。

### (3)　神奈川県立かながわ女性センター

高齢者のための国連原則、自立・参加・ケア・尊厳を側面から支援し、豊かな高齢者社会の実現に向けて１１のフォーラムを実施、その総集編として、シンポジウムを開催した。

①基調講演「新介護時代
－高齢社会へのメッセージ」
１３：００～１３：３０

ノンフィクション作家の沖藤　典子氏が男女共同参画社会基本法、介護とジェンダー、新しい地域政策の視点で高齢社会を考察分析し、一人一人の自立意識、男性と女性のかかわり合い、老人と若者のかかわり合いの中で、よりよい21世紀をつくっていきたいと提言した。

**沖藤氏による基調講演**

②シンポジウム　１３：３０～１５：３０

税理士の山崎　久民氏が「税金年金から考える男女平等社会」、かながわ男性ボランティアクラブ会員の阿部　秀夫氏が「男性シニアボランティアの地域社会活動」、横浜国立大学の是澤　雅代氏が「ともに生きる２１世紀へ～高齢者のかかわりから考えたこと」東洋英和女学院大学教授の大澤　隆氏が「高齢社会の政策の現状と課題」について問題提起し、その後、沖藤氏も含む５人の討論を行った。

そこでは、女性の就労、家事労働について、従来の考え方では、高齢化社会を乗り切れないこと、今抱えているひずみ（介護離婚、介護退職等）を社会的にアピールする公的仕組みを考えたいこと、福祉には４つの壁（意識・制度・環境・情報と文化）があり、この４つが同時に男女共同参画をつくる糸口になること等が話し合われた。

**シンポジウム**

## (4)　福岡県立総合女性センター

①演劇祭り　　１０：００～１６：３０

男だから、女だから、という理由だけでしたいことができなかったり、特定の仕事や役割がかたよっていた従来の社会慣行や意識を見直していくことを目的にした演劇コンクールを開催した。身近な女性問題をテーマに、県内の８つのグループがバラエティに富んだオリジナル劇を発表し、生活のあらゆる場面に存在する「ジェンダー」について観客と楽しみながら考えていった。

表彰を行う永井氏

上演後、劇作家・演出家の永井　愛氏から「完成度の高い作品・パワーあふれる作品が多かった」との講評並びに講演があり、続いて、グランプリ、部門賞、シナリオ賞、一般審査賞などの表彰があった。

・ワーキング　ウイメンズ　ヴォイス
「おおごとですばい」

「均等法」「労基法」の改正は、働く女たちに、何をもたらしていくのか。様々な状況の女性たちを歌謡曲にのせて上演した。

おおごとですばい

・女性会議　あがろっぽん大川
「あがろっぽん」

地域に伝えられている民話を通して、女性の生きる証とは何なのか、家を守り子を産むことを義務づけられてきた、女性の生き方に問題提起した。

・沖学園演劇部
「わたし的家族」

家庭の中の生活役割分業意識について、ふたつの家族に起こる出来事を、中高校生のフレッシュな目で描いた。

農業おばさん

・小さな劇団　農業おばさん
『“翼をください”パートⅡ」

農家の家族にスポットをあて、食と農、そして女性の自立をおもしろく演じた。

・劇団ティンカーベル
「先生にＬＯＶＥ　ＬＯＶＥ」
　公演直前の、ある劇団に起こる事件を通して、「性別にとらわれない自分らしい生き方」をミュージカルにした。

・たがわ２１世紀会議
「お浦ものがたり」
　４００年あまり前に、女であるが故に人柱として死んでいったお浦の目をとおして、田川を支えて今を生きる女性たちの生き方に迫った。

・空想童子
「フェアリー？」
　仕事がやっと軌道に乗り始めた朋美。最近彼もＧＥＴ。でも、恋愛と仕事は両立するかを上演した。

・いいづか女性ネットワーク
「パートタイマー秋子」
　女がジェンダーにとらわれずに自分の生き方を選択・決定するためにはどうすればよいか、秋子の生き方を通して考えた。

## 7　今後の課題

（1）フォーラムの企画・実施にあたり国立婦人教育会館の情報提供を積極的に行うと共に、共催機関と連携・協力して男女共同参画社会の形成にかかる研修事業のプログラム開発と普及を図る。

（2）テーマの設定、プログラムの企画にあたっては、女性に限らず、男性、若者、高齢者等幅広い層の参加者が得られること、また、実施方法・形態を工夫するなど参加者が積極的に参加することができるフォーラムとする。

**目で見るヌエック（国立婦人教育会館）**
**主催事業等のパネル展示**

（事業課専門職員　金　　朝子）

# 女性関連施設等情報ネットワーク研究協議会

## 1　趣　旨

男女共同参画社会における女性関連施設等の情報活用方法・情報機能の連携のあり方等について研究協議を行うとともに、情報ネットワークの形成・推進を図る。

## 2　期　日

平成１１年１２月１６日（木）～１７日（金）

## 3　参加者

女性情報等についてインターネットで情報発信を行っている女性関連施設等の情報担当者　　３０名（女性２２名　男性８名）

## 4　プログラム（日程及び内容）

***12月16日（木）***

**(1)　開会**　　**13：30～13：50**

主催者挨拶　　国立婦人教育会館長

**(2)　講義「生涯学習施設等における情報ネットワークと共通化」**　　**13：50～15：20**

十文字学園女子大学社会情報学部講師　安達 一寿 氏

**(3)　研究協議I**　　**15：30～17：30**

女性情報の収集・提供の実際について事例研究を基に今後のネットワーク形成の必要性と可能性に向けて研究協議を行う。

内容例（各地の女性施策、2000年世界女性会議、ドメステイック・バイオレンス、アジアの女性、ジェンダー統計）

**(4)　情報交換会**　　**18：00～20：00**

**(5)　自由研究**　　**20：00～21：00**

***12月17日（金）***

**(6)　研究協議II**　　**9：30～12：00**

各女性関連施設等が試みているネットワークを基に今後のネットワークのあり方について研究協議を行う。

内容例（情報研修、情報ネットワーク、共通検索システム　についてそれぞれ、ドーンセンター情報ライブラリー、東京ウイメンズプラザ図書資料室、東京工業大学附属図書館からの事例発表を基に協議を行う。）

**(7)　研究協議III**　　**13：00～14：00**

現在会館においては、女性関連施設データベースについては全国婦人会館協議会の調査に基づき公開しているが、今後は女性関連施設からの即時情報提供可能な更新型データベースに再構築することとしたい。そのため現状と今後の課題等について研究協議を行う。

**(8)　研究協議IV**　　**14：00～15：20**

研究協議I、II、IIIを踏まえて今後のネットワーク形成についての具体的方策について研究協議を行う。

**(9)　まとめ、閉会**　　**15：20～15：30**

## 5　主なプログラムの概要

講義　「生涯学習施設等における情報ネットワークと共通化」

十文字学園女子大学社会情報学部講師　　安達　一寿 氏

生涯学習に関する最近の動向、高等教育機関でのマルチメディア活用、そして生涯学習ネットワークの提供者としてどのようなコンテンツを作成するか、その際に利用者、学習者のニーズをどう捉え、掘り起こしていくかについて。

**＜研究協議I＞**　横浜女性フォーラム・フォーラムよこはま、兵庫県立女性センター、名古屋市女性会館、徳島県男女共同参画プラザ、NWECの５施設から実際に受けたレファレンスの事例を報告、女性情報の特性、提供のあり方、資料収集・提供の工夫を協議。

①レファレンスの際、質問者の意図を正確に汲み取るための工夫。

②また当該施設だけではなく、他施設の情報を日頃把握しておくこと。

③施設同士のネットワークの重要性。そのネットワークの中で自分たちの施設の特色、独自性をどう打ち出していくか。

④提供する情報の中立性をどう確保するか、その際、明らかに女性施設の趣旨と反する情報の取り扱いについてどうするか。

⑤レファレンスをきっかけに「展示」（情報事業）、相談事業、研修事業へと発展していった事例

⑥収集資料の分類：十進分類か独自分類か。十進分類法そのものの見直しを、要求してもよい。

**＜研究協議II＞**

①大阪府立女性総合センター（ドーンセンター）　　尼川洋子氏

「女性に関する情報及び各種専門情報の収集・提供事業を担当する職員のための情報活動専門研修」…情報の収集・加工・提供の方法について実践的な研修を行うとともに、専門情報提供機関のネットワークの形成を促進することを目標にしたもので、女性情報だけではなく、他の専門的な情報を提供する機関との交流もはかり、それぞれのスキルアップにもつながる事業。

②東京ウィメンズプラザ　　青木玲子氏

「女性センター情報ネットワーク」…女性情報の発信者、女性施設の利用者、女性情報に関心のある人たちとのネットワークで女性をエンパワーする情報について情報交換と学習をする会

「Asian Women's Electronic Network Training Workshop」…「AWORC」がオルガナイザーとなり、韓国のAPWINCの協力で、アジア各国のNGOや女性センター情報担当者のオンラインアクセスのための技術向上を図ること、２０００年のニューヨーク会議に向けて、北京行動綱領のフォローアップについてアジアネットワークを作ることを目的とし開催されたワークショップ。

③東京工業大学附属図書館　　尾城孝一氏

「Z39.50による分散データベースの共通検索」…共通インターフェースから複数データベースの検索が可能なシステム。クライアントとサーバの双方にZ39.50の実装が必要で、高度な検索要求に内応できる国際規格。

**＜研究協議III＞**　会館が検討している更新型の女性関連施設データベースについて。

**＜研究協議IV＞**　研究協議IからIIIまでを踏まえて「女性情報」とは何か、といった根源的な話から、日々のレファレンス上の技術的なノウハウなど、幅広い話題について討議が交わされた。

## 6　今後の課題

・ネット上での情報発信をまだ行っていない施設も含めたネットワークの必要性。

・１施設だけでは対応が難しい諸問題について、各施設が連携して対応することが望まれている。

・ネットワークづくりのためにメーリングリストの作成を希望。

（情報交流課専門職員　池田　淑子）

# NWEC（国立婦人教育会館）アドバンストコース

## 1　趣　旨

男女共同参画社会の形成に向け、婦人教育・家庭教育に関する事業の企画・立案に必要な専門的知識・技術の修得及びジェンダー（社会的・文化的につくられた性別）に敏感な学習に資する実践的な研修を行う。

## 2　期　日

平成１２年１月２４日（月）～２８日（金）　　４泊５日

## 3　参加者

９６名　（女性７７名　男性１９名）

### (1)　年齢層別

人(%)

| | 20歳代 | 30歳代 | 40歳代 | 50歳代 | 60歳代以上 | 合　計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 女　性 | 17 (22) | 14 (18) | 23 (30) | 19 (25) | 4 ( 5) | 77(100) |
| 男　性 | 1 ( 5) | 7 (37) | 8 (42) | 3 (16) | - ( -) | 19(100) |
| 合　計 | 18 (19) | 21 (22) | 31 (32) | 22 (23) | 4 ( 5) | 96(100) |

### (2)　所属別

人(%)

| | 教育委員会 | 首長部局 | 施　設 | 団体グループ | 合　計 |
|---|---|---|---|---|---|
| 女 性 | 19 (25) | 19 (25) | 17 (22) | 22 (28) | 77(100) |
| 男 性 | 6 (32) | 8 (42) | 3 (16) | 2 (11) | 19(100) |
| 合 計 | 25 (26) | 27 (28) | 20 (21) | 24 (25) | 96(100) |

白熱したシンポジウム

修了証書授与

## 4　プログラムの概要

| 日 | 時間 | | 種類 | 内　　容 | 講 師 等 |
|---|---|---|---|---|---|
| 第1日（1月24日） | 13:00<br>～<br>13:20 | | | 開　会<br>１．主催者挨拶<br>２．オリエンテーション | |
| | 13:20<br>～<br>14:20 | 女姓政策 | 講義 | 「男女共同参画社会に向けて<br>－婦人教育・家庭教育施策の現状と課題」<br>はじめに男女共同参画社会の形成に向けた国の動向について、次に、婦人教育・家庭教育の振興についての文部省の取組について説明を受けた。 | 有松　育子<br>文部省生涯学習局男女共同参画学習課長 |
| | 14:30<br>～<br>16:30 | | シンポジウム | 「どう生かす！　男女共同参画社会基本法」<br>「男女共同参画社会基本法」のもとで自治体は国が行うものと同様の施策を策定・実施するだけでなく、自治体の「区域の特性」を行う責務をもつ。少子高齢化をはじめさまざまな問題を抱える今日の日本で、住民に近い自治体が、いかに効果的に男女共同参画を推進できるか、東京都・埼玉県・三重県の３県の事例をもとに考えた。 | 大沢　真理<br>東京大学教授<br>浅倉むつ子<br>東京都立大学教授<br>齊藤　誠：弁護士<br>武村　洋子<br>三重県男女共同参画推進懇話会会長 |
| | 16:40<br>～<br>17:15 | | グループ討議 | 自分が抱えている仕事上・活動上の問題点やアドバンストコースに何を期待するかを話し合うことで、参加目的を明確にした。 | |
| | 18:15<br>～<br>20:00 | | 情報交換 | 情報交換会<br>夕食を共にしながら、自己紹介等を行い、交流を図った。 | |

多様な学習方法を体験

| 日 | 時間 | | 種類 | 内　　容 | 講 師 等 |
|---|---|---|---|---|---|
| 第2日（1月25日） | 9:00<br>～<br>10:00 | 女性情報 | 見学と実習 | 「女性情報の活用」<br>女性情報を有意義に活用するため、婦人教育情報センターの見学、インターネットによる資料・情報の検索や利用方法等を学んだ。 | 国立婦人教育会館<br>情報交流課 |
| | 10:30<br>～<br>15:30<br><br>３つのうち１つを選択 | 男女共同参画社会の形成に向けた教育・学習の課題と方策研究 | 分科会 | A「女性のエンパワーメントをめざした事業の企画・立案」<br>男女平等の実現は社会的課題であり、学習機会の提供は、その重要な一形態である。学習者とニーズの多様さに対応できるよう、学習プロセスを意識したプログラムの企画・立案を行った。 | 内藤 和美<br>群馬パース看護短期大学教授<br>コーディネーター<br>土岐 都子<br>国立婦人教育会館<br>事業課専門職員 |
| | | | 分科会 | B「男性を対象とした男女共同参画学習プログラムの企画・立案」<br>男性を対象としたプログラムづくりは、重要な取組である。「家族」「学校」「職場」「地域社会」「メディア」の中での男性問題を洗い出し、課題を明確化し、課題解決の方策を考えた。 | 犬塚 協太<br>静岡県立大学助教授<br>コーディネーター<br>伊藤眞知子<br>国立婦人教育会館<br>事業課研究員 |
| | | | 分科会 | C「家庭教育に関する事業の企画・立案」<br>家庭教育にジェンダーフリーの視点を入れることは難しい。男性教育にはモデルがなさ過ぎ、家庭教育にはモデルが有り過ぎる。取り上げるテーマは、身近な問題から考えることが大切であり、どのような視点を入れることが必要か、考えた。 | 大日向雅美<br>恵泉女学園大学教授<br>コーディネーター<br>金　朝子<br>国立婦人教育会館<br>事業課専門職員 |
| | | | 分科会 | D「女性のエンパワーメントと団体・グループ活動」<br>男女平等社会を作るために、女性の社会参画をすすめるという視点から、グループごとに、団体・グループの活動の諸課題を提起し、女性のエンパワーメントをめざした活動のあり方を考えた。 | 西山恵美子<br>女性の学習情報をつなぐ会<br>コーディネーター<br>小林千枝子<br>国立婦人教育会館<br>事業課専門職員 |
| | 16:00<br>～<br>17:00 | | 講評 | 「全体会」<br>各分科会の講師より、講評と男女平等参画社会の形成に向けた今後の取組について課題提起が行われた。 | 内藤 和美<br>犬塚 協太<br>大日向雅美<br>西山恵美子<br>司会：徳永壽美子<br>国立婦人教育会館<br>事業課長 |
| | 19:30<br>～<br>21:00 | | | 自由研究<br>参加者が設定したテーマをもとに自由に討論を行い、研究を深めた。 | |

| 日 | 時間 | | 種類 | 内　　容 | 講 師 等 |
|---|---|---|---|---|---|
| 第3日（1月26日） | 9:00<br>～<br>10:15<br><br>２つのうち、一つ選択 | 男女共同参画社会の形成に向けた婦人教育・家庭教育の今日的課題 | 講義とグループ討議 | Ⅰ「当面する婦人教育の課題」<br>コースリーダーより、国立婦人教育会館の研究事業からみた婦人教育の今日的課題について情報を得た後、自分の抱える課題についてグループ討議を行った。 | コースリーダー<br>伊藤眞知子<br>国立婦人教育会館<br>事業課研究員 |
| | | | 講義とグループ討議 | Ⅱ「当面する家庭教育の課題」<br>コースリーダーより、国立婦人教育会館の研究事業からみた家庭教育の今日的課題について情報を得た後、自分の抱える課題についてグループ討議を行った。 | コースリーダー<br>中野　洋恵<br>国立婦人教育会館<br>事業課主任研究官 |
| | 10:30<br>～<br>12:30<br><br>２つのうち、一つ選択 | | 講義と討議 | Ⅰ　婦人教育コース<br>「女性のエンパワーメントとリーダーシップ」<br>世界銀行、アジア開発銀行等でのキャリアを振り返ることにより、女性のエンパワーメントとリーダーシップに必要な条件として、①専門知識・技術、②ビジョン、③コミュニケーション・スキルズ、④参加型決定プロセス、⑤よき指導者・助言者、⑥ネットワーク、⑦女性グループの団結等が挙げれた。 | Asher ・森　茂子<br>日本大学教授／前アジア開発銀行インド事務所所長 |
| | | | 講義と討議 | 家庭教育コース<br>「家族のリストラクチュアリング」<br>少子高齢社会を迎え、家事・育児・介護等が男性、女性にプレッシャーになっている。２１世紀夫婦、親子がどう生き残ればよいか、その提言として、家族の再構築の必要性を説く。具体的な提言として、①家族の経済基盤の整備と再構築（結婚・子育てしても中流生活が維持できる方策等）、②自立しようとする若者支援、③家族の愛情基盤の整備、再構築（コミュニケーションの活発化）が挙げられた。 | 山田　昌弘<br>東京学芸大学助教授 |
| | 13:30<br>～<br>15:30 | | 講義と討議 | 「意識変容・エンパワーメントに向けた学習とは」<br>男女共同参画社会をめざす学習の視点として、①ジェンダーに敏感な視点、②エンパワーメトの視点が提示され、学習者のエンパワーメントに向けた学習のあり方として、①参加型学習、②学習者からのフィードバックによってプロセスを修正しつつ展開する学習プログラムが提示された。 | 入江　直子<br>神奈川大学教授 |
| | 15:30<br>～ | | 自由時間 | 自由研究、婦人教育情報センター利用、施設見学会館の周辺散策等、参加者が自由に過ごした。 | |

| 日 | 時間 | | 種類 | 内　　容 | 講 師 等 |
|---|---|---|---|---|---|
| 第４日（1月27日） | 9:00<br>～<br>12:00<br><br>４つのうち、一つ選択 | 男女共同参画社会の形成に教育・学習の方法 | ワークショップ | ワークショップ　Ⅰ<br>「Ｗｅ　ｃａｎ！　－女性職人への挑戦」<br>男女共同参画社会基本法、改正均等法等の法整備により女性の職域も広がりつつあるが、現場はまだまだ女性にきびしい。男女共同参画社会に向け、女性と職業についてアメリカの女性職人の状況と比較しながら、今後の方向を探った。 | 荻原みどり<br>（有）ハンディーウーマン代表取締役／トレーズウーマン（女性技能職人）ネットワーク呼びかけ人 |
| | | | | ワークショップ　Ⅱ<br>「女には女の歌があるのか？」<br>若手女性歌人である俵万智、水原紫苑、小島ゆかり等の歌を対象に、歌人の歌に現れているジェンダー意識を検証し「女には女の・・・・・がある」という考え方の行方を探った。 | 阿久津 英<br>歌人<br>内野 光子<br>歌人<br>小林とし子<br>歌人 |
| | | | | ワークショップ　Ⅲ<br>「児童虐待を考える」<br>近年急増する児童虐待の防止策についてグループ討議を行い、①地域の行政の横のネットワークづくり、②地域で母親を孤立化させない、③子どもに相談し易い環境づくり、④ファミリーダイナミクスを意識した相談の必要性等が提案された。 | 上出 弘之<br>社会福祉法人 子どもの虐待防止センター理事長 |
| | | | | ワークショップ　Ⅳ<br>「女性の家庭生活・育児ストレスを解消するには」<br>各種データにより家庭生活や育児による女性のストレスの増強を明らかにし、女性のストレスの構造とストレス解消の方途について考えた。 | 稲葉 昭英<br>東京都立大学助教授 |
| | 13:30<br>～<br>16:30 | | 体験学習 | 「男女共同参画社会に向けた学習方法」<br>ジェンダーに敏感な視点を身につけるための学習プログラムの企画に当たり、参加型学習を体験することを通し、学習者を学習プロセスの主体にするということ、エンパワーメントのための学習のあり方、学習支援者の役割等について考えた。 | 藤村久美子<br>東洋英和女学院大学教授 |
| | 17:00<br>～<br>18:00 | | グループワーク | 「課題と方策研究のまとめ」<br>研修２日目に行った「課題と方策研究」の成果を、Ａ～Ｄの分科会別に、その後の研修で得た知識・技能をもとに振り返ることにより、どのような気づきがあったかを話し合った。 | |
| | 19:30<br>～<br>21:00 | | 自由研究 | 参加者が設定したテーマをもとに自由に討論を行い、研究を深めた。 | |

| 日 | 時間 | | 種類 | 内　　容 | 講 師 等 |
|---|---|---|---|---|---|
| 第5日（1月28日） | 9:00<br>～<br>12:00 | まとめ・評価 | グループ討議 | 「研修成果のまとめ・評価」<br>学習者を主体としたプログラムを効果的に進めるためには、講座修了時だけではなく、プログラム進行中、定期的に学習内容・方法に対して学習者からの反応・評価等を口頭あるいは文書で求め、学習者とともに状況を分析し、何がなされ、それはなぜかと振り返ることが必要である。それによって学習支援者が意図していること、あるいは学習作業の趣旨がどの程度学習者に伝わり、理解されたかを確認し、場合によっては学習者の反応に応じて内容・アプローチを調整する等の柔軟な姿勢が重要である」との指摘を受けた上で、初日より各プログラムごとに毎日つけていた「学習日記」と、前日に宿題として出された「研修成果のまとめ・評価のレポート」をグループで読み合い、それを読んでの感想や意見を書き合った。 | 藤村久美子<br>東洋英和女学院大学教授 |
| | 12:00 | | | アドバンストコース修了証書授与<br>閉　会 | |

## 5　今後の課題・展望等

（1）「この研修では、全国の行政担当者や団体・グループのリーダーが一緒であり、しかもグループ討議が多かったので、この研修でなければ絶対聴けないような講義、各種の実施報告書では読み取れない行政担当者の“生”の話を聞くことができ、全国的なネットワークを得ることができた」という参加者の感想が多かった。

（2）プログラムは、「気付き」と「振り返り」「評価」のプロセスを学習の中心に据え、講義・討議、ワークショップ等、さまざまな学習方法を取り入れた。特に、より深い理解に向け「学習日記」と「まとめ・評価のレポート」の執筆・提出を試みた。参加者にはたいへんな作業でもあったようであるが、「書くこと」の重要性を認識しはじめたり、「書けた」自分に自信をつけた参加者が多く見られたことから、今後も、書くことを通して気づき・振り返り・評価のプロセスを学習の中心に据えたプログラムの充実を図る必要がある。

（3）今回特に、「男女共同参画社会の形成に向けた教育・学習の課題と方策研究」のテーマの一つに、「男性を対象とした男女共同参画学習プログラムの企画・立案」を取り上げた。男性向けプログラムづくりは男女共同参画社会の形成に向けた重要課題の一つであることから、今後も新たなプログラム開発を推進する必要がある。

（事業課専門職員　小林千枝子）

# 公開講演会

## 1　趣　旨

女性、家庭・家族に関して当面する課題について解決の手がかりを得るために、有識者による講演会を開催する。

## 2　主　題　「今を生きる、自分らしく生きる」

## 3　期　日　平成１２年2月5日（土）　１３：３０～１５：３０

## 4　参加者　７０９名（女性６１９名　　男性９０名）

### （1）　年齢層別　(人)

| 性 別 | 20歳未満 | 20歳代 | 30歳代 | 40歳代 | 50歳代 | 60歳以上 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 女 性 | 1 | 11 | 7 | 84 | 264 | 252 | 619 |
| 男 性 | 0 | 6 | 6 | 20 | 24 | 34 | 90 |
| 合 計 | 1 | 17 | 13 | 104 | 288 | 286 | 709 |

### （2）　都道府県別　(人)

| 都道府県 | 人数 | 都道府県 | 人数 | 都道府県 | 人数 | 都道府県 | 人数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 青森県 | 4 | 埼玉県 | 336 | 山梨県 | 50 | 大分県 | 18 |
| 岩手県 | 1 | 千葉県 | 2 | 長野県 | 164 | 鹿児島県 | 1 |
| 茨城県 | 46 | 東京都 | 8 | 静岡県 | 7 | 合計 | 709 |
| 栃木県 | 42 | 神奈川県 | 2 | 和歌山県 | 2 | | |
| 群馬県 | 4 | 新潟県 | 21 | 愛媛県 | 1 | | |

### （3）　職業別　(人)

| 性 別 | フルタイム | パートタイム | 農林水産 | 自営業 | 無職 | 学生 | その他 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 女 性 | 94 | 92 | 3 | 37 | 370 | 1 | 22 | 619 |
| 男 性 | 41 | 3 | 3 | 5 | 18 | 0 | 20 | 90 |
| 合 計 | 135 | 95 | 6 | 42 | 388 | 1 | 42 | 709 |

講演を行う如月氏

募集定員を大幅に上回る参加者で一杯となった会場

## 5　プログラムの概要

**(1)　開会　　１３：３０**

**(2)　講演　「今を生きる、自分らしく生きる」　１３：４０～１５：３０**

**講師　劇作家・演出家　　如月　小春**

**(3)　閉会　　１５：３０**

## 6　講演の概要

大学の演劇科で教えていて、練習台本がみつからず困っている。学生は男子より女子の方がずっと多いのに、古今の戯曲の登場人物は男の方が女より多い。劇作家もほとんどが男性の上に、男性の職種は多様でその分多様な設定が創れるが、女性は、母、娘、看護婦、教師と限られている。是非、今までにない多様な女性像を書いていきたい。

高度成長期を経て、日本人は自由気ままに行動できること、今を楽しむことが一番の幸せだと思うようになった。その結果、働いて収入を得ながら、未だに同居し、親に家事を任せ、子どもの時と同じ暮らしをしているパラサイト・シングルが１千万人もいるという。

子どもがいたら仕事はしにくい。子どもを持って仕事をするには、「まわりの人の協力」が不可欠であり、社会的な「制度」だけでなく「自分自身の気力・体力」という三つの問題と立ち向かうこととなる。

私の場合それまで、自分の仕事が誰かにとって何らかの役に立ち、評価され、収入を得て経済的にも自立できることが嬉しくて、また一生懸命働いてきた。仕事をすることは、自分を支えてくれる強い自信につながった。しかし、子どもが生まれると、自分が自分でなくなるのではないかと非常な不安におしつぶされそうになった。

うちの５歳の娘も、どういう男性が「ステキ」なのかというイメージができている。女の子も男の子も、絵本やアニメから未だに変わらない固定的な性別役割の情報を受け、再生産されている。これが変わらない限り、介護も育児も女性の仕事という考えは変わらない。

今一番子育てがしにくい。地域社会は助けてくれない。親戚筋も頼れない。ベビーシッターも費用がかかる。結局は自分の体力だけ。しかし、その結果身体を壊してしまう。最近ようやく楽になってきた。これは料理が作れるほどに成長した娘のおかげ。男も女もどんなに歳をとっても自分で食事が作れる、自分に必要な栄養がわかるようにならなくてはいけない。物を食べるというのは生きる力を得ることである。男も女もなく、土台のところで助け合わなくてはいけない社会がきっと来る。そうなったとき、生き抜ける子どもを育てたい。

自分の声でしゃべろう、そして小首を傾けず堂々と写真に写ろう。どうしてかわいくて誰かを頼らなければならないか弱い「女」を演じなければいけないのか。テレビや舞台や映画の女性像、男性像を批判的に見てほしい。そしてこういうものは見たくないという意見が多くなれば、作家も演出家も製作者も考えを変えるようになるだろう。視聴者からもっともっと声を上げていくことで変わると思う。慣れることにより、おかしいことを「おかしい」と思えなくなることはもっと怖いことである。

## 7　今後の課題と展望

（１）女性、家庭・家族に関して当面する課題について解決の手がかりを得るために、有識者による講演会を今後とも開催する必要がある。特に男女共同参画社会の形成を推進する内容・テーマについての講演会を企画・実施する必要がある。

（２）今後とも男性の参加を積極的に促す内容・テーマ・講師に配慮する必要がある。

（事業課専門職員　土岐　都子）

# 女性の教育問題担当官セミナー

## 1　趣　旨

開発途上国における男女格差の是正と女子の教育機会の保障に対する支援、及び社会発展・開発の担い手となるべき人材を育成するための教育機会の充実を図る。

## 2　主　催

文部省、国立婦人教育会館、国際協力事業団

## 3　研修期間

平成１２年2月２２日（火）～3月１９日（日）　４週間

## 4　参加国

１０か国１０名

カンボディア、エジプト、マラウィ、ミャンマー、ニジェール、ペルー、セネガル、スリランカ、タンザニア、ウガンダ

## 5　概　要

プログラムは、国際協力事業団におけるゼネラルオリエンテーションとカントリーレポートの発表・討議、文部省における教育に関する講義、国立婦人教育会館における女性問題に関する講義と討議、及び東京・大阪・奈良・武蔵嵐山の教育関連機関等の視察により構成され、参加者たちは熱心に課題に取り組んだ。また、参加者たちは、家庭訪問を通して日本の家族との触れ合いを楽しみ、着物の着付けやお茶会などにより日本の伝統文化に親しんだ。

## 6　主な研修日程

次ページの表のとおり

## 7　今後の課題・展望等

（1）今年度は、識字教育の時間配分を増やしたこと、日本人専門家養成コース参加者とのジョイント・セッションを設定したこと、また、小中高大学生との交流、ＰＴＡとの意見交換、企業で働く女性との意見交換等により教育及び女性問題に対する研修員の理解がより一層深まったとの評価を得た。

（2）今後とも研修の構成に配慮し、プログラム内容の充実を図る必要がある。

（情報交流課専門職員　油原ゆう子）

# 平成１１年度女性の教育問題担当官セミナー日程

| 月　日 | 時　間 | 研　修　内　容 | 場　所 |
|---|---|---|---|
| 2/22（火） | | 来日 | 国総研 |
| 2/23（水） | 午前<br>16:00-17:00 | JICAブリーフィング<br>プログラムオリエンテーション | ＴＩＣ<br>国総研 |
| 2/24（木） | 9:45-16:45 | ゼネラルオリエンテーション | ＴＩＣ |
| 2/25（金） | 9:45-17:15<br>18:30- | ゼネラルオリエンテーション<br>フレンドシップパーティー | ＴＩＣ<br>国総研 |
| 2/26（土） | 8:45-13:00 | ゼネラルオリエンテーション（都内見学） | ＴＩＣ |
| 2/27（日） | | | 国総研 |
| 2/28（月） | 10:00-10:30<br>10:40-12:30<br><br><br>14:00-17:00 | 審議官表敬訪問<br>講義：「日本の教育制度」<br>文部省大臣官房政策課政策企画官<br>吉田　靖氏<br>講義：「日本の教育の歴史」<br>国立教育研究所教育経営研究部学校経営研究室主任研究官　坂野　慎二氏 | 文部省 |
| 2/29（火） | 10:00-12:00<br><br><br>13:30-14:30<br><br><br>15:00-17:00 | 講義：「教育における男女平等」<br>文部省生涯学習局男女共同参画学習課長　有松　育子氏<br>講義：「健康教育」（性教育、薬物問題を含む）<br>文部省体育局学校健康教育課健康教育企画室専門員　北澤　潤氏<br>講義：「女性と健康」<br>家族計画国際協力財団（ジョイセフ）<br>人材養成事業部長　飯島　愛子氏 | 文部省 |
| 3/1（水） | 10:00-12:00<br><br>13:30-17:00<br><br>17:30-18:45 | 講義：「開発途上国における女性の教育の役割」<br>コースリーダー：アッシャー森　茂子氏<br>カントリーレポート発表・討議<br>コメンテーター：アッシャー森　茂子氏<br>日本文化紹介（水墨画） | 国総研 |
| 3/2（木） | 9:30-12:30<br>13:30-17:00 | カントリーレポート発表・討議<br>コメンテーター：アッシャー森　茂子氏 | 国総研 |
| 3/3（金） | 10:00-12:00<br><br>14:00-17:00 | 講義・視察：「女性と識字」<br>ユネスコ・アジア文化センター<br>講義：「日本における識字の歴史」<br>国際基督教大学教授　千葉　杲弘氏 | 国総研 |
| 3/4（土） | 午後 | 京都に移動 | 京都 |
| 3/5（日） | | 京都観光 | 京都 |
| 3/6（月） | 11:00-14:00<br><br>14:30-17:00 | 講義：「日本の国際協力」（昼食懇談を含む）<br>大阪大学人間科学部教授　中村　安秀氏<br>視察：国立民族学博物館 | 大阪<br>京都<br>（泊） |

| 月　日 | 時　間 | 研　修　内　容 | 場　所 |
|---|---|---|---|
| 3/7（火） | 10:00-12:00<br><br>午後 | 講義及び視察：「女性の高等教育とエンパワーメント」<br>奈良女子大学<br>東京へ移動 | 奈　良<br><br>国総研 |
| 3/8（水） | 10:00-12:00<br>13:30-17:00 | 視察：　文化服装学院<br>討議　「途上国における女子教育の現状と課題」<br>－国際教育協力の役割－」<br>（養成研修教育コースとのジョイントセッション） | <br>国総研 |
| 3/9（木） | 10:00-12:00<br><br>13:00-15:00<br>15:30-17:30<br><br>18:30-20:00 | 講義：「日本の女性の現状と課題」<br>日本女子社会教育会理事長　藤原　房子<br>バスで会館へ移動<br>講義：「婦人教育施設の役割とＮＷＥＣ」<br>国立婦人教育会館長　大野　曜<br>歓迎会 | 国総研<br><br><br><br>会　館<br>（泊） |
| 3/10（金） | 9:30-11:30<br>12:00-14:30<br>15:00-15:30<br>19:00-20:00 | 視察：　嵐山町立七郷小学校<br>視察：　嵐山町立菅谷中学校（給食を含む）<br>嵐山町長表敬訪問<br>ＰＴＡとの懇談 | 会　館 |
| 3/11（土） | 13:30- | 文化プログラム：家庭訪問 | 会　館 |
| 3/12（日） | | | 会　館 |
| 3/13（月） | 9:30-12:00<br>15:00-17:00 | 視察：大妻嵐山高等学校視察<br>視察と討議：「働く女性の現状」<br>富士通株式会社関東支社 | 会　館 |
| 3/14（火） | 10:00-12:30<br><br><br>14:00-16:30 | 講義：「学校・家庭における男女平等教育」<br>お茶の水女子大学生活科学部教授<br>牧野カツコ氏<br>講義：「ドメスティック・バイオレンス」<br>武蔵野女子大学人間関係学部教授<br>小西　聖子氏、及び同大学心理臨床センター<br>カウンセラー　石井　朝子氏 | 会　館 |
| 3/15（水） | 10:00-12:30<br>及び<br>14:00-16:30 | ﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ：「ジェンダーセンシティビティ トレーニング」<br>東洋英和女子学院大学教授<br>藤村ファンズロー久美子氏 | 会　館 |
| 3/16（木） | 9:30-12:00<br>13:30-15:00<br><br>15:30-17:00 | ﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ：「ジェンダーと教育：これからの課題と提案」<br>指導者：アッシャー森　茂子氏<br>文化プログラム（着付け、お茶会） | 会　館 |
| 3/17（金） | 10:00-12:00<br>15:00-16:30<br>17:00-17:30<br>17:30- | バスで国総研へ移動<br>評価会<br>閉講式<br>フェアウェルパーティー | 国総研 |
| 3/18（土） | | 帰国準備 | 国総研 |
| 3/19（日） | | 離日 | |

文部省今村大臣官房審議官表敬訪問

カントリーレポートの発表

大阪大学大学院生との懇談

京都視察旅行（金閣寺にて）

文化服装学院を訪問

小学校で歓迎を受ける

小学生と話をする研修員

中学校での授業参観

嵐山町小・中学校ＰＴＡとの懇談

大手企業の女性管理職との懇談

会館での講義風景

ワークショップに真剣に取り組む

着物の着付を終えて

お茶会・初めての味ににっこり

閉講式終了後の記念撮影

国 際 協 力 事 業 団
JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY
February 22 - March 19, 2000
(As of February 22, 2000)

# LIST OF PARTICIPANTS IN "SEMINAR FOR OFFICERS OF WOMEN'S EDUCATION"

（平成11年度　女性の教育問題担当官セミナー　研修員リスト）

| No. | Photo | Country | Name | Date of Birth (Age) | Present Post | Final Education | Mailing Address |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | | Cambodia | Ms. SIENG Sorvathana<br>（ソルバタナ） | Feb. 15, '47<br>(53)<br>(D-99-11780) | Deputy Director<br>Dept. of Primary and Pre-school Education<br>Ministry of Education, Youth and Sports<br>小学校・幼児教育部次長<br>教育、青少年、スポーツ省 | Teacher Training University (Pedagogy) | 169 Norodom Boulevard,<br>Phnom Penh, Cambodia |
| 2 | | Egypt | Ms. Ahlam Mahmoud Abel-Ghany BAHLOOL<br>（アハラム） | Jul. 17, '57<br>(42)<br>(D-99-12027) | Information Officer<br>National Council for Childhood and Motherhood<br>幼児と母親に関する国家審議会<br>情報担当官 | Cairo University<br>(Mass Communication) | 4 Bahlool St.<br>King Fissal Way Al-Haram<br>Egypt |
| 3 | | Malawi | Mr. Joseph Bandawe Kuthemba MWALE<br>（ジョセフ）　(C/P) | Mar. 3, '40<br>(59)<br>(D-99-03175) | Director of Education Planning<br>Ministry of Education<br>教育企画部長<br>教育省 | University of Alberta (Canada)<br>(Psychology, Statistics) | c/o Ministry of Education<br>PIBag 328, lilongwe 3<br>Malawi |
| 4 | | Myanmar | Ms. Daw Myint Myint Than<br>（タン） | Sep. 18, '47<br>(53)<br>(D-99-11240) | Deputy Director (Planning)<br>Dept. of Educational Planning and Training<br>Ministry of Education<br>教育企画及び研修部次長<br>教育省 | Institute of Education<br>(Teacher Education) | c/o Dept. of Educational Planning and Training<br>Ministry of Education<br>123, Natmaut Road<br>Yangon, Myanmar |
| 5 | | Niger | Mr. Djibo MALIKI<br>（マリキ） | '60<br>(39)<br>(D-99-11946) | Head of Program Division<br>Ministry of National Education<br>教育プログラム部長<br>教育省 | University (Teaching) | c/o Ministry of National Education<br>BP 557 Niamey<br>Niger Republic |
| 6 | | Peru | Ms. PEREZ-PACHECO Guerra, Lidia Elvira<br>（エルヴィラ） | May 22, '58<br>(41)<br>(D-99-11892) | Legal Councellor - Lawyer<br>Ministry of the Advancement of Women and Human Development<br>法律顧問<br>女性及び人材開発省 | Catholic University of Peru<br>(Law) | Jr. Coraceros 145-4,<br>Pueblo Libre, Lima, Peru |
| 7 | | Senegal | Ms. Mame Oumy SECK<br>（ウーミィ） | Aug. 2, '53<br>(46)<br>(D-99-11476) | Responsible for Gender Unit<br>Institut National d' etudes et d' Action pour le Development de l' Education<br>Ministry of National Education<br>ジェンダー担当官<br>国立教育開発研究所　教育省 | Dakark University<br>(English Literature) | Leona Champs de Courses<br>Rufisque Rue de Sangalcam<br>Senegal |
| 8 | | Sri Lanka | Ms. Vedearachchige Geetha Kumudini ABEYGUNAWARDENE<br>（ギータ） | Nov. 4, '54<br>(45)<br>(D-99-11778) | Assistant Director of Education<br>Ministry of Education & Higher Education<br>教育部次長<br>普通・高等教育省 | University of Peradeniya<br>(Education) | c/o English Unit,<br>Ministry of Education & Higher Education,<br>Isurupaya, Battaramulia,<br>Sri Lanka |
| 9 | | Tanzania | Ms. Mhaza Gharib JUMA<br>（ジュマ） | Dec. 16, '70<br>(29)<br>(D-99-11243) | Women Officer, Ministry of State,<br>Women and Children's Affairs<br>女性問題担当官<br>女性・婦人問題部<br>国務省 | University of Dar-Es-Salaam<br>(Sociology) | P. O. Box 577<br>Zanzibar, Tanzania |
| 10 | | Uganda | Mr. KYATEKA Francis Mondo<br>（モンド） | Jul. 24, '68<br>(31)<br>(D-99-12168) | Principal Youth Officer, Personal Assistant to Minister, Ministry of Gender,<br>Labor and Social Development<br>青少年担当官　大臣補佐官<br>ジェンダー・労働・社会開発省 | Makerere University<br>(Political Science, Public Administration, Literature) | c/o Ministry of Gender,<br>Labor and Social Development<br>P. O. Box 7136 Kampala<br>Uganda |

# 女性学・ジェンダー研究フォーラム
## 女性のエンパワーメントと女性学・ジェンダー研究
## ー新しい価値の創造ー

### 1　趣　旨

男女共同参画社会の形成に向け、女性のエンパワーメントの推進・女性の人権の確立を図るため、団体・グループ・個人・行政が行ってきた女性学・ジェンダー研究と女性のエンパワーメントにかかわる多様な研究・教育・実践活動の課題や成果を出し合い、情報交換を行う。

### 2　主　題

「女性のエンパワーメントと女性学・ジェンダー研究　ー新しい価値の創造」

### 3　期　日

平成１１年８月６日（金）～８日（日）　　２泊３日

### 4　参加者

２，０５７人（女性１，８９２人　男性１６５人）
＊内ワークショップ運営者　４７７人

**(1)　年齢層別**　　上段：人　下段：（%）

| | 20歳代以下 | 30歳代 | 40歳代 | 50歳代 | 60歳代以上 | 不明 | 合　計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 女性 | 141<br>( 7) | 187<br>(10) | 471<br>(25) | 598<br>(32) | 337<br>(18) | 158<br>( 8) | 1,892<br>(100) |
| 男性 | 17<br>(11) | 33<br>(20) | 53<br>(32) | 22<br>(13) | 15<br>( 9) | 25<br>(15) | 165<br>(100) |
| 合計 | 158<br>( 8) | 220<br>(11) | 524<br>(25) | 620<br>(30) | 352<br>(17) | 183<br>( 9) | 2,057<br>(100) |

**(2)　所属別**　　上段：人　下段：（%）

| | 公務員 | 研究者・教員 | その他有職 | 団体・ｸﾞﾙｰﾌﾟ | 主婦 | 学生 | 不明・無職 | 合　計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 女性 | 464<br>(25) | 186<br>(10) | 287<br>(15) | 691<br>(36) | 43<br>( 2) | 79<br>( 4) | 142<br>( 8) | 1,892<br>(100) |
| 男性 | 96<br>(58) | 17<br>(10) | 29<br>(18) | 10<br>( 6) | -<br>( -) | 8<br>( 5) | 5<br>( 3) | 165<br>(100) |
| 合計 | 560<br>(27) | 203<br>(10) | 316<br>(16) | 701<br>(34) | 43<br>( 2) | 87<br>( 4) | 147<br>( 7) | 2,057<br>(100) |

## 5　プログラム日程

| | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第1日 | :30 | | | :30 | 開会 | シンポジウム「どう生かす－男女共同参画社会基本法」 | | スピークアウト | | 交流会 :30 | | | |
| 第2日 | | ワークショップⅠ（関心あるワークショップに自由参加） | | 昼食休憩 | ワークショップⅡ | | 休憩 | ワークショップⅢ | | | 自由交流 | | |
| 第3日 | | ワークショップⅣ | | 昼食休憩 | ワークショップⅤ | ※　ワークショップⅤ終了後、流れ解散<br>※　ワークショップ開催中、「交流のひろば」を開設し、ネットワークの呼びかけ等を行った。<br>※　全日程を通して「情報のひろば」を開設し、女性学・ジェンダー研究に関するチラシ・資料等を交換した。 | | | | | | | |

## 6　企画委員

本フォーラムの企画を会館と共同で行った。

稲葉　昭英　　東京都立大学助教授
門田　欣也　　愛媛県女性総合センター主事
河野　銀子　　山形大学教育学部助教授
中島　美幸　　愛知淑徳短期大学講師
古久保さくら　北海道大学教育学部助手
堀田　　碧　　女性学研究会
米田　禮子　　グループみこし

シンポジウム　超満員の講堂

この子たちのためにも、21世紀は
ジェンダーフリーな社会に！

## 7　実施されたワークショップ一覧

＊　共同ワークショップ

| No. | タ　イ　ト　ル | 実施主体（都道府県名） | 方法 |
|---|---|---|---|
| 1 | 「ジェンダーチェックをチェックして」――その後 | みえ ウィメンズ・プラン（三重県） | パネル展示 |
| 2 | 女性スポーツの現在 | 京都スポーツと女性フォーラム（京都府）ＪＷＳ(Japanese Association for Women in Sport )（京都府） | シンポジウム |
| 3 | 「ジェンダーと移住」 | アジア女性センター（福岡県） | 報告・討議 |
| 4 | わたしからフェミニズム 日本女性学研究会・20年のあゆみ | 日本女性学研究会（大阪府） | パネルディスカッション |
| 5 | 男女共同参画地域アドバイザーの養成をめざして | 栃木県婦人教育推進連絡協議会（栃木県） | 報告・討議 |
| 6 | お母さんが語る「女子差別撤廃条約」 | 練馬ジェンダー研究会（東京都） | パネル展示 |
| 7 | 行動する女たちの会とこれからの運動、女性学をつなぐ | 「行動する女たちが 拓いた道」編集委員会（埼玉県） | パネルディスカッション |
| 8 | 街の中の“レディースデイ”を考える | 藤原美妃子ほか（千葉県） | 報告・討議 |
| 9 | 学習・活動・交流のプロセスでエンパワーメント！ | やまぐちネットワークエコー（山口県） | 朗読劇・討議 |
| 10 | 草の根封建親父にはほめごろしが効く！ | ＧＧＰ（福岡県） | 共同作業ほか |
| 11 | 女性が学び続けるために | 大阪市立婦人会館自主グループ連絡協議会（大阪府） | スライド・報告・討議 |
| 12 | 21世紀はジェンダーフリーで | 静岡県海外研修女性の会（静岡県） | 共同作業・ビデオほか |
| 13 | 講座を作る －循環型講座－ | ウイン女性企画（愛知県） | 共同作業 |
| 14 | 女性の権利のちがいのちがい | グループみこし（兵庫県） | 参加体験型学習 |
| 15 | エンパワーメントを実現する　ジェンダーの学びを考える | 大阪ＹＷＣＡ教育総合研究所（大阪府） | 体験学習ほか |
| 16 | ジェンダーフリーの視点を取り入れた保育とは | 松戸市役所保育課・ジェンダーフリーの視点を取り入れた保育研究グループ（千葉県） | 報告・討議 |
| 17 | 市町村の女性行動計画策定をどうすすめるか | 山梨県立女子短大男女共同参画アドバイザー養成講座実行委員会ワーキンググループ（山梨県） | 報告・討議 |
| 18 | 新しい風は市役所から －仕事の固定化解消 | 橿原市役所「新しい風」（奈良県） | 報告・討議 |
| 19 | 地域女性白書つくりませんか | 国際婦人年大阪の会（大阪府） | 報告・討議 |
| 20 | 神奈川県下各自治体の女性プラン・徹底比較と研究 | 江の島塾・ＢＥＮＴＥＮ（神奈川県） | 報告・ﾊﾟﾈﾙ |
| 21 | 市民活動と行政 －だれが主役か？ | 岩川町長を三重県へ呼ぶ会実行委員会（三重県） | 報告・討議 |
| 22 | わたしたちの欲しい年金制度をつくり政策提言しよう！ | 女と男が平等に働くための制度改革をすすめる会（東京都） | 報告・討議 |
| 23 | どうな生き方を選んでも公平な制度 －女性と年金 | ふぇみん 女性と社会プロジェクト（東京都） | 劇・報告・討議 |

| No. | タ　イ　ト　ル | 実施主体（都道府県名） | 方法 |
|---|---|---|---|
| 24 | 地方で女性政策をすすめる工夫アラカルト | おうみはちまん 女性政策をすすめるネットワーク　（滋賀県） | 報告・討議 |
| 25 | 動き始めた！ 山奥の女たち | 黒木町女性問題自主学習グループ「アゲンダム」　（福岡県） | 報告・討議 |
| 26 | 女性施設とボランティア活動 | Vnet社会教育施設ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ交流会（埼玉県） | 報告・討議 |
| ＊27 | 来てみて、しゃべって、手づくりセンター | もりおか女性の会　（岩手県） | 報告・討議 |
| ＊28 | 女性センターと私（公共施設への住民参加） | 共生ネットワーク Teku Teku　（鹿児島県） | ビデオフォーラムほか |
| 29 | 女性センターと女性のいい関係とは | あごら大阪　（大阪府） | シンポジウム |
| 30 | 女性センターにおけるビデオ活用法 | 女性センター情報ネットワーク（東京都） | 報告・討議 |
| 31 | 行政を読み解こう 「自主講座 地方自治 1999」 | 地方自治を学ぶ会とやま　（富山県） | 報告・討議 |
| ＊32 | 女性議員ゼロの自治体はどこ！！ | 鹿児島県内の女性議員を100 人にする会　（鹿児島県） | パフォーマンス･交流・報告・討議 |
| ＊33 | 統一地方選挙：さっぽろ女性会議のとりくみ | さっぽろ女性会議　（北海道） | |
| ＊34 | やまがたの女性は今 | やまがたファーラ市民会議　（山形県） | |
| ＊35 | 女性・新人候補のケース・スタディー | くまもと･バックアップ女性の会（熊本県） | |
| 36 | 女性議員を５０％に！ | '99 女性と政治キャンペーン　（東京都） | 報告・討議 |
| 37 | 政治やるなら楽しまなくちゃ！ | Mainstreaming Women　（福岡県） | 報告・討議 |
| 38 | 女性の仕事・起業 | 女性起業家ネットワーク　（東京都） | 報告・討議 |
| 39 | 女性の起業と支援ネットワークに関する調査研究 | 福岡県女性総合センター「あすばる」　（福岡県） | 報告・討議 |
| 40 | 日中両国比較による「女性と労働」 | 吉田洋子　（埼玉県） | 報告・討議 |
| 41 | 若者の視点からの農村の女性たち | 鹿児島大学教育学ジェンダー研究グループ　（鹿児島県） | 報告・討議 |
| 42 | 男女雇用機会均等法改正と私たちの職場環境を考える | ＮＧＯ石川ネットワーク　（石川県） | 報告・討議・共同作業 |
| 43 | ホームヘルパーと介護保険 | 高齢社会をよくする女性の会・大阪　（大阪府） | ミニシンポジウム |
| 44 | 介護保険を女性の視点から考える | 愛知・高齢社会をよくする会　（愛知県） | 報告・討議 |
| 45 | 農村女性の地位向上と介護労働 | 藤岡絹恵ほか　（福井県） | 報告・討議 |
| 46 | くらしに活かそう！「女子差別撤廃条約」 | 国際女性の地位協会　（東京都） | シンポジウム・討議 |
| 47 | ＤＶ防止プロジェクト活動の成果 | ＤＶ防止プロジェクト　（東京都） | 報告・討議 |
| 48 | あなたもセクハラ防止プログラムのリーダーになろう | かながわ女性会議　（神奈川県） | 参加体験型学習 |
| 49 | 埼玉県かけこみシェルターを立ち上げて | 埼玉おんなのシェルター駆けこみの家　（埼玉県） | ビデオフォーラム |
| 50 | ドメスティック・バイオレンスは社会の問題、政治の問題 | ＡＭＯＣ富士　（静岡県） | 報告・討議等 |
| 51 | ＤＶ防止プログラム作成の試み | ストップ・THE・ＤＶ・フォーラム　（東京都） | 体験学習 |

| No. | タ　イ　ト　ル | 実施主体（都道府県名） | 方法 |
|---|---|---|---|
| 52 | 女性に対する暴力 | ぐるうぷ：NO！セクシュアル・ハラスメント（福岡県） | 報告・討議 |
| 53 | デートレイプを考える | ぐるーぷＢＯＮＡ（神奈川県） | 共同作業等 |
| 54 | Ｄ．Ｖ．条例をつくろう！ | 政策集団・フェミネット（東京都） | 共同作業等 |
| 55 | なぜ夫は暴力をふるったか | 地域社会と女性のエンパワーメント（東京都） | 報告・討議 |
| 56 | セクハラ全廃 | グループ・セクハラ全廃（埼玉県） | 報告・討議 |
| 57 | 発展途上国における女性の性的自己決定 | 宮地歌織ほか（東京都） | 報告・討議 |
| 58 | 女性たちの「性」を語ろう | らぽーるＤ＆Ｎ（東京都） | 問題提起等 |
| 59 | 受けそこねた“性教育”学びあいませんか？ | フェミニズムの視点で性教育を模索する会（長野県） | 講義・討議 |
| 60 | トランスジェンダーを巡る状況とジェンダーとセクシュアリティー | ＴＳとＴＧを支える人々の会（東京都） | 発表・討議 |
| 61 | 老いとセクシュアリティー | 牛島光恵ほか（東京都） | 報告・討議 |
| 62 | 女性の自己決定権を尊重した「からだと性の法律」を考える | からだと性の法律をつくる女の会（東京都） | 報告・討議 |
| 63 | 十代の女性と出産 | 渋谷泰代ほか（北海道） | 報告 |
| 64 | ヘテロセクシズムの解体に向けての新たな知の枠組を索模する | ジェンダーフォーラム・なにわ（大阪府） | 報告・討議 |
| 65 | ジェンダーフリーな子ども向け雑誌作り | ハー・ストーリィ北九州（福岡県） | 共同作業 |
| 66 | メディア・アクセス、はじめよう | メディアウォッチング香川（香川県） | ビデオ・作業等 |
| 67 | 落語でジェンダーブレーク | 桂　文也（京都府） | 創作落語 |
| 68 | 子守唄とジェンダー | 子守唄研究室（東京都） | 報告・討議 |
| 69 | ジェンダーフリーをめざして－赤ずきんは考えた！ | おやま女性活動地域推進員会（茨城県） | 報告・討議等 |
| 70 | 暮らしの中のジェンダーチェック | 今市市連合婦人会（栃木県） | 寸劇 |
| 71 | コラージュに挑戦！　－女と男の貼り絵をつくろう | 秋田市女性学習センター・情報活用ボランティア（秋田県） | 報告・共同作業 |
| 72 | アートリテラシーを高校の授業にどう取り扱ったか | 岡山女性フォーラム（岡山県） | 報告・討議 |
| 73 | 女には女の歌があるのか？ | 戦後短歌史とジェンダーを研究する会（東京都） | 報告・討議 |
| 74 | レディースコミックを知る　－現状と課題 | まつど女性会議（千葉県） | 報告・討議 |
| 75 | 映像にみる女性・表現・差別 | 「加恵、女の子でしょ！」上映委員会（東京都） | ビデオフォーラム |
| 76 | 男女共同参画社会啓発カルタ　カルタ遊び | 倉吉市女性問題地域推進会議（鳥取県） | 展示・遊び |
| ＊77 | 八戸市広報に掲載、市民が創る情報紙 | 「With you」編集スタッフ（青森県） | ミニフォーラム |
| ＊78 | あなたの生き方、わたしの生き方 | 新潟県女性国内研修者の会（新潟県） | 報告・討議 |

| No. | タ　イ　ト　ル | 実施主体（都道府県名） | 方法 |
|---|---|---|---|
| 79 | ジェンダーフリー教育を楽しもう | じぇんだぁ・ふりぃＢＯＸ　（大阪府） | 共同作業 |
| ＊80 | 愛知県における男性家庭科教員の動向とジェンダーについての 考察 | 今村浩一　（愛知県） | 報告・討議 |
| ＊81 | 高校での男女共修家庭科の実践 | 大沼洋子　（宮城県） | |
| 82 | 市民を教育の中に！ | 教育の中の女性差別を考える会（大阪府） | 報告・討議 |
| 83 | 家庭調査から見えてきたジェンダー教育の問題 | 男女平等をすすめる教育全国ネットワーク関西　（大阪府） | 報告・討議 |
| 84 | 学校をジェンダーフリーに　－動きをつくる | 学校をジェンダーフリーに・全国ネット（神奈川県） | 報告・討議 |
| 85 | あなたもどうぞ授業・教科の中での男女平等教育 Part２ | 東京男女平等教育研究会　（東京都） | シンポジウム等 |
| 86 | 地方の時代とエンパワーメント教育 | 日本ジェンダー学会　（兵庫県） | シンポジウム |
| 87 | 「ディカプリオ」から考える家族・モモからうまれたモモ子ちゃん | 学校をジェンダーフリーに・大阪ネット（大阪府） | 報告・討議 |
| 88 | わたしの名前は『うちのヨメ』 | ぎふ別姓の会　（岐阜県） | 報告・討議等 |
| 89 | 子どものいない人生を考える | チャイルド・フリー　（福岡県） | 問題提起等 |
| 90 | 母像　－外国人花嫁、主婦の友、母と妣 | 母たちの民族に学ぶ会　（東京都） | 報告・討議 |
| 91 | ジェンダーの視点から探る子育て支援 | かつしか女性会議　（東京都） | 報告・討議 |
| 92 | 日本で第一位　－３世代同居による女性の姿 | ＷＨＯ’Ｓ　山形　（山形県） | 報告・討議 |
| 93 | ２１世紀の子育てサポートの取り組みについて | ジェンダー視点で男女共同参画を考える会　（佐賀県） | 報告・討議 |
| 94 | 高度情報化社会における子育てネットワークづくり | 中野洋恵国立婦人教育会館主任研究官ほか | 報告・討議 |
| 95 | 開発と女性 | 豊見城村ウージ染め共同組合　（沖縄県） | パネル展示 |
| 96 | 女性のエンパワーメントと開発 | 伊藤眞知子国立婦人教育会館研究員ほか | 報告・討議 |

ジェンダー落語

男女共同参画カルタ

## 8　主なプログラムの内容

### (1)　シンポジウム「どう生かす！　－男女共同参画社会基本法－」

男女共同参画社会を構築するための法基盤である「男女共同参画社会基本法」。この基本法をもとに、具体的にどう実行していけばよいかを考えた。

| | | |
|---|---|---|
| シンポジスト | 江橋　　崇 | 法政大学教授 |
| | 大沢　真理 | 東京大学教授 |
| | 橋本ヒロ子 | 十文字学園女子大学助教授 |
| | 山口みつ子 | 財団法人市川房枝記念会常務理事 |
| 司　　会 | 米田　禮子 | 本フォーラム企画委員・グループみこし |

**〔発言要旨〕**

**大沢**：従来、日本の女性政策は女性の地位向上、あるいは女性問題解決ということを大きな目標として掲げて展開されてきた。それが第４回世界女性会議等も転換点の一つとなってジェンダー平等の実現へ、さらに進んでジェンダーからの解放、ジェンダーフリー社会の実現へと大きく政策領域を広げてきている。その根拠を今回の基本法は与えている。

**江橋**：自治体は現場を抱えており、市民の人権問題にしろ、差別問題あるいは“素人感覚”にしろ、現場からで出たものを汲み上げていくのが、現代および未来の政治・行政ではないかと思っている。

現場に近い自治体は、国の行政よりも先進的になりうる構造的な可能性をもっているのに、女性行政をみれば、国主導で改革が進行している。自治体がその後を追っていくのはいかにも情けない。自治体や地域で頑張ることが大切である。

**橋本**：海外の男女平等法及び雇用平等法以外の関連個別法制定の状況として、ジェンダーの主流化に向けた法律としては、ノルウェー、フィリピンで制定されている。その他としては、家庭内暴力廃止法（韓国、マレーシア、台湾)、女性に対する暴力廃止法（韓国、アメリカ)、女性差別防止・救済法（韓国)、セクシュアルハラスメント防止法（フィリピン)、強姦防止法（フィリピン）等がある。

**山口**：基本法ができて、大勢の女性たちが物凄い期待をしている。これは特効薬であり、これがあるとすべて解決できそうな、行政を動かせそうなことを言うが、それはまさに幻想であって、これからが勝負なんだという感じがする。

女性は今まで民主主義というと観客の席にいた。これからはこのステージに立って主演する、そういう立場の民主主義をつくらなければならない。

### (2) 自主企画ワークショップ

自主企画のワークショップは、全国各地から多くの応募を得、企画委員会で調整して、１２０件のワークショップが実施された。

その内容をみると、

| | 平成１１年 | 平成１０年 | 平成９年 | 平成８年 |
|---|---|---|---|---|
| 〔総　　数〕 | ９６件 | １２０件 | １０５件 | ６０件 |
| 「女性問題・ジェンダー研究」 | ８件 | （１１件） | 〔１０件〕 | ＜１７件＞ |
| 「女性の教育・学習」 | ７件 | （１１件） | 〔　３件〕 | ＜　４件＞ |
| 「女性政策」 | ９件 | （　６件） | 〔１３件〕 | ＜　５件＞ |
| 「女性施設」 | ６件 | （　３件） | 〔　５件〕 | ＜　１件＞ |
| 「政策決定の場への女性の参画」 | ７件 | （　６件） | 〔　４件〕 | ＜　４件＞ |
| 「女性と労働」 | ５件 | （１０件） | 〔　６件〕 | ＜　４件＞ |
| 「女性と介護」 | ３件 | （　３件） | 〔　１件〕 | ＜　－件＞ |
| 「女性と人権」 | １件 | （　２件） | 〔　－件〕 | ＜　１件＞ |
| 「女性に対する暴力」 | １０件 | （　７件） | 〔　２件〕 | ＜　－件＞ |
| 「女性のからだ・セクシュアリティ」 | ８件 | （　７件） | 〔　９件〕 | ＜　２件＞ |
| 「女性とメディア」 | ２件 | （　５件） | 〔　６件〕 | ＜　２件＞ |
| 「女性と表現」 | １０件 | （１０件） | 〔１２件〕 | ＜　４件＞ |
| 「女性情報」 | ２件 | （　２件） | 〔　－件〕 | ＜　－件＞ |
| 「ＧＯとＮＧＯとの連携」 | －件 | （　４件） | 〔　２件〕 | ＜　－件＞ |
| 「ネットワークづくり」 | －件 | （　２件） | 〔　２件〕 | ＜　－件＞ |
| 「グループの活動報告」 | －件 | （　９件） | 〔　－件〕 | ＜　－件＞ |
| 「学校教育における男女平等教育」 | ９件 | （　８件） | 〔１１件〕 | ＜　３件＞ |
| 「家族・家庭・子ども」 | ７件 | （１１件） | 〔１５件〕 | ＜　７件＞ |
| 「開発と女性」 | ２件 | （　３件） | 〔　３件〕 | ＜　３件＞ |
| 「女性と環境」 | －件 | （　－件） | 〔　１件〕 | ＜　－件＞ |
| 「女性史」 | －件 | （　－件） | 〔　－件〕 | ＜　３件＞ |

となっている。昨年度に比べ、「女性に対する暴力」「女性政策」「女性施設」をテーマとしたワークショップの増加が目立った。

また、運営・実施方法も工夫されており、ビデオなどの視聴覚機器を用いたもの、パフォーマンス形式のもの、共同作業を取り入れたもの等、さまざまな学習方法が用いられ、バラエティーに富んでいた。

## 9　今後の課題・展望等

（１）“研究”“教育”“実践活動”を結ぶ研究交流の場として、一層フォーラムの充実を図るためにも、研究者に魅力ある内容とすることが必要である。

（２）男女共同参画社会の形成を考えるとき、その参加の対象の拡大を考えていくことが必要であり、男性、若年層の参加を増やしていくことが、求められる。

（３）各地で「本フォーラムに参加することで力がつき、自信がついた」という参加者の声を聞く。フォーラムでの成果を、地域でどのように生かしているか、何をもってエンパワーメントの評価とするのか、その尺度を考えることが必要である。

（事業課専門職員　小林千枝子）

# 男女共同参画学習フェスティバル '９９ in ヌエック

## １　趣　旨

男女共同参画社会の形成に向けた学習・活動を行っている団体・グループを対象として、日頃の学習成果・実践活動の報告・発表、作品等の展示、交流の機会を提供し、ネットワークの充実を目的とした「男女共同参画学習フェスティバル'99 in ヌエック」を開催する。

## ２　主　題　　「エンパワーメントは21世紀への合言葉ー新たなる共生をめざしてー」

## ３　期　日　　平成１１年１０月２９日(金)～３１日(日)

## ４　参加者

８１団体　７１８人(女性６５６人　男性６２人)

＊内「自由企画プログラム運営者」４０グループ(２５８人)

### (1)　年齢層別　　(人)

| 性別 | 20歳未満 | 20歳代 | 30歳代 | 40歳代 | 50歳代 | 60歳以上 | 不明 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 女性 | 3 | 10 | 23 | 103 | 207 | 162 | 148 | 656 |
| 男性 | 0 | 1 | 11 | 9 | 15 | 20 | 6 | 62 |
| 合計 | 3 | 11 | 34 | 112 | 222 | 182 | 154 | 718 |

### (2)　都道府県別　　(人)

| 都道府県 | 人　数 | 都道府県 | 人　数 | 都道府県 | 人　数 | 都道府県 | 人　数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 北海道 | 53 | 東京都 | 48 | 滋賀県 | 1 | 福岡県 | 8 |
| 青森県 | 5 | 神奈川県 | 19 | 兵庫県 | 8 | 佐賀県 | 9 |
| 宮城県 | 15 | 石川県 | 14 | 島根県 | 10 | 熊本県 | 4 |
| 茨城県 | 1 | 山梨県 | 12 | 岡山県 | 15 | 沖縄県 | 4 |
| 栃木県 | 53 | 長野県 | 36 | 広島県 | 5 | 海外 | 27 |
| 埼玉県 | 297 | 静岡県 | 2 | 香川県 | 16 | 不明 | 4 |
| 千葉県 | 44 | 愛知県 | 7 | 愛媛県 | 1 | 合計 | 718 |

## ５　日　程

| | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第1日 | | | | 開会 | 研究紀要入選論文報告会 | | テーマ別討論 | | | 情報交換会 | | 自由交流 |
| 第2日 | | 自由企画プログラムⅠ | | 昼　食 | 公　開講演会 | | 自由企画プログラムⅡ | | 夕　食 | | 交歓会 | |
| 第3日 | | 自由企画プログラムⅢ | | | | | | | | | | |

## 6　プログラムの概要

### (1)　「国立婦人教育会館研究紀要『第3号』」入選論文報告会

ジェンダーの視点を取り入れた女性や家族をめぐる様々な課題及び研究動向を探るため、また研究発表の場として、「国立婦人教育会館研究紀要『第3号』入選論文報告会」を行った。この報告会においては、紀要委員会委員長により、「ジェンダーと生涯学習」をテーマとして募集した「第３号」の寄稿論文について次のような講評を行った後、２名の入選者が論文の概要を報告した。

①講評

国立婦人教育会館研究紀要委員会委員長　　天野　正子(お茶の水女子大学教授)

**研究紀要のねらい**

・性別・年齢・生活・国境等の「しきり」を超え、研究者だけではなくジェンダーに関心のあるすべての人に開かれたものであること。
・研究と実践のように分野・領域を超えて相互交流的な内容であること。
・共生や男女共同参画社会に関わる新しい価値や考え方を地域・生活・教育等の場からつくる。

**寄稿論文の特色**

寄稿論文のテーマ・内容は、大きく分けると以下の3つであった。
・生涯発達観を持ち、人間の可能性を信じるもの。
・日々の生活の中に「ジェンダーの視点」を取り入れることにより、身近なところに研究課題をさがし生涯学習を広げていくもの。
・学習への参加、参加による変化、及びその要因分析をしたもの。

**学びのプロセス**

①現実の生活の中で問い続けること。問いこそが、学びの原点である。
②問い続ける中で、はっきりしてきたこと、見えてきたことを記録していく。
③記録する中で、学ぶことの体験の意義を明確にする。態度変容はあったのかどうか、他者と交流し合う中で異同を明確にし、社会的な広がりの中で位置づける。
④学びの中ではっきりしたことを、実践に結びつけていく。

**書くことと実践することの関係**

書くことと実践することは、表裏一体である。書くことにより、実践の方向がより確かになったり、また実践せざるを得ないという行動への意欲が深められていく。実践から新たな問いが生まれ、新たな問い、学び、書く、実践が螺旋状になり、自分を明確にする。そして、書くことは、自分を客体化することである。学習実践記録は、人を成長させ、自分自身及び自分を取り巻く周囲をつくり変えていくきっかけとなる。

②報告

石川由香里(活水女子短期大学講師)
「アルコール依存症と女性の関わり－妻のミーティング参加と『支え手』役割の変更」

加藤　道代(東北大学講師)
「育児初期の母親の養育意識・行動とサポート資源」

### (2) テーマ別討論

会館職員のコーディネートにより、婦人教育・家庭教育に関する今日的課題あるいは課題解決に向けた取組についての情報交換を行った。テーマは、次の通りである。

①「日本の女性の現状について」「女性学教育/学習について」
　国立婦人教育会館事業課研究員　　伊藤眞知子

②「ボランティア活動について」
　国立婦人教育会館事業課専門職員　　金　　朝子

③「地域活動ネットワークと団体・グループ活動について」
　国立婦人教育会館事業課専門職員　　小林千枝子

④「家庭・地域で担う子育て支援について」
　国立婦人教育会館事業課専門職員　　土岐　都子

⑤「インターネット体験－女性情報をインターネットで見てみよう」
　国立婦人教育会館情報交流課専門職員　　池田　淑子

### (3) 自由企画プログラムⅠ・Ⅱ・Ⅲ

国立婦人教育会館を拠点にした、あるいはそれぞれの地域での男女共同参画社会の形成に向けた学習・活動を行っている団体・グループに、日頃の学習成果・実践活動の報告・発表・交流等を公募し、４０の自由企画プログラムを行った(内、８件は国立婦人教育会館ボランティアによるものである)。内容は、２５件の学習関係の他、文化活動等の発表、実技体験を含む幅広い内容であった。

**自由企画プログラムでのワークショップ、展示風景**

### 実施された自由企画プログラム一覧

| No. | タ　イ　ト　ル | 実　施　主　体 | 方法・内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 源氏物語から学ぶもの | 源リウ会　埼玉 | 朗読・講義 |
| 2 | 本間栄子・語りの世界 | 本間栄子・語りの世界　東京 | 一人語り |
| 3 | 人は歴史を創り人は未来を創る<br>－杉並の女性の活動の歴史 | 杉並女性団体連絡会<br>東京 | ビデオ上映・<br>冊子展示 |
| 4 | いま男性の自立意識を問う<br>－男性の職場・地域・生活から見えてくるもの | 川崎の男女共同社会をすすめる会<br>神奈川 | 報告・討議 |
| 5 | 男女共同参画社会を実現するために不可欠な、男女の相互理解を深めるための読書運動を展開しよう！ | やませみ読書会<br>石川 | 読書会・討議 |
| 6 | 本音で語る　ハンドブックづくりの喜怒哀楽!?兵庫県立女性センター･イーブン<br>－１５冊のイーブンハンドブックの成果と課題 | 兵庫 | 報告･井上はねこさんとのトーク |

| No. | タ　イ　ト　ル | 実　施　主　体 | 方法・内容 |
|---|---|---|---|
| 7 | 都市・農村女性会議 in さんだ | 三田市立女性センターさんだ 兵庫 | 報告 |
| 8 | 平成１１年利府町女性国内研修<br>－自分の持てるものを生かすには | 利府町公民館･ウーマンカレッジ 宮城 | 報告・ビデオ上映 |
| 9 | 甲府市女性市民会議活動報告 | 甲府市女性市民会議女性のつばさ研修グループ 山梨 | 報告 |
| 10 | 仮想条例を作ってみよう　－男女共同参画社会基本法を私たちの「ことば」で（第４条を中心として） | ふぇみわーど 神奈川 | 報告・討議 |
| 11 | ５年別居離婚・破綻離婚と女性 | ５年別居離婚に反対し、女性の自立を考える会 愛知 | ビデオフォーラム |
| 12 | '99　統一地方選を総括する<br>－女性議員が増えたわけ　増えないわけ | 女性参画研究会・さが 佐賀 | 体験発表・討議 |
| 13 | 北アメリカ・シアトルの女性職人に会いに行こう！<br>ツアー報告会 | トレーズウーマン 埼玉 | ビデオフォーラム |
| 14 | 高齢社会と女性の生き方を考える | '99しまねシンポビデオ制作委員会 島根 | 報告・ビデオ上映・討議 |
| 15 | 写真展　－国際高齢者年<br>－今、なお生き生きと－　人のために、自分のために | 婦人国際平和自由連盟日本支部 東京 | 写真展示 |
| 16 | 手作りミュージカル　「おい、老い、行こか！」 | ドラネコ座 岡山 | ミュージカル |
| 17 | ビデオトーク　国際婦人デーのユニフェムビデオ会議－女性に対する暴力 | 国際婦人年連絡会ユニフェム委員会 東京 | ビデオフォーラム |
| 18 | スクール・セクシュアル・ハラスメントを考える | スクール・セクシュアル・ハラスメント防止ネットワーク準備会 香川 | 報告・ロールプレイ・討議 |
| 19 | 広がる情報社会の中で…　私達も情報社会へ… | 電子レディースの会 石川 | 報告・展示 |
| 20 | 女性の目でみたまちづくり<br>「川のあるまちおっぱまよみがえれ鷹取川」 | よこすか女性の連絡会・追浜まちづくり探検隊 神奈川 | 展示・活動報告 |
| 21 | ハートフルたかまつ<br>まちづくり、くらしづくり | 高松市婦人団体連絡協議会 香川 | 報告・討議 |
| 22 | 肥後にわか<br>「あんたがたどこさ」 | ぷらすONE 熊本 | 寸劇(20分)・ワークショップ |
| 23 | 震災から学び、自分の街を護りましょう<br>あじさい千葉 | 震災からまなぶボランティア 千葉 | パネル展示・被災者体験談 |
| 24 | 小平市女性のつどい２０年のあゆみ<br>－ネットワークを広げよう | 小平市女性のつどい 東京 | パネル展示 |
| 25 | 嵐山に奏でよう夢コンサート、報告 | ゆかいな仲間 埼玉 | 報告･演奏 |
| 26 | 切り絵作品展 | 小川町竹沢切り絵同好会 埼玉 | 展示･実技体験 |
| 27 | 和紙づくりに挑戦 | 和紙の会 埼玉 | 展示･実技体験 |
| 28 | 陶芸作品展 | 陶芸サークルせせらぎ 埼玉 | 作品展示 |
| 29 | 自然とのハーモニー | 嵐山オカリーナ 埼玉 | 演奏(オカリナ、ケーナ等) |
| 30 | 現代吟詠鶯風流波調会発表会 | 現代吟詠鶯風流波調会 東京 | 発表･入門講座 |
| 31 | 和紙づくりに挑戦 | ペーパークラフト 埼玉 | 展示･実技体験 |
| 32 | 切り絵作品展 | 小川町切り絵同好会 埼玉 | 展示･実技体験 |

## 国立婦人教育会館ボランティアによる自由企画プログラム一覧

| No. | タ イ ト ル | 実 施 主 体 | 方法・内容 |
|---|---|---|---|
| ① | 『なごみグループ』って？こんなグループでーす | ヌエックボランティア<br>“なごみグループ” 埼玉 | 発表・展示・交流 |
| ② | 「寝たきり老人にならないために」<br>今、私達のできること | 香和会<br>埼玉 | 実技体験･展示 |
| ③ | 和紙絵作品展 | 小川町和紙絵サークル 埼玉 | 展示･実技体験 |
| ④ | 絵てがみを楽しもう | ら・ふーみ 埼玉 | 展示･実技体験 |
| ⑤ | 七宝焼でアクセサリー作りましょう!! | 門マツエ 埼玉 | 展示･実技体験 |
| ⑥ | 清坐一味友 | 清重会 埼玉 | 実技体験 |
| ⑦ | 茶会 | (社)茶道裏千家淡交会東京第二<br>東西支部青年部 東京 | 実技体験 |
| ⑧ | 野の花と語ろう | 清心会 埼玉 | 実技体験 |

### (4) 公開講演会

公開講演会においては、男女共同参画社会の形成に向け、残間里江子氏・佐藤博樹氏の対談による公開講演会を開催した。男女はこれからどのような課題を担うのか、どう解決すればよいのか、男女のこれからの生き方・働き方についての対談の他、参加者との意見交換が行われた。

①テーマ　「男女が対等な立場で責任を担う社会の実現をめざして」
②講師　残間里江子(プロデューサー)
　　佐藤　博樹(東京大学社会科学研究所教授)
③対談の概要

**男女の働き方**

・改正男女雇用機会均等法・介護休暇法等の影響で、女性の社会参加を進める仕組みができてきた。しかし、男性の働き方が変わらない限り、女性の働き方は変わらないのではないか。男性も女性の運動に影響されて、自由な働き方を求めるようになってきている。自分の生き方を大切にする働き方に変わっていくだろう。
・女性も総合職という形で採用されるようになると、家庭も仕事も望むという人には正社員は選択できなくなってくる。会社が年齢、勤続年数よりも能力を重視するとなると、パートタイムの正社員という勤務形態も生まれ、女性にも有利になってくる。

**男女の生き方**

・女性はまだ、個としての自分と、社会が期待している女性像となかなかつながらないという矛盾が、負い目となっている。一方では男性も、育児、介護に際して自分が参加できないことで負い目を感じている人も出てきている。
・実態はまだまだ変わらないが、男性の中にも仕事だけではなく家庭も大事というように意識変化が起こっている。法律が変わってきているので、社会の変わり方、男女の生き方の変わり方も早くなるのではないだろうか。

対談する残間氏・佐藤氏

・男女共同参画社会基本法の成立は、女性だけではなく、男性もやっといろいろなライフスタイルを選べるようになったことを示している。

**今後の課題**

・女性が働き続けるためには、男性自らのライフスタイルの選択の幅を広げる必要がある。
・女性がいい妻、いい母親をめざすだけでなく、生きたいように生きる、なりたい自分になる、そんな姿を見せることで、男性も変わっていく。女性が変わり男性も変わると、すばらしい世の中になっていく。

### (5) 交流プログラム

事前に連絡を取り合った団体・グループ相互の交流プログラムには、１１グループが参加し、地域、立場、活動内容を超えて、お互いの活動紹介、課題解決に向けての意見交換が行われた。

### (6) 施設見学

国立婦人教育会館の施設見学を希望する団体・グループに対し、会館ボランティアの案内により研修施設・体育施設等の見学、婦人教育情報センターでの情報検索等が行われた。

### (7) 交歓会

本館ロビーを会場として、地域色・グループの特徴を出した踊り、歌、グループ紹介・活動紹介等、参加者による交歓会が行われた。１２団体・グループの発表希望があり、見学だけの参加者も含め、相互の交流を深めた。

## 7 今後の課題と展望

（１）学習・活動内容が多様な参加者の交流を図りながら男女共同参画社会の形成に関する学習を深めるため、参加者がともに関心が持てる話題が含まれた講演会等のプログラムを検討する必要がある。

（２）フェスティバルの企画・運営に当たっては、実行委員会を組織して行ったが、その活動ぶりは参加者から評価された。１２年度においては、実行委員の役割を再検討し共催者として位置づけてフェスティバルの実施に当たることについても検討する必要がある。

（３）２０００年６月には国連「女性２０００年会議」が開催されることから、１２年度においては、男女共同参画社会の形成に関する最新情報を、マルチメディア等の使用により、わかりやすく提供するプログラムの企画・立案が必要である。

（４）フェスティバルの実施に当たっては、多様な参加者層（性別・年代）の拡充を図るため、「フォーラム家庭教育」をプログラムの一部とする等の工夫を検討する必要がある。

（事業課専門職員　土岐　都子）

# ＮＷＥＣ（国立婦人教育会館）国際フォーラム
# 「エンパワーメントは２１世紀への合言葉―新たなる共生をめざして―」

## １　趣　旨

国際連合は、２０００年６月に、「女性２０００年会議：２１世紀に向けての男女平等・開発・平和」を開催する予定である。

これをふまえて、国立婦人教育会館においては、男女共同参画社会の形成のために重要な課題を国際的な視野から討議し、女性のエンパワーメントの推進に資するとともに、国内外のネットワークの形成を図ることを目的とした国際フォーラムを開催する。

## ２　期　日

平成１１年１１月２５日（木）～２７日（土）２泊３日

## ３　参加者

**(1)　総数　５０８名**

**(2)　内訳**

**①参加プログラム別**

ａ．初日のみの参加者　　２８６名

ｂ．３日間を通しての参加者　２２２名

**②国籍別**

ａ．日本　４７２名

ｂ．外国　　３６名（１８か国から）

**③外国人国籍別内訳（国名アルファベット順）**

アジア州　　２０名（バングラデシュ１名、カンボジア１名、フィリピン８名、ヨルダン１名、韓国２名、マレーシア１名、モルディブ１名、ネパール４名、ベトナム１名）

大洋州　　１名（バヌアツ１名）

アフリカ州　　３名（モザンビーク１名、タンザニア１名、ジンバブエ１名）

ヨーロッパ州　　１名（イギリス１名）

北アメリカ州　１０名（カナダ２名、メキシコ１名、アメリカ７名）

南アメリカ州　　１名（パラグアイ１名）

## 4　プログラムの概要

### (1)　基調講演「女性と人権」

スウェーデン産業大臣モナ・サリーン氏のメッセージが駐日スウェーデン大使によって代読された。

### (2)　シンポジウム

テーマ：「政治、職業、教育における女性と人権」

パネリスト：　セシリア・ルースストロムルイン氏
駐日スウェーデン大使館二等書記官（国籍スウェーデン）
リンダ・チャオ・ヤン氏
アジア開発銀行米国代表（国籍アメリカ）
ジョティ・トゥラダー氏
ＩＬＯニューデリー支局ジェンダー女性労働者問題シニア・スペシャリスト（国籍ネパール）
パトリシア・クラントン氏
ニュー・ブランズウィック大学名誉研究者、パーソナル・アンド・プロフェッショナル・エンパワーメント研究所長（国籍カナダ）

コーディネーター：猪口　邦子氏
上智大学法学部教授

アジアの経済危機が女性の人権とエンパワーメントの促進への取り組みに与えた世界的な影響と、その克服の可能性などについて、また、「女性差別の再生産」「いつのまにか身についた“らしさ”の修正」などについて、意見交換が行われた。

### (3)　分科会

①第１分科会「政治・政策決定過程への参画」

パネリスト：セシリア・ルースストロムルイン氏
パク・クムオク氏
社団法人愛の友事務総長（国籍韓国）
木村　陽子氏
奈良女子大学生活環境学部助教授

コーディネーター：岡沢　憲芙氏
早稲田大学社会科学部教授

コーディネーターによる導入の後、韓国、日本、スウェーデンにおける状況の報告が行われるとともに、アメリカなどの外国からの参加者によるそれぞれの国の状況の報告が行われた。また、「少子・高齢化が女性にとってマイナスではなく追い風になる可能性があること」「クォータ制度は諸刃の剣になること」「男性の家庭参加を増やし、女性の社会参加を増やす必要があること」「女性が力を発揮できる政策を見極めるために、情報公開を進める必要があること」などについて、意見交換が行われた。

②第２分科会「職業」

パネリスト：ジョティ・トゥラダー氏
大河原愛子氏
ジェーシーフーズ代表取締役（国籍アメリカ）
大沢　真理氏
東京大学社会科学研究所教授
藻谷ゆかり氏
有限会社ダ・ヴィンチ代表、いい紅茶ドットコム主宰

コーディネーター：下村　満子氏
ジャーナリスト、元「朝日ジャーナル」編集長

コーディネーターによる導入の後、各パネリストから、次のことについての報告が行われた。

・働く女性に対する条件整備の世界的な変化（この四半世紀において）
・日本における女性労働の現状と課題
・労働界における意識や差別等についての日米の比較
・大企業、及び外資系企業の現状と課題

また、「賃金格差」「終身雇用」「能力主義」「転換期における新しい価値の創造」などについて、意見交換が行われた。

③第３分科会「教育・学習」

パネリスト：パトリシア・クラントン氏
ジョセフィン・バリオス氏
大阪外国語大学外国人教師（国籍フィリピン）
中村　誠氏
岡山大学法学部教授、文部省生涯学習局生涯学習調査官
天野　正子氏
お茶の水女子大学大学院人間文化研究科教授

コーディネーター：金井　淑子氏
横浜国立大学教育人間科学部教授

コーディネーターによる導入の後、各パネリストから次のことについて報告が行われた。

・フィリピンのカトリックの女性徒の教育と解放
・日本におけるエンパワーメントに生かす教育、学習
・生涯学習における個別化、エンパワーメント、オーセンティシティ（本物になること）
・教育・学習へのエンパワーメント・アプローチ

また、外国からの参加者から各国の現状についての報告があった後、「女性の理工系大学への進学」「共学と別学」「男性のエンパワーメント」「自分のジェンダー感の問い直し」「隠れたカリキュラム」などについて、意見交換が行われた。

**（4） 全体会**

パネリスト：各分科会の専門家

コーディネーター：下村　満子氏

各分科会のコーディネーターによる分科会報告の後、参加者との間で、男女共同参画社会の実現のために、以下のことについての意見交換が行われた。

・ 男女共同参画社会を形成しようとしている候補者に投票してはどうか。
・ 男性社会で当たり前と思っていたことを女性の視野で再吟味してみよう。
・１人１人がエンパワーして自分自身を変え、世界を変えよう。
・コンピュータなどの新しい情報機器を積極的に活用しよう。
・女性の立候補を資金的に援助する団体（ＷＩＮＷＩＮ）を支援してはどうか。
・今は２１世紀の新しい文明が生まれるための崩壊現象が起こっているが、別な見方をすれば、私たちは非常にいい時代に生まれてきたともいえるので、国際的ネットワークを創り、家や母国に帰って、自分の分野でできることから始めよう。

## 5　今後の課題・展望等

（１）フォーラムの実施に当たっては、今年度初めて日本人専門家５名による企画委員会を開催し、企画・運営に対する助言等を得たことにより、政治、職業、教育の分野に係る様々な分野の専門家を国内外から幅広く招へいすることができるとともに、男女共同参画をめぐる諸問題の解決に資する討議が効果的に行われるなど、充実したフォーラムとなった。

（２）今年度も、総理府が国際協力事業団（ＪＩＣＡ）の研修員受入事業の一環として実施している「男女共同参画セミナー」の研修員（１２カ国１２名）が全期間参加したが、分科会等においても積極的に意見交換等を行っており、大変有意義であった。今後もこのフォーラムへの参加を期待したい。

（情報交流課専門職員　油原ゆう子）

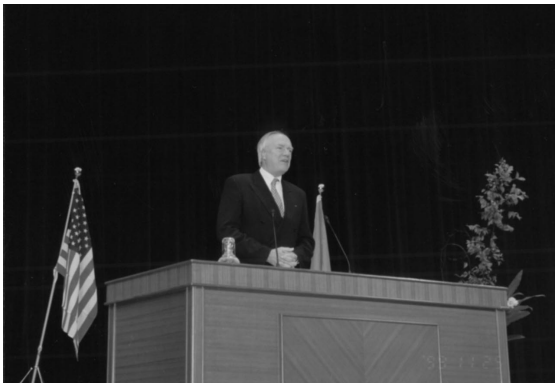
**参加者全員での記念撮影**

# 日　程　表

| | 11月25日（木） | | 11月26日（金） | | 11月27日（土） | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 9：00 | | | | | | |
| 10：00<br>11：00 | | | 分科会<br>第１分科会：<br>「政治・政策決定過程への参画」<br>第２分科会：<br>「職業」<br>第３分科会：<br>「教育・学習」 | 各研修室 | 全体会 | 大会議室 |
| 12：00 | | | 写真撮影（研修棟前） | | 閉会 | |
| 13：00 | 受付 | 講堂前 | 昼食 | 食堂 | | |
| 14：00<br>15：00 | 開会<br>13：45<br>基調講演<br>モナ・サリーン氏<br>（駐日スウェーデン大使代読）<br>「女性と人権」 | 講堂 | 分科会<br>第１分科会：<br>「政治・政策決定過程への参画」<br>第２分科会：<br>「職業」<br>第３分科会：<br>「教育・学習」 | 各研修室 | | |
| 16：00 | シンポジウム<br>「政治、職業、教育における女性と人権」 | | | | | |
| 17：00<br>18：00 | | | | | | |
| 19：00 | 懇親会 | 食堂 | 自由交流 | ラウンジ等 | | |
| 20：00 | | | | | | |

文部省今村大臣官房審議官表敬訪問

懇親会を盛り上げる海外からの参加者



駐日スウェーデン大使によるモナ・サリーン氏メッセージの代読

シンポジウム

第１分科会「政治・政策決定過程への参画」

第２分科会「職業」

第３分科会「教育・学習」

全体会

# ヌエック（国立婦人教育会館）公開シンポジウム

## 1　趣　旨

男女共同参画社会形成に向けた調査研究の充実及び国際協力の推進を図るために、国立婦人教育会館の女性、家庭・家族に関する調査研究の最新の成果を発表し開発とジェンダーに関する意見交換を行う公開シンポジウムを開催する。

## 2　名称・主題　国際シンポジウム「開発におけるジェンダーとエンパワーメント」

## 3　主　催　　国立婦人教育会館、国際協力事業団、東京都教育委員会

## 4　期　日　　平成１１年５月２８日（金）　10:00 ～ 16:30

## 5　会　場　　国際協力事業団国際協力総合研修所
新宿区市谷本村町１０－５（JR・地下鉄市ヶ谷駅より徒歩１０分）

## 6　参加者　　１５３名（女性１１０名　男性４３名）

| | 行政担当者 | グループ・団体・施設関係者 | 報道関係者 | 研究者 | 大学院生・学生 | 国際協力・交流関係者等 | その他 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 女性 | 8 | 24 | 4 | 20 | 19 | 26 | 9 | 110 |
| 男性 | 11 | 3 | 1 | 4 | 1 | 21 | 2 | 43 |
| 計 | 19 | 27 | 5 | 24 | 20 | 47 | 11 | 153 |

## 7　プログラムの概要

### (1)　ＮＷＥＣ調査研究報告「女性のエンパワーメントと開発―タイ・ネパール調査から」

報告者：目黒　依子（上智大学教授）
伊藤　るり（立教大学教授）
大沢　真理（東京大学教授・国立婦人教育会館客員研究員）
原　ひろ子（お茶の水女子大学教授）
司　会：伊藤眞知子（国立婦人教育会館事業課研究員）

### (2)　分科会

＊両分科会とも、英語による発言は逐次通訳付

第１分科会　タイ（東南アジア）
パネリスト：　上村千賀子（群馬大学教授）
橋本ヒロ子（十文字学園女子大学助教授）
吉野　英岐（岩手県立大学助教授）
原　ひろ子（お茶の水女子大学教授）
コーディネーター：　大沢　真理（東京大学教授・国立婦人教育会館客員研究員）

第２分科会　ネパール（南アジア）
パネリスト：　伊藤　るり（立教大学教授）
田中由美子（国際協力事業団評価監理室長）
目黒　依子（上智大学教授）
伊藤眞知子（国立婦人教育会館事業課研究員）
コーディネーター：　大野　　曜（国立婦人教育会館長）

### (3) シンポジウム「開発におけるジェンダーとエンパワーメント」

＊英語による発言は逐次通訳付

講　　師：ゴビンド・ケルカー（タイ・アジア工科大学院助教授）
アマリリス・トーレス（フィリピン大学教授）
清水　俊弘（日本国際ボランティアセンター東京本部総務兼ラオス担当）
鈴木　陽子（国際協力事業団国際協力専門員）

ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ：目黒　依子（上智大学教授）

会場を埋めた熱心な参加者

NWEC調査研究報告

## 8　プログラムの内容

### (1) NWEC調査研究報告「女性のエンパワーメントと開発－タイ・ネパール調査から」

①調査研究経過（報告：伊藤　眞知子）

「開発と女性に関する文化横断的調査研究」の平成６年度から平成１０年度までの調査研究経過について、平成７年度・平成８年度の現地調査(タイ及びネパール)を中心に報告した。

②規範概念としての“エンパワーメント”と分析概念としての“エンパワーメント”（報告：原　ひろ子）

エンパワーメントという概念を分析概念としてとらえることを提案する。倫理的には善悪の判断を超えて中立的に用いるべき概念であり、エンパワーメントに関する評価・測定を行う際には集団ないしは活動グループと個人の両方を分析単位とすべきであると論じた。

③＜女性＞のなかの中心と周辺―ネパールにおける女性の組織化と集合的エンパワーメント―（報告：伊藤　るり）

「ネパール女性」を考察するとき、1)ネーションとしてのネパールにおいて主として法制的に表現されるジェンダー、2)ジャートのなかで社会文化的に表現されるジェンダー、それぞれの中心と周辺を考慮に入れなければならない。また、ネパールにおける女性の組織化は、「上からの動員」による組織化から農村への働きかけへと広がりがみられることを報告した。

④開発政策の比較ジェンダー分析のモデル（報告：大沢　真理）

これまでの社会政策の比較ジェンダー分析の分析枠組を拡張し、開発政策に関する比較ジェンダー分析の方法について提案した。

⑤「開発プロジェクトと女性のエンパワーメント」分析モデルの実証的検討
（報告：目黒　依子）

本調査研究の分析枠組及び分析方法（分析対象、変数と尺度）、分析結果と考察、調査デザインの検証（パス解析の結果）について報告した。

⑥質疑応答

累積効果、資源としての家族、差のあるグループと均質なグループとの違い、伝統的組織、アンペイドレイバーの位置づけ等について質疑が行われた。

## (2) 分科会

①第１分科会　タイ（東南アジア）

ａ．就業構造の変動と農村開発（報告：吉野　英岐）

農村開発プロジェクトを1)既存資源活用型プロジェクト2)新規資源導入型プロジェクトに類型化し、ライフスタイル、就業機会等の世代間格差に注目して、分析を試みた。

ｂ．開発、教育、エンパワーメント―東北タイ農村の事例を中心として―（報告：上村千賀子）

ノンフォーマル教育の視点（「なすことを通して学ぶ」）及びジェンダーの視点（女性の変容を意図的、効果的に支援する)から東北タイの２つの村の事例について考察した。

ｃ．女性の地位向上のための国内本部機構―グラスルーツの女性たちのエンパワーメントに果たしている役割―（報告：橋本ヒロ子）

タイ及びネパールの国内本部機構について考察し、とくにタイのNCSWがグラスルーツの女性たちにリーチアウトするために取り組んでいるようなNGOと連携したプロジェクトが重要であると報告した。

ｄ．質疑応答

ノンフォーマル教育の実態、妻方居住と女性の意思決定参画等について質疑が行われた。

**タイ分科会**

**ネパール分科会**

②第２分科会　ネパール（南アジア）

ａ．調査対象と調査地の概要（報告：伊藤　るり）

ネパールの行政単位等について説明し、３つの調査地における女性のための所得創出プロジェクト（竹細工、ヤギ飼育）や調査対象者について解説した。

ｂ．ネパールにおける女性のエンパワーメントと家族―所得創出プロジェクト参加女性の調査を中心に―（報告：伊藤眞知子）

結婚・出産及び家族に関する調査結果について、タイの場合と比較しながら報告した。

ｃ．参加型開発と女性のエンパワーメント―ネパールにおける事例より―

（報告：田中由美子）

国際援助機関などによりさまざまに行われている参加型開発の定義を整理し、ＪＩＣＡはネパールで住民のニーズに沿って参加を促し社会林業のプロジェクトを展開していることを報告した。

ｄ．質疑応答

コヒヌール・マテマ在日ネパール大使夫人より、教育を通じたエンパワーメントの重要性等について、またＪＩＣＡの元プロジェクト関係者から補足的な発言があり、カーストの実態、エンパワーメントの指標等について質疑が行われた。

**（左から）トーレス氏、鈴木氏、目黒氏、清水氏、ケルカー氏**

### (3)　シンポジウム「開発におけるジェンダーとエンパワーメント」

①国内経済と女性―アジア経済危機の地域における局面（報告：ゴビンド・ケルカー）

　アジア経済危機によるタイ国内経済への影響は、男性よりむしろ地方の農村部の女性、しかも貧しい女性に打撃を与えたということが、タイ東北部でのフィールド調査の結果から結論づけられることを報告した。

②男女平等と女性のエンパワーメント達成へのアプローチアプローチ―フィリピンの経験（報告：アマリリス・トーレス）

　フィリピンにおける開発とジェンダーに関する取り組みについて、NCRFWを中心とした政府主導のプロジェクト及びNGOを中心とする活動及び両者の連携を紹介し、報告した。

③フィリピン女性センターについて（報告：鈴木　陽子）

　日本のODA等により1998年に開設したフィリピンの女性センターにおいて、女性の経済的なエンパワーメント支援の取り組みが行われていることの紹介及び報告があった。

④ジェンダーと開発における市民協力団体（NGO）の役割（報告：清水　俊弘）

　日本国際ボランティアセンターのラオスでの取り組みについて、最大の課題である森林保全をめざす活動とともに女性のエンパワーメントへの支援活動を紹介し、報告した。

⑤質疑応答

　フィリピンのODA予算の割り当て、ラオスの女性によるバングラディシュ男性への染色の指導、女性センターの実績、調査研究結果の政策への影響等について質疑が行われた。

## 9　今後の課題・展望

（１）ヌエックの調査研究報告だけでなく、海外からの講師も加えた３部構成の国際シンポジウムとしたことにより、数多くの参加があり、また研究者や行政担当者に加えて国際協力・国際交流の関係者等、幅広く多様な参加を得ることができた。

（２）プログラムの内容については、報告者が多く、また内容も多岐にわたった上、時間に限りがあったことから、討議を深めるための時間がもう少し必要であるなどの意見も寄せられた。また、ヌエック調査研究報告については、専門の立場から調査研究の要点が報告されて好評であったが、一部開発関連等の用語の理解が困難だったという意見もあった。

（３）１１年度については、国際協力事業団との共催により、東京都内での会場を確保し、会場施設及び機材の設営・運営についてほぼ全面的な提供を得るとともに、幅広い参加者への働きかけを行うことができた。また、東京都教育委員会との共催により、東京都広報の紙面提供、ラジオスポット等、有効な広報手段を用いることができた。今後も、公開シンポジウムの開催に当たっては、共通するテーマで開催できる機関・団体等との共催を積極的に進める必要がある。

（事業課研究員　伊藤眞知子）

# 高齢社会に向けての男女共同参画学習に関する調査研究

## 1　趣　旨

男女共同参画社会の形成を目指し、高齢期における豊かなライフスタイルの実現に向けた男女共同参画学習を進めるため、ジェンダーに敏感な視点に立ち、高齢男女の生活と意識に関する調査研究を行う。

## 2　期　日

平成１１年９月１日～平成１２年３月３１日（２年計画の第１年次）

## 3　研究課題

（１）我が国の高齢人口は総人口の16.2%となり、今後更に急速に増加すると推計されている。本格的な高齢社会を迎えるにあたり、男女共同参画社会の形成および高齢期における豊かで多様なライフスタイルの形成が重要な課題となっている。

（２）生涯学習においては、高齢期に個人がそれぞれの個性に応じて質の高い（生活の質 Quality of Life の高い)、心豊かで、ジェンダーに縛られないライフスタイルを選択実現できるよう、若い時代から、ジェンダーに敏感な視点に立った各ライフステージごとの学習課題についての学習を積み重ねることが必要であろう。同時に、このようなライフスタイルの実現に向けた社会的条件整備および学習活動への支援が求められる。

## 4　調査研究の目的

上記課題の解決に向け、（１）高齢期の豊かでかつ多様なライフスタイル・モデルの明示、（２）個人の高齢期における豊かなライフスタイルの実現に向けての学習課題の明確化を目的とする。

## 5　研究内容と方法

### (1)　研究内容

①教育老年学におけるジェンダーの問題
②高齢者福祉におけるジェンダーの問題
③中高年世代（団塊の世代を中心に）のジェンダー問題に関する実態と意識
④中高年企業人の高齢期における仕事と家事・介護への参画に向けた学習プログラム開発
⑤高齢者問題に関する学習プログラムの事例研究およびプログラム開発
⑥高齢期における女性の社会参画（特に市民活動）能力育成のためのプログラム開発
⑦高齢社会にむけての家族コミュニケーション能力の学習プログラム開発
⑧高齢期の豊かなライフスタイル・モデル

**(2)　年次計画については以下のとおりである。**

①平成１１年度（２年計画の第１年次）

・先行研究のサーベイ（概観）　・テーマ別分担研究

②平成１２年度（２年計画の第２年次）

・調査結果の分析・まとめ　・報告書作成

## 6　実施方法

**(1)　研究プロジェクトの設置**

関連分野の研究者及び国立婦人教育会館事業課研究員等による研究プロジェクトを設置し、調査研究を行う。

**(2)　研究プロジェクトメンバー**

| | | |
|---|---|---|
| 安達　正嗣 | 名古屋市立大学助教授 | （家族社会学・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ論） |
| 新井　茂光 | 特別養護老人ホーム豊幸の郷副施設長 | （高齢者福祉） |
| 内山　早苗 | 内山工房代表取締役・高齢社会を生き抜く人づくり塾主宰 | （ビジネス教育・生涯教育） |
| 葛原　生子 | 安田女子大学助教授 | （成人教育） |
| 堀　　薫夫 | 大阪教育大学助教授 | （教育老年学） |
| 伊藤眞知子 | 国立婦人教育会館事業課研究員 | （女性学・社会学） |
| 小林千枝子 | 国立婦人教育会館事業課専門職員 | （婦人教育） |

## 7　平成１１年度の研究経過（プロジェクト会議３回開催）

（１）上記５の研究内容に関する先行研究についての報告・検討を行い、今後の調査研究の方向について確認した。

（２）上記研究内容をテーマ別に分担し、各自による（一部共同による）アンケート調査、ヒアリング調査、文献研究等を行った。

## 8　今後の課題・展望

平成１２年度は、テーマ別分担研究の報告およびとりまとめを行い、その成果をふまえて、高齢社会における豊かなライフスタイルの実現に向けた学習プログラム開発を行う。この学習プログラム開発は、高齢社会における個人が、それぞれの個性に応じて質の高い（生活の質 Quality of Life の高い）、心豊かで、ジェンダーに縛られないライフスタイルの選択や生活設計（とくに高齢期の生活設計）に向けて、個人学習あるいは社会教育施設や企業研修等における共同学習をすすめるうえで活用されるプログラムづくりをめざして実施するものである。

以上の研究成果は、広く高齢社会に向けての学習活動における参考資料となるよう、報告書（小冊子）にとりまとめる予定である。

（事業課研究員　伊藤眞知子）

# 地域の子育て環境づくりに関する調査研究

## 1　趣　旨

家庭教育をサポートする地域の環境作りについて、子どもの発達段階に応じた実践的、学際的調査研究を行う。

## 2　実施期間

平成１１年４月１日～平成１２年３月３１日

## 3　研究課題

（１）都市化、核家族化など社会環境の変化の中で、子育てや家庭教育の充実が大きな課題となり、行政や民間で多方面から支援の在り方が問われている。その中でも特に、子育てサークルや子育て支援グループの育成が、地域で多くの人を巻き込む広がりのある活動として注目されるようになっている。

（２）そこで本研究においては次のような視点から調査研究をすすめ、地域における家庭教育支援方策についての提言を行う。

・子育てサークル・子育て支援サークルを対象として、地域における家庭教育支援としてどのような実践が展開されているのかを把握する。

・子育てサークル・子育て支援サークルの活動内容を明確にする。

・活動を活性化しているのはどのような要因に基づくのかを明らかにする。

・子育てサークル・子育て支援サークル活動の成果と抱えている課題を明らかにする。

## 4　研究テーマ

子育てサークル・子育て支援グループ活動の実態調査

－地域における子育て支援、家庭教育支援の検討から行政支援のあり方を考える－

## 5　実施方法

### (1)　研究プロジェクトの設置

国立婦人教育会館客員研究員、研究員、専門職員等による研究プロジェクトを設置し、調査研究を行う。

### (2)　プロジェクトメンバー

安達　一寿　　十文字学園女子大学講師・国立婦人教育会館客員研究員
結城　　恵　　群馬大学教育学部助教授・国立婦人教育会館客員研究員
中野　洋恵　　事業課主任研究官
金　　朝子　　事業課専門職員
土岐　都子　　事業課専門職員
池田　淑子　　情報交流課専門職員
工藤　　晃　　情報交流課システム管理係長

※必要に応じて外部の専門家を加える

## 6　平成１１年度の研究経過

### (1)　子育て支援に関する行政施策の資料収集

文部省、厚生省の施策を中心に資料を収集。

### (2)　子育て支援に関するホームページの収集と分析

インターネット上における子育てサークル、子育て支援のホームページの調査、分析。

### (3)　観察調査の実施

対象：子育て支援プログラム
　　子育てサークル

子育てサークル形成の契機となっている行政が実施している学習機会、子育て支援プログラムを対象として、観察調査からサークル形成のプロセスを検討するとともに活発に活動している子育てサークルを対象とした観察調査、インタビュー調査から子育てサークルの活動内容、サークル活動が親に及ぼす影響等を明らかにした。

### (4)　「地域の子育て環境づくりに関する調査研究」研究協議会開催

①趣　旨

都市化、核家族化、情報化など社会環境の変化の中で子育てや家庭教育支援が大きな課題となっている。これらの課題をふまえ、これからの男女共同参画社会に向けて、子育て、家庭教育支援のあり方を考えるために、地域の子育てサークル、グループ支援に関わっている行政担当者、子育てサークル、グループのリーダー等による事業、活動報告及び意見交換の研究協議会を開催する。

②テーマ

地域における子育てサークル、グループの支援

③日　時

平成１２年3月9日（木）　１０：００～１６：００

④参加者　２６名

⑤協議内容

「子育てサークル、グループの活動と支援の現状」について報告し、「子育てサークル、グループ活動の成果」「支援する上での課題」「男性の子育て参加」「これからの子育て、家庭教育支援への要望」等について意見交換を実施した。

## 7　今後の課題・展望

観察調査、研究協議を通して、地域の実情に応じて子育て支援のあり方に大きな違いがあること、子育て支援に親のニーズが対応していない場合もあることが確認された。そこで、平成１２年度には１１年度の観察調査の成果をもとに質問項目を作成し、子育てサークルやグループ等を対象とした質問紙調査の実施を予定している。子育てサークル、グループの実状、ニーズ、課題等を明らかにすることによって地域における家庭教育支援を進める上での参考資料となる報告書をとりまとめる予定である。

（事業課主任研究官　中野　洋恵）

# 男女共同参画の視点に立った家庭教育推進方策に関する調査研究

## 1　趣　旨

幼児期から性別にとらわれず、一人一人の多様な個性や人権を尊重し、男女共同参画を高める意識や価値観を育む家庭教育推進方策の在り方について調査研究を行うとともに、男女共同参画の視点に立った家庭教育プログラムの開発、教材等を作成する。

## 2　実施期間

平成１１年５月２０日～平成１２年３月３１日
（３年計画の第２年次とする）

## 3　実施方法

### (1)　研究委員会の設置

国立婦人教育会館に研究委員会を設置し、年次計画に沿って調査研究を進めることとする。（３年計画）

①第１年次：都道府県教育委員会等の作成する家庭教育関係資料の収集と分析、家庭教育担当者を対象としたアンケート調査から担当者の意識分析を　行った。

②第２年次：家庭教育関係行政担当者や指導者を対象として男女共同参画の視点に立った家庭教育を推進するために必要な内容、方法、情報を掲載するブックレットを作成する。さらに作成した家庭教育ブックレットを　活用した研修プログラムについて検討する。

③第３年次：男女共同参画の視点に立った家庭教育関係行政担当者や指導者の養成のためのモデル研修プログラム、家庭教育学級等の学習プログラムサンプルを作成し、実験プログラムを実施する。

### (2)　研究委員会委員（６名）

| | | | |
|---|---|---|---|
| | 馬居　政幸 | 静岡大学教授 | 教育社会学 |
| （座長） | 大日向雅美 | 恵泉女学園大学教授 | 発達心理学 |
| | 小塚　淳子 | 愛知県教育委員会生涯学習課主査 | 家庭教育行政 |
| | 諸橋　泰樹 | フェリス女学院大学助教授 | 社会心理学 |
| | 山本　慶裕 | 国立教育研究所生涯学習開発・評価研究室長 | 社会教育 |
| | 中野　洋恵 | 国立婦人教育会館事業課主任研究官 | 家庭教育 |

## 4　平成１１年の研究経過（研究委員会１０回開催、作業部会５回開催）

男女共同参画の視点に立った家庭教育ハンドブックの作成

家庭教育行政担当者や子育て支援に取り組んでいる人を対象としたハンドブック（Ａ５版　56ページ）を作成した。

### 男女共同参画の視点に立った家庭教育ブックレット

**男女共同参画、はじめの一歩を家庭から**

―家庭教育事業推進のための理論と実践―

**はじめに**

**Ⅰ　理論編**

Q1　家庭教育事業を企画するときに、なぜ男女共同参画の視点を入れることが必要ですか？
　　用語：ジェンダー・バイアス
　　用語：ジェンダーに敏感な視点

Q2　世代によって男女共同参画に疑問を持つ場合がありますが、どのように考えればよいのでしょうか？
　　データ：出生率の変化とその背景

Q3　なぜ子育てをつらいと感じる母親が多いのでしょうか？

Q4　なぜ父親が育児に参加しなければならないのですか。母親が育てるのが自然ではないですか？
　　コラム：差別と区別
　　コラム：家庭内暴力と児童虐待
　　コラム：「三歳児神話」からの解放

Q5　家庭に何かがあったときに父親の毅然とした態度と決断が必要だという意見もありますが？

Q6　「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てたい」という声に対してどのように答えたらよいでしょうか？

Q7　家庭教育にどうして地域での支援が必要なのですか？

Q8　家庭教育支援をきめ細かくゆきわたらせるには、どのように工夫したらよいでしょうか

Q9　事業を成功させるために、他部局等との連携はどのようにしたらいいですか？

**Ⅱ　実践編**

①家庭教育事業の企画、運営上の工夫

②実践のためのプログラム案

1　中高校生向け「こんな家庭を21世紀に作ってみたい」
2　成人・未婚の男女向け「私の人生：これまで、そして、これから」
3　新婚期の男女、妊娠中の母親・父親向け「○○市の出産・育児情報誌をつくろう」
4　乳幼児をもつ親向け「楽しい子育て」
5　小学生の子どもをもつ親向け「子どもって素晴らしい」
6　思春期の子どもをもつ親向け「ジェンダーに敏感な親として」
7　高年期に備える親向け「家庭のライフプラン」
8　働く男性、働く女性向け「仕事と子育て、どちらも生きがい」
9　小学生の父親向け「お父さんのパワーアップ講座」
10　家庭教育支援者向け「あなたも子育て支援の力を」
11　企業の人事・福利厚生・労務管理者向け「家庭教育を支援する企業をめざして」

③家庭教育資料作成にあたってのポイント

**Ⅲ　情報編**

①男女共同参画に関する社会の動きや法制度

②参考文献一覧

## 5　今後の課題・展望

今年度作成したブックレットを広く活用していくために、家庭教育行政担当者や家庭教育支援者の養成のための研修プログラムを実験的に実施することを計画している。さらにブックレットで取り上げた家庭教育の対象別プログラムを実験プログラムとして実施し、プログラムを精緻化するとともに効果的なプログラムについて考えたい。また、最終年次として３年間の研究成果をまとめた報告書を作成する予定である。

（事業課主任研究官　中野　洋恵）

# NWEC女性情報ニューシステム＜WinetCASS＞

## 1　趣　旨

全国の各女性関連施設等においては、女性・家族に関する情報を独自のホームページやインターネットで公開する等目覚しい動きがある。各施設等から発信されているこれらの情報は、精度も高く非常に有用であるが、それぞれの情報が分散されているという状況にあり、今後のインターネット利用者の増大及び女性関連情報の活性化の観点から、女性・家族に関する情報の整備及び情報への入り口の整備が緊急の課題となっている。

そのため、会館ではこれらの女性関連情報をリアルタイムに共有できる全く新しい検索システム＜WinetCASS*（ウィネットキャス）＞を構築する。

＊URL：http//www.nwec.go.jp
＊Women's Information Network Systemと Cross Access Search Systemの略

## 2　＜女性情報ホームページCASS＞

国内外の女性情報を持っているホームページを横断的に検索するシステム。

会館があらかじめ選択した女性施設などのホームページの文字情報を収集、会館内のサーバにインデックスを作成し、それを検索する。その検索結果にリンクが張られており、利用者は、ホームページの該当する部分を直接参照することができる。一定の範囲から検索することが可能なため女性情報とはかけ離れている事柄がヒットしてくることはなく、検索先がすでにセグメントされているので、検索結果への信頼度も高い。

現在は、約80のホームページを女性関連施設、女性学関連研究所、国および関連機関、生涯学習センター、国連関係の５つのグループに分けており、１つ1つのグループだけでの検索や、いくつかのグループを組み合わせての検索も可能である。

このようにホームページを提供機関のカテゴリー別に分けたことによりさらに、必要な情報だけを検索することが可能となる。

今後も国内、海外の女性関連NGOのホームページなどを順次追加、100件程度のホームページから検索が可能になる予定。

## 3　＜女性情報CASS＞

女性関連のデータベースを検索する、最も包括的な横断検索システムで、女性情報の入り口を提供するもの。

会館作成の文献・調査データベース群、他の機関がWeb上で公開しているデータベース群（「学術情報センターWebcat」「女性と仕事の未来館ライブラリー」「横浜女性フォーラム・フォーラムよこはま情報ライブラリ」「大阪ドーンセンターライブラリー図書資料」の４件）、そして上記の「女性情報ホームページ」の３つのグループ、合わせて１０件ものデータベースを一挙に検索できる。

通常、検索条件やその入力方法、検索結果の表示もデータベースによって様々である。そこでこの＜女性情報CASS＞は、検索条件を相手先のデータベースに合うような検索式に変更、それを投げかけ検索自体は相手先データベースが行うというシステムになっている。＜女性情報CASS＞から検索条件の入力を１回行えば、いくつものデータベースを一緒に検索できるという仕組みである。

そのため、検索結果は各データベース毎の結果になり、一覧表を別途作成することはでき

ないが、各データベース毎に画面が立ち上がるので、相互に比較することが簡単にできる。

## 4　＜Winet－DB＞

会館が独自に作成しているデータベース群で、会館所蔵の文献資料のデータベース、女性に関する統計データベース、女性関連施設の概要・実施事業のデータベース、高等教育機関における女性学関連科目のデータベースがある。

統計データベースは順次新しいデータへと更新中である。

施設関連データベースは現在公開している概要部分と実施事業部分のデータを関連付け、１つのデータベースとする作業を行っている。

女性関連科目のデータベースは、現在調査中で、調査途中から順次データを公開していく予定である。

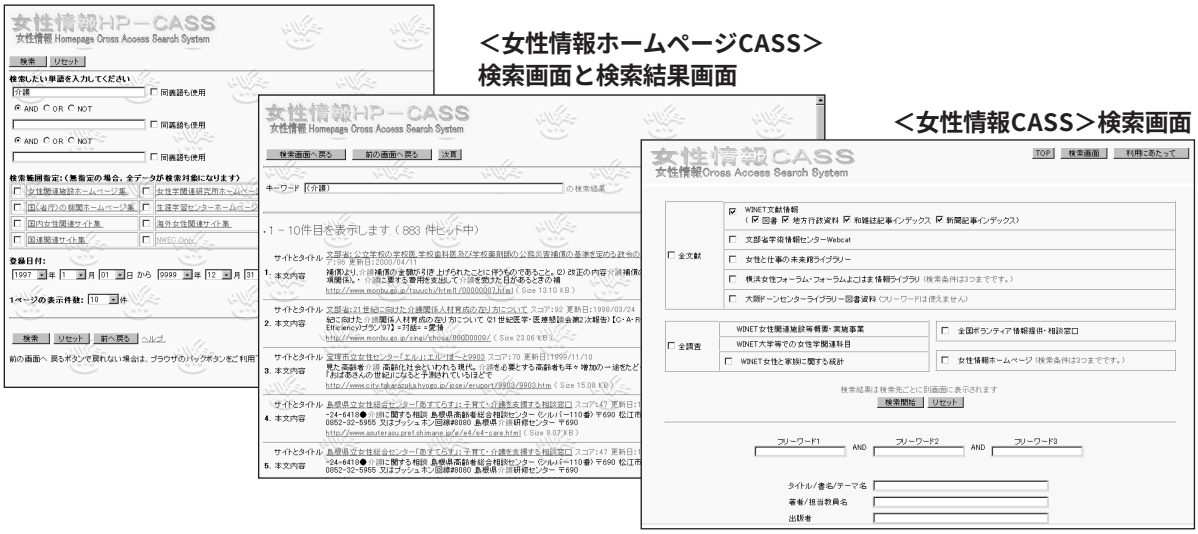
この３つのデータベースは、会館が行っている調査の結果をデータベース化してきたもので、調査終了後にデータベース化するため、どうしても公開時にはデータが古くなってしまうという欠点があった。そこで、このうちの女性関連施設と女性学関連科目のデータベースについては、リアルタイムでデータ更新ができるシステムを現在構築中である。

例えばある女性センターが、女性関連施設データベースに登録してある事項を変更したい時に、今までだと次回の調査を待たなければならなかったのが、この更新機能ができると、自施設のデータは自分たちですぐ更新できるようになる。自施設のデータをダウンロードして訂正、そのまますぐ更新、あるいはこの更新ツールで訂正した後、会館担当者へ送信すれば会館側からすぐ更新できる。

この更新機能を活かして、各施設の実施予定事業をデータ化していけば、どこの施設でどういう事業をこれからやるのか、新鮮な情報が１回の検索で居ながらにして分かるようになるわけである。

## 5　今後の課題

このように、女性情報をリアルタイムに共有できる新しい検索システムが構築されたわけだが、この新しいシステムを生かすも殺すも情報の更新スピード次第である。これは会館の目配りも大切であるが、情報提供する側にも深くかかわる問題である。情報提供者とどのようにネットワークを作っていき、この＜WinetCASS＞を発展させていくのか、これからが正念場である。




＜女性情報ホームページCASS＞
検索画面と検索結果画面

＜女性情報CASS＞検索画面

（情報交流課専門職員　池田　淑子）

# 家庭教育に関するマルチメディアデータベースの調査研究

## 1　趣　旨

家庭教育に関するマルチメディアデータベースを構築するとともに、データベースを活用した家庭教育に関する学習プログラムについて調査研究を行う。

## 2　実施期間（平成8年度から実施）

**・平成８年度**

国立婦人教育会館ホームページにおいて、家族関係の統計・調査、父親の地域活動報告、各地の活動事例等を動画・写真で見られるように提供するマルチメディアデータベースの公開。

**・平成９年度**

（１）マルチメディアデータベースの中の、家庭教育関連の統計・調査、家庭教育施策等のデータ更新、女性統計（意識調査）の検索・グラフ化。

（２）地方自治体及びその関係機関における民話・童話の出版活動及び家庭教育関連情報の提供状況、絵本資料館、更に小学生のインターネット教室等を対象として調査・取材した結果をデータベース化。

**・平成１０年度**

ホームページを利用者にとって使いやすいように全面的にデザイン変更を行うなど構成の改定を図った（フロントページからの会館紹介、新着情報の提供、各種データベースの検索、宿泊・研修施設等利用施設の空き情報の検索が可能となった）。

## 3　平成１１年度実施方法

**（1）調査研究チームの設置**

国立婦人教育会館に調査研究チームを設置し、別の調査研究事業である「地域の子育て環境づくりに関する調査研究」（Ｐ７４参照）と連携を取りながら調査研究を実施。

**（2）調査研究チームメンバー**

安達　一寿　　十文字学園女子大学講師・国立婦人教育会館客員研究員
結城　　恵　　群馬大学教育学部助教授・国立婦人教育会館客員研究員
中野　洋恵　　事業課主任研究官
池田　淑子　　情報交流課専門職員
工藤　　晃　　情報交流課システム管理係長
宮澤　紀美　　情報交流課システム管理係主任

## 4　平成１１年度の調査研究経過

（１）家庭教育・子育てに関する掲示板の作成

（２）子育てに関するホームページの調査・分析

地域で子育て・子育て支援を行っているグループを支援するため、意見交換の場として掲示板を作成し、その掲示板に連関させたリンク集を作成する。

以下に調査研究の一部を掲載する。

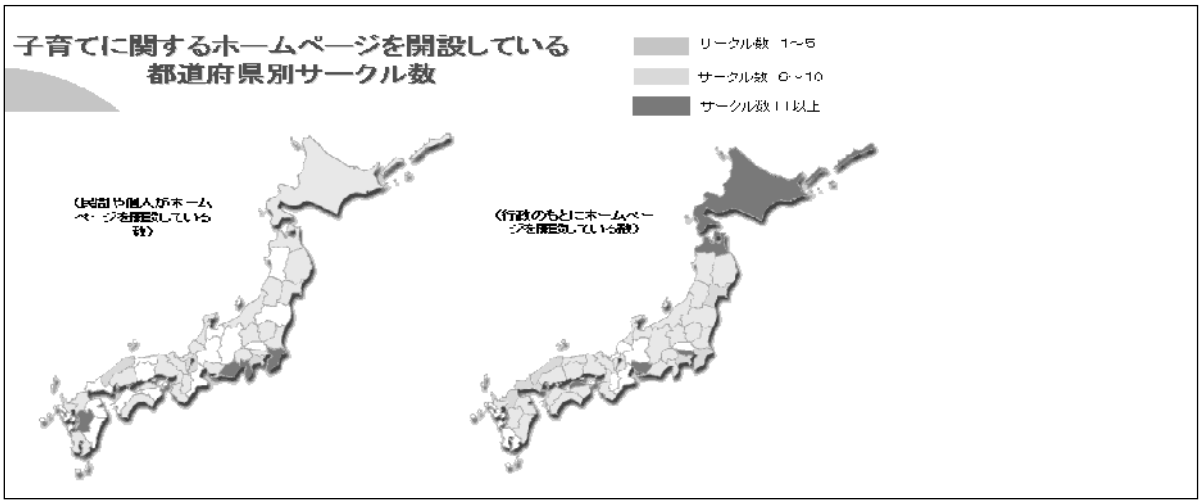



**図１　インターネット上で公開されている子育てに関するホームページの現状**
**（検索エンジンｇｏｏで収集したホームページを分析したもの）**

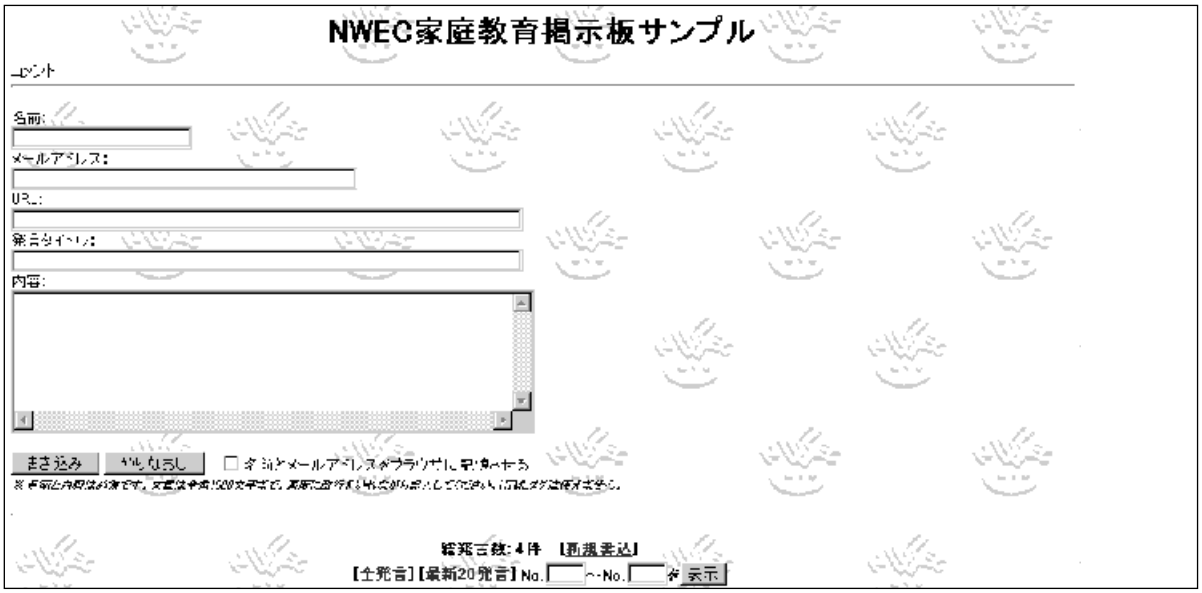



**図２　NWEC家庭教育掲示板サンプル**

## 5　今後の展望・課題

家庭教育に関するマルチメディアデータベースの利用者は、これまでのコンピュータ利用に精通した人々から初めて利用する人々に広がりつつある。今後は子育て中の親、地域の子育て支援グループ、個人の利用を促進するために家庭教育掲示板の公開、運用面での実を図り、「地域の子育て環境づくりに関する調査研究」と一層の連携を深める必要がある。

（情報交流課専門職員　池田　淑子）

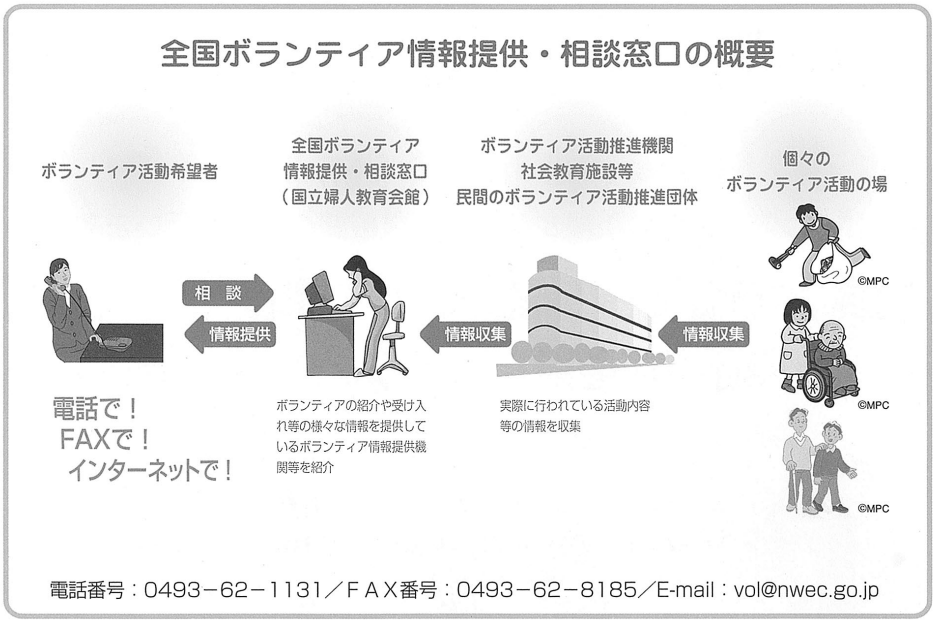
# 全国ボランティア情報提供・相談窓口事業

## 1　事業の概要

「全国ボランティア情報提供・相談窓口事業」は、文部省の委嘱を受けて実施している事業で、２月２２日から電話相談窓口を開設しました。

生涯学習振興の観点から、主としてこれからボランティア活動を始めようとする人々に対し、活動に参加する動機付けを促進し、希望に沿った活動に結びつける機会を提供するものであり、どこに問い合わせれば希望するボランティア活動の情報が得られるかについて、ボランティア情報提供機関の紹介を電話、ＦＡＸ及びインターネットにより行うこととしています。

これらの情報提供機関の内容についてはインターネットで当会館のホームページから２４時間いつでも検索することができます。




電話受付時間　　９：００～１７：００（１２月２８日から１月４日を除く毎日受付）
電　話　番　号　　０４９３－６２－１１３１（専用番号）
ＦＡＸ番号　　０４９３－６２－８１８５（専用番号）
ホームページ　　http://volunteer.nwec.go.jp/

**相談員の応対風景**

## 2　紹介できる情報提供機関等

①生涯学習センター、生涯学習ボランティアセンター、ボランティア活動に関する相談窓口
②首長部局の所管ボランティア活動推進機関
③都道府県・政令指定都市社会福祉協議会ボランティアセンター
④民間のボランティア活動推進団体
⑤「広がれボランティアの輪」連絡会議への加入団体
⑥中央青少年団体連絡協議会加盟団体
⑦その他

## 3　紹介できるボランティア活動分野等

Ａ：教育（子育て、社会教育施設の活動、青少年指導、学習指導、いじめ、学校、人権等）
Ｂ：福祉（障害者介助、高齢者介助、点字、手話、病院、患者・家族の支援、助け合い等）
Ｃ：スポーツ･レクリエーション・趣味（野外活動、書道、絵画、園芸、料理、楽器、歌等）
Ｄ：自然保護･環境保全（生態系保護、野生動物保護、エコロジー、クリーンアップ活動等）
Ｅ：地域活動（祭礼、防災、地域づくり、交通安全、災害支援等）
Ｆ：国際協力（海外支援、災害支援、在日外国人支援、帰国者支援、難民支援、翻訳等）
Ｇ：医療・メンタルヘルス（献血、アイバンク、腎バンク、骨髄バンク、いのちの電話等）
Ｈ：収集（募金、寄附、はがき、切手、テレカ、コイン、ベルマーク、グリーンスタンプ等）
Ｉ：リサイクル（古紙、ごみ、衣料、ビン、缶、せっけん、フリーマーケット等）
Ｊ：その他

## 4　スーパーバイザー及びアドバイザーの配置

事業の円滑な実施を図るため、スーパーバイザー４名、アドバイザー１名を委嘱している。

### （1）業務内容

①相談員の選考に関すること。
②相談員の研修に関すること。
③専門的事項についての指導・助言
④月１回程度の連絡会議へ出席し、指導・助言を行うこと。
⑤その他事業の実施に係る指導・助言に関すること。

### （2）スーパーバイザー及びアドバイザー

| | | |
|---|---|---|
| スーパーバイザー | 安　達　一　寿 | 十文字学園女子大学社会情報学部講師<br>（国立婦人教育会館客員研究員） |
| | 池　上　洋　子 | 全国社会福祉協議会全国ボランティア活動推進センターボランティアコンサルタント |
| | 福　山　清　蔵 | 立教大学コミュニティ福祉学部教授 |
| | 村　上　徹　也 | （社）日本青年奉仕協会事業部次長 |
| アドバイザー | 内　藤　美登里 | 東京ボランティア・市民活動センター専門員 |

## 5　事業の実施状況（2/22(火)：開始日～3/31(火)39日間の状況）

### (1)　相談件数

電話：３７８件　FAX：５９件　メール：５９件　合計：４９６件（1日約１３件）
ホームページアクセス数１３，８６０件（1日約３６０件）

### (2)　相談者類型

女性：３２１名　男性：１１８名 不明：５７名　個人：４２２件（学生７５、勤労者５８、主婦７９、シニア２２、不明１８８）　団体：７９件（ボランティア活動者１９、行政９、社会福祉協議会２、学校・教育９、医療２、その他１８、不明：３）

### (3)　相談者地域別

関東地方：２２６件　その他の都道府県：２７０件

### (4)　相談分野

A:教育 ３７件　B:福祉 １１０件　C:スポーツ･レクリエーション・趣味 １３件
D:自然保護･環境保全 １８件　E:地域活動 １０件　F:国際協力 ４０件
G:医療・メンタルヘルス １３件　H:収集 １２件　I:リサイクル １６件
J:その他（ボランティア全般、事業内容の問合せ、ホームページアドレスの照会等）１６７件

### (5)　紹介した提供機関

| | |
|---|---|
| 都道府県・政令指定都市社会福祉協議会 | ：２１７機関 |
| 民間のボランティア活動推進団体 | ：　３９機関 |
| 首長部局の所管に関する相談窓口 | ：　３６機関 |
| 生涯学習センター | ：　３３機関 |
| その他 | ：１８０機関 |

### (6)　データベース登録希望

希望件数：１１件

## 6　評価・課題

（1）この事業の実施、推進に当たっては、会館が紹介するボランティア情報提供機関との連携・協力が必要であるところから、今後連絡協議会を設置し、連絡・調整を定期的に行う必要がある。また、データベースの更新等の協力も必要不可欠である。

（2）データベースについては、市区町村などより広い範囲で、より地域に密着した身近なボランティア情報提供機関のデータベースが登録できるよう新たな調査を実施する必要がある。

（3）現在のデータベースは、ボランティア情報提供機関のデータベースをインターネット上で公開としているが、その他の個別団体からの掲載希望があった場合の取り扱いについて検討する必要がある。

（４）この事業の実施に当たっては、相談員の公募を行い、事前研修修了者のうちからスーパーバイザーの協力を得て１６名（女性１４名、男性２名）を選考し、委嘱した。事業実施までの間は相談員としての知識・役割の理解、コンピュータ実習、情報提供の相談実習、県民活動サポートセンター等への実地研修、全国ボランティア研究集会等への参加など各種の研修を行ってきたところである。

ボランティア活動に関する情報提供については、その範囲が多種多様であることから、相談員についてもそれに対応するため日頃からの研さん及び資質の向上が必要不可欠である。そのため、今後も実践的な研修を企画し、実施する必要がある。

（５）事業の円滑な推進を図るため、各方面の協力を得ながら、さらにＰＲ等に努める必要がある。

## 7　その他

ポスター・パンフレットを作成し、全国の都道府県市町村、社会教育施設、生涯学習センター、ボランティア活動推進関連機関・団体、女性施設等約２３，０００か所に配布しました。

（庶務課庶務係長　関　宗興）

（ポスター）

# 社会教育実習生等受入事業

## 1　社会教育実習生の受入れ

### (1)　趣　旨

大学で社会教育実習を受講する学生等を対象として、大学等（担当教授）との協議に基づき、主催事業の補助業務等の体験学習を通じて、婦人教育の現状及び婦人教育施設の役割について学習することを目的とした、社会教育実習生受入れ事業を実施しています。（平成１０年度から実施）。

### (2)　実習内容

①婦人教育の現状と国立婦人教育会館の役割に関する講義
②会館の事業運営についての講義
③主催事業の実施に関する業務
④受け入れに関する業務
⑤情報に関する業務
⑥その他

### (3)　１１年度受入大学・人数

４大学１４名（１０年度：１大学７名）

**平成１１年度　国立婦人教育会館社会教育実習生申請大学等一覧**

| 申請大学 | 大正大学 人間学部 | | 群馬大学 教育学部 | | 明治大学 文学部 | | 城西国際大学 人文科学研究科 | | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 女子 | 男子 | 女子 | 男子 | 女子 | 男子 | 女子 | 男子 | |
| 婦人教育施設職員のためのセミナー | | | 2 | | | | | | 2 |
| 女性学・ジェンダー研究フォーラム | 2 | | | | 1 | | | | 3 |
| 家庭・地域を担う子育てセミナー | | | | | 1 | | | | 1 |
| 男女共同参賀学習フェスティバル | 2 | | | | | | | | 2 |
| NWEC（国立婦人教育会館）国際フォーラム | | | 4 | | | | | | 4 |
| NWEC（国立婦人教育会館）アドバンストコース | | | | | | | 2 | | 2 |
| 計 | 4 | 0 | 6 | 0 | 2 | 0 | 2 | 0 | 14 |

## 2　外国人研究生及び外国人研修生の受入れ

外国人研究生及び外国人研修生について、当館の機能を活用した研究・研修活動、及び当館を拠点として国内他機関との連携による研究・研修希望者の受入を本年度から行いました。

| 氏　　名<br>（国　名） | 所　属 | 研究・研修テーマ | 受入期間 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| ミリアム　ムラセ<br>(アメリカ合衆国) | Ph.D. Student<br>Political Science<br>Massachusetts<br>Institute of<br>Technology | The State and Gender in<br>Postwar Japan | H11.11. 1～<br>H12.10.31<br>（1か年） | フルブライト<br>研究者 |
| 鄭　　逸　善<br>（大韓民国） | ソウル大学<br>教育行政官 | 女性教員の資質及ぶ地位向上<br>について<br>－大学教員を中心に－ | H11.10.27～<br>H12. 2.26<br>（4か月） | 研修生 |
| 趙　　宰　垠<br>（大韓民国） | ソウル大学<br>国際地域院協同<br>課程日本学修士<br>課程 | 日本の女性の労働 | H12. 1. 6～<br>H12. 2.20<br>(46日) | 研究生 |

## 3　評価・課題

（1）社会教育実習生の受入は、主催事業実施の際には、貴重な戦力として活躍するなど会館にとってもメリットがある。また、大学・学生側からは大変貴重な実習、経験ができたと好評であり、今後も希望する大学が増加すると考えられ可能な限り受入れを図っていきたい。

（2）外国人研究生・研修生の受入れは、今年度から初めて行ったが、研究生等からは、会館の婦人教育情報センターを利用した研究活動等が行えると好評である。

（庶務課庶務係長　関　宗興）

主催事業の運営に参加する社会教育実習生

外国人研究生、研修生
（左から趙さん、鄭さん、ミリアムさん）

# ヌエック（国立婦人教育会館）におけるボランティア活動

## 1　会館ボランティア活動の現況

会館は、昭和５２年の設立以来、ボランティアの受け入れ機関として、女性のもつ能力・技術を事業運営に活かすとともに会館ボランティアを育成してきた。当初は、地元の女性や関東近県在住の婦人教育担当経験者、婦人教育指導員の人たちへの呼びかけから始まり、受け入れ側である会館の条件整備、利用者からの要望を検討するための１年間の試行期間を経て、昭和５３年８月に登録によるボランティアの受け入れが開始された。

登録・活動を開始して以来２２年間、様々な形でボランティア活動が続けられ、平成１２年２月現在の登録者数は個人７６名（男性７名)、団体登録９グループ１２２名（男性１５名）合計１９８名（男性２２名）である。会館におけるボランティア活動は、国内外からの年間約１０万人に及ぶ会館利用者の多様な学習活動に対応した効果的な会館事業運営への協力という点において、利用者の立場に立った支援、会館事業の広報、生涯学習活動の推進等、その果たす役割は大きい。

## 2　活動の目的

会館におけるボランティア活動は、利用者の多種多様な生涯学習を支援し、かつボランティア自身の自己開発、自己実現を通して、女性の社会参加を促進することを目的としており、次の４点を基本としている。

①個人の有意性、自発性に基づき登録された活動であること。
②会館の設置目的に沿った教育・学習に関する活動であること。
③自己の能力開発、社会参加につながる活動であること。
④無償性を原則とする活動であること。

## 3　活動の内容

会館が協力を依頼する活動内容は、会館ボランティアからのアイディア・申出及び利用者からの要望をもとに会館が決定している。その活動は、多岐にわたっており、大別して次の３分野に分けることができる。

なお、本年度の主催事業の「婦人教育施設職員のためのセミナー」では、野の花を生ける、七宝焼き、切り絵、お茶会、施設周辺散策等の自由研究プログラムを担当し、「男女共同参画学習フェスティバル」においては、会館ボランティアから２名が実行委員として企画・運営に携わるとともに４０の自主企画プログラムのうち会館ボランティアが８のプログラムを実施するなど、会館の事業運営に積極的に御支援・御協力をお願いした。

①主催事業・受け入れ事業に関する活動（２月までの活動回数：約４４７回）

・主催事業運営の協力（受付、会場整理、会場案内、マイク回し、記録写真、幼児保育、テープおこし等）
・国際交流関係（空港への送迎、外国人研修生のホームスティ、ホームビジットの受け入れ日本の伝統文化紹介等）
・文化活動の実技指導（茶道、華道、伝統芸能、七宝焼、陶芸、料理、折り紙、切り絵等）

・会館の施設見学案内
・備品用具等の点検・整備
・交流・話合い（会館ボランティア活動の紹介・交流）

②情報に関する活動（２月までの活動回数：約３６８回）
・新聞・パンフレット類の整理（新聞の受入れ、受入れ済み会報類のファイル、パンフレットの整理・ファイル等）
・テーマ別文献の常設展示（テーマ図書資料のエントランスホールへの展示）
・図書の整理（ラベル・貸出し期限表の貼付等）
・広報活動（「ぼらんてぃあ婦人教育情報センターだより」「あんな本・こんな本」の作成・配布）

③広報、環境整備に関する活動（２月までの活動回数：約８９回）
・「ヌエックニュース」の発送等
・会館広報用写真の記録やＰＲ(「ヌエックニュース」「概要」「英文ニューズレター」広報に使用するための「研修活動風景」「四季の会館風景」等の写真の撮影)
・館内の環境整備、植栽の維持管理等

主催事業の受付業務

幼児室における保育

## 4　連絡会議

年４回（４・７・１０・１月）に連絡会議を開催し、ボランティア活動の連絡調整を図った。

## 5　研　修

会館では、ボランティア活動の充実・発展を図るため研修を実施している。年４回の連絡会議の際には、実践的な研修（会館の利用方法、女性学講座、データベースの検索等)と年度末に会館ボランティア活動研究会では、１年間の会館ボランティア活動を見直しするとともに、問題点を把握し次年度の新たな活動に向けてのステップとなる研修を実施した。

データベースの検索研修

## 会館ボランティア活動研究会

活動研究会の概要は次のとおりである。このプログラムの企画については、ボランティア自らがこれに当たり、当日のワークショップのコーディネーターを努めるなど活動研究会の実施にボランティア自身が積極的にかかわった。

**(1) 趣　旨**

国立婦人教育会館のボランティア活動の充実・発展を図るため、会館ボランティアを対象とした研修を行うとともに、職員との相互理解を深める機会とする。

**(2) 主　題**　「これからの会館ボランティアを考える」

**(3) 期　日**　平成１２年２月２４日(木)　～　２月２５日(金)

**(4) プログラムの概要**

**第１日　2月24日（木）**

**①開会　10:00　～　10:15**

**②情報提供等　「男女共同参画社会形成の動向について理解する」**

・情報提供　「平成１２年度の事業計画及び重点施策」　10:15 ～ 10:45

・体験学習「男女共同参画社会をめざして」　10:45 ～ 12:00

「男は仕事　女は家庭」あなたはどう思いますか。男女共同参画社会基本法・グラフ・統計資料により男女共同参画社会を考える。

**③ワークショップ　パートⅠ　「自分を振り返る」　13:00　～　15:00**

この一年間のそれぞれのボランティア活動を振り返り、学習等の成果について確認する。

講師　市民活動研修開発研修所代表　吉永　宏

**④ワークショップ　パートⅡ　「活動の場を考える」　15:15　～　17:15**

それぞれのボランティア活動の情報交換を行い、各分野の活動の課題等について討議を行う。

Ａ　主催事業関係　Ｂ　情報関係　Ｃ　国際交流関係

Ｄ　文化活動・環境関係

**⑤情報交換会　18:00　～　19:30**

夕食をともにしながらボランティアと職員相互の情報交換を行う。

**⑥自由交流　19:30　～　21:30**

各自が自由にテーマや話題を設定し、交流を図る。

**第２日　2月25日(金)**

**⑦ワークショップ　パートⅢ　「活動を提案する」　9:00　～　10:50**

各分野の活動の課題等にの討議を踏まえ、今後の活動にどのようにつなげていくか等の意見交換及び提案を行う。

**⑧スピークアウト(１人２分以内　10 人程度)　11:00　～　11:20**

この活動研究会に参加した感想を発表する。

**⑨平成12年度 会館ボランティア委嘱について　11:20　～　11:40**

**⑩閉会　11:40**

## （5） 主なプログラムの内容

**ワークショップ　パートⅠ「自分を振り返る」**

この１年間、参加者の一人一人が行ってきたボランティア活動の研究討議を通して振り返り、どのように、何に気づき、何を学んだかについて探求した。

**○探求 パート１**

一年間のボランティア活動を振り返るために、２０のチェックを行い、点数をつけ、グラフにした。そのグラフからどんなことが見えてきたかを発表した。

**○探求 パート２　シュアリングインタビュー**

この一年間を振り返って「私が気づき、学んだこと」について一人一人がワークシートに書き、その後、隣の人と話し合った。

**○探求 パート３　グループ・ハンドリング**

４人グループをつくり「この一年間を振り返り、私たちが気づいたこと」を話し合った。

・新しく登録したボランティアとの交流・連携が大切である。
・視聴覚機器など扱えるようになったことが嬉しい。
・慣れが活動を妨げる。それを解決するには、今までの活動とは違う分野の活動、新しい活動をすることにより自分を活かせる。
・新たな活動の場を職員とともに模索する必要性がある。
・友人が増えたこと、参加することの喜びを感じている。　等

**ワークショップをする吉永氏**

**○レクチャー　活動についての振り返り**

〔テーマに含まれるポイント〕
・会館ボランティア……会館は立地条件、規模、領域、内容、実績などによって多様であり、その状況にともなってボランティアの位置と役割も多岐にわたる。
・一年間のあゆみ……大きな流れと小刻みな変化の２つの側面に留意し、外的環境と会館そのものの存在状況の変化を関連させて振り返る必要がある。
・ボランティア活動と成果……活動の評価は、活動開始以前から始まる。それは、どのような基準、手がかりで評価するかというゴールを意味する。

〔振り返りの手がかり〕
・何が変わったか　　・大切な価値とは何か
・新しい発見　　・参加から参画へ

**ワークショップ パートⅡ「活動の場を考える」 パートⅢ「活動を提案する」**

**Ａ　主催事業関係**

テーマ：一人ひとりがクリエイティブな活動の場づくり

日々の活動における利用者への適切な対応の追求と新しい課題を発見し、提案した。

【提案事項】
①新しい活動
・周辺マップづくり（周辺の案内）
②ボランティア同士の円滑な交流
・ボランティアの連絡網
・ボランティアルームのよりよい活用方法
③ボランティア自身の質の向上
・自己研修

**課題をグルーピング**

**B　情報関係**

テーマ：情報センターで宝物を発見しよう！　－新たな活動の場に向けて－

情報センターで行われている活動について、参加者全員がその内容と課題を共有し今後に向けて新たな魅力ある活動を探り、提案した。

【提案事項】

①やってみたい活動

・多くの人に見てもらうようにしたい
「英字クリッピング」

・もっと知りたい情報センター
「書架点検から」

・やってみたい「新聞クリッピング分析」

・ミニコミ紙「もっと有効利用考えよう」

②最新情報を壁新聞にして知らせる。

③わかりやすい表示を考える。

④情報センターだよりをＰＲするための方法。

**魅力ある活動の場の話し合い**

**国際交流に関する情報交換**

**C　国際交流関係**

テーマ：あなたにとって国際交流とは

この分野で活動するボランティア同志の意見・情報の交換をし、国際交流にとって大切なことをランキングの手法で話し合った。

【提案事項】

①学習会の実施。

②施設見学の英語版をつくる。

**D　文化活動・環境関係**

テーマ：パンフレットをみんなでつくりましょう

今まで個々に活動してきての反省をもとにボランティア・会館職員・会館利用者との共通理解をし、パンフレットを考えた。

【提案事項】

①パンフレットづくり

**パンフレットづくり**

スピークアウト

この研究会で学んだこと、感想等を発表した。

・ボランティア活動を続けることで力がつく。

・人と出会うことが自分の宝になる。

・主催事業等に参加し、発見、出会い、学び、育ちがあり、行動することで新たな目標が見つかる。

## 6　ボランティアの受け入れ

６月、１０月の２回会館ボランティアの活動説明会（会館の設置目的・事業内容についての説明、会館ボランティアの方々の体験発表等）を行い、新しいボランティアを募集し、新たに会館ボランティアとして活動を希望する者を仮登録者として受入れている。仮登録者については、仮登録の３ケ月間に体験的な研修を行った後、本登録をすることとしている。研修内容は、会館ボランティア活動の理解・施設見学案内・基礎的な視聴覚機器の使い方・英字新聞クリッピングの方法・ヌエックニュース発送・主催事業への協力等である。

## 7　自主活動

会館ボランティアは各自の活動以外に独自に学習グループを組織し、会館における活動に必要な知識や能力を高めるための学習を自主的に進めている。現在４グループが活動している。

**(1)　ヌビック**

１９９９年に発足し、会館ボランティアの活動分野を超えたネットワークを作ることを目的として交流、「ヌビックだより」の作成等を中心として活動した。

**(2)　なごみグループ**

１９７９年に発足し、主に主催事業や受け入れ事業にかかわる者で結成されたグループである。主催事業の参加者への情報提供を目的とした「ようこそヌエック」への作成等自主的な活動を行っている。

**(3)　Ｊ・Ｔ・Ｖグループ**

１９８０年に発足し、婦人教育情報センターで図書資料の整理、新聞クリッピングの分類・整理情報センターのＰＲ活動にかかわるボランティアの活活動のための研修・情報交換を行っている。「情報センターだより」「あんな本こんな本」を発行している。

**(4)　文化活動グループ**

１９９７年に発足し、茶道、華道等の文化活動にかかわるボランティアの親睦と情報交換を目的として活動している。

## 8　その他

地域におけるボランティア活動研修会のプログラムの一環として、会館ボランティアとの交流を希望する利用者が増えている。本年度は、県・市教育委員会、生涯学習センター、総合教育センター等の機関から交流の申し込みがあり、実際のボランティア活動の紹介、情報交換を行った。

（事業課専門職員　金　朝子）

**平成11年度ヌエック（国立婦人教育会館）**

**主 催 事 業 実 施 報 告 書**

平成12年3月

編集・発行　国立婦人教育会館
〒355－0292
埼玉県比企郡嵐山町大字菅谷728番地
TEL　0493-62-6711
FAX　0493-62-6720

印刷・製本　青松社

NWEC

シンボルマーク
「両手を空に掲げ、希望に燃える女性像をデザイン化」したものです。